御所野遺跡Ⅳ

2013.3

一戸町教育委員会

一戸町文化財調査報告書第68集

御所野遺跡Ⅳ

２０１３．３

岩手県二戸郡一戸町
一戸町教育委員会

序

一戸町教育員会では、平成21年度から中央部の盛土遺構の調査を実施してまいりました。

調査の目的は、盛土遺構の形成過程とその性格を明らかにすることでしたが、４年間の調査で、多くの情報が得られました。

平成21・22年には、三内丸山遺跡の特別研究として「三内丸山遺跡などの盛土遺構の研究」が採択され、当教育委員会の担当者もその一員として参加し、各地の遺跡と比較研究をしながら、多角的に研究したこともあり、予想以上の成果を挙げることができました。

調査にあたっては、御所野遺跡指導委員の先生方や各地の研究者からご指導をいただいております。なかでも岡村道雄先生からは野外での発掘調査だけではなく、遺物の整理まで直接ご指導を賜りました。ここに衷心より御礼申し上げます。

現在、御所野遺跡は、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産のひとつとして、ほかの遺跡とともに世界文化遺産の登録を目指しております。世界遺産の登録では、遺跡の普遍的な価値をきちんと説明することが求められておりますが、今回の調査成果がその一助になるものと確信しております。

一戸町教育委員会では、今後も御所野遺跡の調査研究を続けながら、その内容を町民の皆様に説明していきたいと考えておりますので、今後共ご支援賜りますようよろしくお願いいたします。

平成25年３月

一戸町教育委員会
教育長　　遠　藤　裕　一

例　　言

1　本書は、平成19年度、平成21～24年度に実施した御所野遺跡の発掘調査報告書である。
一戸町教育委員会がこれまでに刊行した御所野遺跡関係の発掘調査報告書は下記の通りである。
1991『御所野遺跡－平成２年度御所野遺跡発掘調査概報－』一戸町文化財調査報告書第26集
1992『御所野遺跡－平成３年度御所野遺跡発掘調査概報－』一戸町文化財調査報告書第29集
1993『御所野遺跡Ⅰ－縄文時代中期の大集落跡－』一戸町文化財調査報告書第32集
2004『御所野遺跡Ⅱ』 一戸町文化財調査報告書第48集
2004『一戸城跡・御所野遺跡・野里遺跡－平成15年度町内遺跡発掘調査報告書－』一戸町文化財調査報告書第49集
2006『御所野遺跡Ⅲ』一戸町文化財調査報告書第53集
2006『御所野遺跡－平成16、17年度町内遺跡発掘調査報告書－』 一戸町文化財調査報告書第54集
2009『御所野遺跡・馬場平遺跡－平成19・20年度町内遺跡発掘調査報告書－』 一戸町文化財調査報告書第64集

2　遺跡名・遺跡略号・所在地は、次の通りである。
遺跡名：御所野遺跡
遺跡略号：ＧＳＮ
所在地：岩手県二戸郡一戸町岩舘字御所野

3　御所野遺跡の調査を実施するにあたり、平成19～22年度には御所野遺跡植生復元整備指導委員会、平成23年度からは御所野遺跡指導委員会の委員の先生方から全般にわたってご指導いただいた。指導委員の先生方は下記の通りである。記して感謝申し上げる。
岡村道雄（御所野遺跡植生復元整備指導委員会委員・御所野遺跡指導委員会委員長）
辻誠一郎（御所野遺跡植生復元整備指導委員会委員長・御所野遺跡指導委員会委員）
山田昌久（御所野遺跡植生復元整備指導委員会委員・御所野遺跡指導委員会委員）
湯本貴和（御所野遺跡植生復元整備指導委員会委員・御所野遺跡指導委員会委員）
大矢邦宣（御所野遺跡植生復元整備指導委員会委員）
平澤毅（御所野遺跡指導委員会委員）

4　調査および報告書作成にあたり、次の方々および機関から御指導・御協力を賜った。記して感謝申し上げる（順不同・敬称略）。
文化庁、岩手県教育委員会、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、二戸市教育委員会、水ノ江和同（文化庁）、小林克（秋田県埋蔵文化財センター）、斉藤慶吏・岩田安之（三内丸山遺跡保存活用推進室）、阿部千春・福田裕二・吉田力（函館市教育委員会）、菅原弘樹（奥松島縄文村歴史資料館）、川田強（南相馬市教育委員会）、八木勝枝（岩手県立博物館）、菅野智則（東北大学）、神原雄一郎（大船渡市教育委員会〈盛岡市教育委員会派遣〉）、星雅之（公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター）、千葉正彦・戸根貴之（岩手県教育委員会）、熊谷常正（盛岡大学）、桐生正一（滝沢村埋蔵文化財センター）、小沢清男（千葉市教育委員会）、小川勝和（流山市博物館）、鈴木正博（早稲田大学先史考古学研究所）、阿部昭典・中村耕作（國學院大學）、村本周三（斜里町埋蔵文化財センター）、大野亨・小久保拓也・横山寛剛（八戸市教育委員会）、山本総光（東京大学大学院）、黒田篤史（遠野市教育委員会）、佐々木由香（株式会社パレオ・ラボ）、富樫雅彦（武蔵大学）、川向聖子（山田町教育委員会）、八木光則（宮古市教育委員会〈盛岡市教育委員会派遣〉）

5　調査主体者　一戸教育委員会

6　発掘調査・報告書作成の体制

総括：遠藤裕一（教育長）

高田和徳（御所野縄文博物館館長）、平野克己（御所野縄文博物館館長補佐）

事務担当者：（平成19・23・24年度）中村明央、（平成21・22年度）中島恭伸・田村真之

調査担当者：（平成19年度）八重樫美奈・久保田滋子、（平成21～24年度）菅野紀子・久保田滋子

野外調査：市橋光子、木村由美子、苗代沢優子、野辺地智代子、沢久保智恵子、峠ツエ、根反早百合、山田梅子、下村昭男、堂ノ前喜一、永瀬光男、長谷川正男、泉久保勝幸、切岸恵、外岡レイ子、根口イト、姉帯キミ、駒木スミ、川岸トワ、泉田ヨシノ、金田タマ、滝口アサ、後藤恵子

室内整理：市橋光子、木村由美子、苗代沢優子、野辺地智代子、沢久保智恵子、峠ツエ、根反早百合、山田梅子、工藤雅子、松田真美子、東野絵美、鈴木雪野、澤口亜希、三浦登代子、中村久美子、藤原順、長谷川正男、姉帯順一、田頭克美

7　石器・石製品の石質鑑定は川守田浩氏（元一戸町文化財調査専門委員）に依頼した。

8　以下の資料の鑑定・分析については、次の方々に依頼し、玉稿を賜った。

動物遺存体：西本豊弘氏（国立歴史民俗博物館）

植物遺存体：辻圭子氏（元御所野縄文博物館嘱託研究員）

9　土壌微細形態分析・植物珪酸体分析・縄文土器の胎土分析については、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。

10　遺物の写真撮影は稲野彰子氏（いろは写房）に委託した。

11　本書に掲載している遺構実測図・遺物実測図の用例は下記の通りである。

（1）遺構実測図の縮尺は基本的に次の通りである。ただし、一部異なるものもあるため各図にスケール及び縮尺を付した。

竪穴住居跡・土坑・柱穴→1／50

（2）層位の表記には、基本層序にローマ数字、各遺構堆積土・トレンチ層序に算用数字を使用した。

（3）土層の色調観察には『新版標準土色帖』（1993　小山・竹原編著）を参考にした。

（4）遺物実測図の縮尺は基本的に次の通りである。ただし、一部は異なるものもあるため各図にスケールおよび縮尺を付した。

縄文土器・弥生土器→1／3、土製品→1／2

剥片石器→2／3、礫石器・石製品→1／3

（5）図中で使用したスクリーントーンの主な用例は次の通りである。これ以外の使用箇所については各図に用例を表記した。

焼土　**硬化面**　**火山灰**　サンプリング地点　**付着物**

12　遺跡位置図には『一戸都市計画図』（1/10,000）を使用している。

13　本書の編集・報筆は菅野紀子・久保田滋子が担当した。

14　出土した遺物および諸記録は御所野縄文博物館に保管している。

15　平成21～24年度調査に関しては、本報告書がこれに先立つすべての資料・文献等に優先する。

目　　次

Ⅰ　遺跡の位置と環境 …… 1
　1　遺跡の位置 …… 1
　2　地形・地質 …… 1
　3　周辺の遺跡 …… 1
Ⅱ　調査に至る経過 …… 3
　1　これまでの発掘調査 …… 3
　2　調査に至る経過と調査の目的 …… 4
Ⅲ　調査と整理の方法 …… 6
　1　調査区の設定 …… 6
　2　調査の方法 …… 6
　3　遺物の整理方法 …… 7
　4　調査の経過 …… 7
Ⅳ　調査内容 …… 12
　1　基本層序 …… 12
　2　Ⅳ区 …… 13
　3　Ⅳ区東トレンチ …… 30
　4　Ⅳ区西トレンチ1 …… 36
　5　Ⅳ区西トレンチ2 …… 40
　6　配石トレンチ …… 42
　7　配石南トレンチ …… 43
　8　縄文の森 …… 47
　9　出土遺物 …… 54
Ⅴ　自然科学分析 …… 111
　1　御所野遺跡出土の動物遺体（平成21年度～平成23年度） …… 111
　2　御所野遺跡盛土遺構における出土種実遺体に関する考察 …… 112
　3　調査地点の層序と盛土遺構の形成過程 …… 125
　4　縄文時代以降の植生と植物利用 …… 141
　5　御所野遺跡出土縄文土器の胎土分析 …… 148
Ⅵ　総括 …… 166

報告書抄録 …… 169

図版目次

第１図　御所野遺跡と周辺の遺跡 …… 2
第２図　調査区配置図 …… 5
第３図　御所野遺跡
国指定史跡範囲・調査区位置図…… 9
第４図　Ⅳ区調査区位置図 …… 10
第５図　縄文の森調査区位置図 …… 11
第６図　Ⅳ区遺構配置図 …… 15
第７図　Ⅳ区断面図 …… 17
第８図　FH48・FH46トレンチ（１） …… 25
第９図　FH48・FH46トレンチ（２） …… 26
第10図　FJ46トレンチ（１） …… 27
第11図　FJ46トレンチ（２） …… 28
第12図　GA44・GB44トレンチ …… 29
第13図　Ⅳ区東トレンチ（１） …… 33
第14図　Ⅳ区東トレンチ（２） …… 34
第15図　Ⅳ区東トレンチ（３） …… 35
第16図　Ⅳ区西トレンチ１（１） …… 38
第17図　Ⅳ区西トレンチ１（２） …… 39
第18図　Ⅳ区西トレンチ２ …… 41
第19図　配石トレンチ …… 44
第20図　配石南トレンチ …… 46
第21図　縄文の森　１トレンチ …… 50
第22図　縄文の森　２・３トレンチ …… 51
第23図　縄文の森　４・５トレンチ …… 52
第24図　縄文の森　６～８トレンチ …… 53
第25図　Ⅳ区出土土器（１） …… 57
第26図　Ⅳ区出土土器（２） …… 58
第27図　Ⅳ区出土土器（３） …… 59
第28図　Ⅳ区出土土器（４） …… 60
第29図　Ⅳ区出土土器（５） …… 61
第30図　Ⅳ区東トレンチ出土土器（１） …… 62
第31図　Ⅳ区東トレンチ出土土器（２） …… 63
第32図　Ⅳ区西トレンチ１出土土器（１） …… 64
第33図　Ⅳ区西トレンチ１出土土器（２） …… 65
第34図　Ⅳ区西トレンチ１出土土器（３） …… 66
第35図　Ⅳ区西トレンチ２出土土器 …… 67
第36図　土製品 …… 68
第37図　Ⅳ区出土石器（１） …… 72
第38図　Ⅳ区出土石器（２） …… 73
第39図　Ⅳ区出土石器（３） …… 74
第40図　縄文の森１～８トレンチ出土土器・石器
…… 75
第41図　胎土分析土器 …… 165

写真図版目次

写真図版１　Ⅳ区（１） …… 89
写真図版２　Ⅳ区（２） …… 90
写真図版３　Ⅳ区（３） …… 91
写真図版４　Ⅳ区（４） …… 92
写真図版５　Ⅳ区（５） …… 93
写真図版６　Ⅳ区（６） …… 94
写真図版７　Ⅳ区（７）、Ⅳ区東トレンチ（２）
…… 95
写真図版８　Ⅳ区東トレンチ（３）、Ⅳ区西トレンチ１（１）…… 96
写真図版９　Ⅳ区西トレンチ１（２） …… 97
写真図版10　Ⅳ区西トレンチ２ …… 98
写真図版11　配石トレンチ、配石南トレンチ
…… 99
写真図版12　縄文の森　１～５トレンチ …… 100
写真図版13　縄文の森　６～８トレンチ …… 101
写真図版14　出土遺物（１） …… 102
写真図版15　出土遺物（２） …… 103
写真図版16　出土遺物（３） …… 104
写真図版17　出土遺物（４） …… 105
写真図版18　出土遺物（５） …… 106
写真図版19　出土遺物（６） …… 107
写真図版20　出土遺物（７） …… 108
写真図版21　出土遺物（８） …… 109
写真図版22　出土遺物（９） …… 110

Ⅰ　遺跡の位置と環境

遺跡の位置と環境については、これまでの報告で記述しているので、ここでは概略を記述する。

1．遺跡の位置（第１図）

遺跡は岩手県二戸郡一戸町岩舘字御所野に位置する。岩手県の内陸北部に位置する一戸町は総面積の70％以上を山林原野で占め、町の中央を北流する馬淵川とその支流域に小規模な集落が分布する典型的な山間地である。このうち、遺跡は町北部の岩舘地区に位置しており、いわて銀河鉄道（IGR）一戸駅から南東に1.6㎞、東北自動車動八戸線の一戸インターから南に３㎞ほど離れている。遺跡周辺は南北４㎞、東西２㎞の盆地となっているが、遺跡はその東南端の一戸段丘（洪積段丘）に立地しており、背後は岩舘段丘から山地へと連続している。谷底平野の一部は市街地となり、その周辺が水田地帯、遺跡と同じ洪積段丘の多くは畑地となっている。

2．地形・地質

遺跡は東西500m、南北120m の東西方向に細長く突き出た標高190～200mの段丘面に立地している。西方500mには馬淵川、南北の崖下には根反川、地切川がありそれぞれ小谷となっている。馬淵川との比高差はおよそ50m、根反川、地切川沿いは20～40mを越す断崖となっている。遺跡はほぼ全面が平坦で、東西両端でも10mの高低差しかなく、西側の段丘先端部は東から西、東側では南から西への緩斜面となっている。遺跡の西側には谷底平野が開け、その前方の馬淵川を隔てた北西方向には周辺で最も高い、標高382mの茂谷山を見渡すことができる。

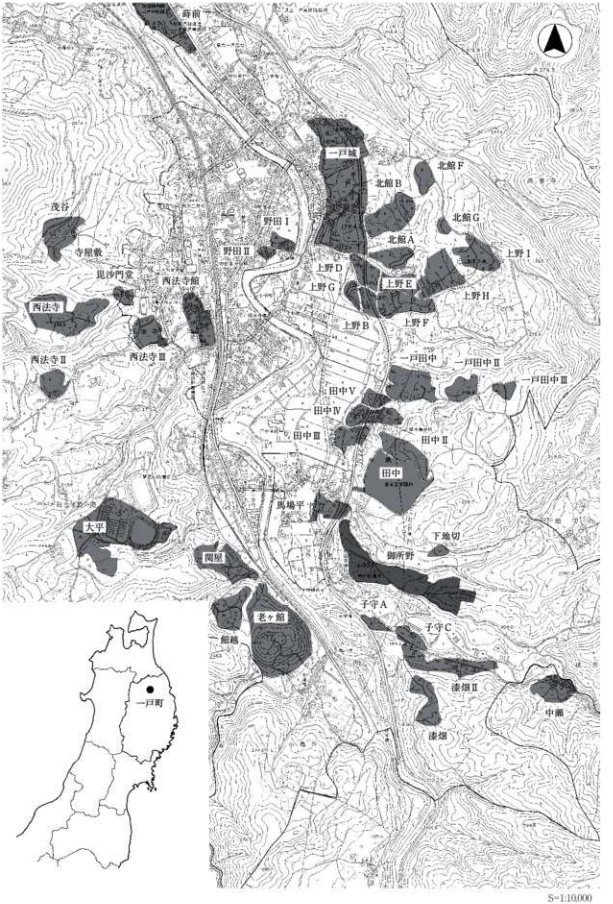
一戸段丘は松山力（松山1981）により区分された洪積段丘で、盆地最南端の子守付近から北端の鳥越周辺まで300～500m幅で連続している。比較的解析の進んだ段丘で所々東西方向に小谷が入り分断されている。いずれも東から西に緩やかな傾斜を持つ丘陵性の段丘であるが、遺跡周辺は珍しく起伏も少なく平坦である。一戸段丘の基盤層は十和田火山灰の大不動浮石流凝灰岩層で、西側20m下の同じ洪積段丘で八戸浮石流凝灰岩層を基盤とする福岡段丘とは区別される。この福岡段丘に位置するのが馬場平遺跡である。

3．周辺の遺跡（第１図）

御所野遺跡の北側に位置し、現在は工業団地となっている田中遺跡は、平成３～５年度の発掘調査で予想以上の集落の広がりを確認した。調査面積は26,700㎡で、縄文時代の竪穴住居跡100棟、古代の竪穴住居跡45棟を調査した。縄文時代の竪穴住居跡は、一部中期中葉と後期前葉のものも含まれるが、大半は中期末から後期初頭のものであり、御所野遺跡との関連も考えられる。このほか、陥穴状土坑20基、その他の土坑216基を検出している。土坑からの出土遺物は少なく時期を特定するのは難しいが、中期末から後期と晩期中葉の土坑群である（一戸町教委　2003）。

御所野遺跡の対岸に位置する大平遺跡は、現在野球場、陸上競技場などを有する運動公園として町民に利用されている。公園建設に伴う発掘調査では、調査面積33,000㎡で、縄文時代中期末から後期を中心とした竪穴住居跡を131棟、陥穴状土坑19基、その他の土坑184基などを検出している。縄文時代の遺構は御所野遺跡に併行、あるいは後続するものである（一戸町教委　2006）。

下地切遺跡は、御所野遺跡と谷を隔てた北側に位置し、現在は御所野縄文博物館の駐車場となっている。造成工事に伴う発掘調査では、調査面積3,882㎡で、縄文時代中期末から後期初頭の竪穴住居跡18棟などを検出している（一戸町教委　2008）。



S=1:10,000

第１図　御所野遺跡と周辺の遺跡

Ⅱ　調査に至る経過

1．これまでの発掘調査（第２図）

御所野遺跡の発掘調査は平成元年度に始まった。一戸町農村工業団地の開発に伴うもので、平成元年７月から試掘調査を開始した。まもなく古墳群と縄文時代の配石遺構群を検出し、９月から本調査を開始した。平成２～４年度は遺跡の保存を目的とした範囲確認調査を行い、平成５年12月21日に国指定史跡となった。平成６～17年度には遺構復元を目的とした内容確認調査を行った。平成15～17年度には遺跡東側の丘陵地の『縄文の森』において範囲確認調査を行い、平成18年度に史跡の追加指定を受けている。その後、遺跡の東西でさらに範囲確認調査を行った。

各年度の主な調査内容は以下の通りである。

調査年度	調査地区	調査区	調査内容
平成元年度	中央調査区		古墳群・配石遺構群の検出
平成２年度	中央調査区		配石遺構群の調査
		梨林	トレンチを設定・遺構調査
		Ⅰ区	GH68-01竪穴住居跡調査
		Ⅲ区	EF34-01竪穴住居跡調査
	西側調査区		遺構確認調査
平成３年度	中央調査区	Ⅳ区	GB44トレンチ調査
			GB44-01竪穴住居跡調査
	東側調査区		トレンチを設定
		２調査区	HB120、HD114竪穴住居跡調査
平成４年度	中央調査区	Ⅳ区	遺構確認調査
			FH48・FH46・FJ46・GA44トレンチ調査
			FH48-01竪穴住居跡調査
			炉跡、埋設土器調査
		Ⅱｂ区	FE52トレンチ
			墓壙、掘立柱建物跡調査
			FA52・FB52・FB54・FE50・FE52・FG50トレンチ 配石調査
平成６年度	中央調査区	Ⅰ区	竪穴住居跡調査
		Ⅱｂ区	FF48トレンチ調査
		Ⅲ区	遺構確認調査
平成８年度	東側調査区	１調査区	遺構調査
	西側調査区		焼失住居跡等調査
平成９年度	東側調査区	２調査区	遺構調査
	西側調査区		焼失住居跡等調査
平成10年度	東側調査区	１・３調査区	遺構調査
	中央調査区	Ⅰ区	遺構調査
		Ⅳ区	遺構確認調査
平成11年度	中央調査区	Ⅱｂ区	遺構調査
平成12年度	中央調査区	Ⅱｂ区	遺構調査
平成14年度	中央調査区	Ⅱａ区	遺構調査
平成15年度	縄文の森		内容確認調査
	中央調査区	Ⅴ区	遺構調査
平成16年度	縄文の森		範囲確認調査
	中央調査区	Ⅴ区	遺構調査
平成17年度	中央調査区	Ⅱａ区	遺構調査
		Ⅴ区	遺構調査
	縄文の森		範囲確認調査
平成19年度	縄文の森		指定地外にて範囲確認調査　（※報告調査）
	西側調査区	西Ⅰ～Ⅳ調査区	遺構調査
平成20年度	馬場平遺跡		内容確認調査
平成21～24年度	中央調査区	Ⅳ区ほか	内容確認調査　（※報告調査）

2．調査に至る経過と調査の目的

（1）平成21～24年度　「盛土遺構」の発掘調査

先に述べたように、御所野遺跡では平成元年度から発掘調査が行われているが、集落構造とその変遷の解明には多くの課題がある。特に遺跡の中央部（Ⅱa、Ⅱb、Ⅴ区）においては、配石遺構の下に、縄文時代中期中葉～末葉の多くの遺構が検出されており、それらの遺構が激しく重複する様子が確認されている。しかし、これらの遺構群の構造と変遷についても不明な点が多い。

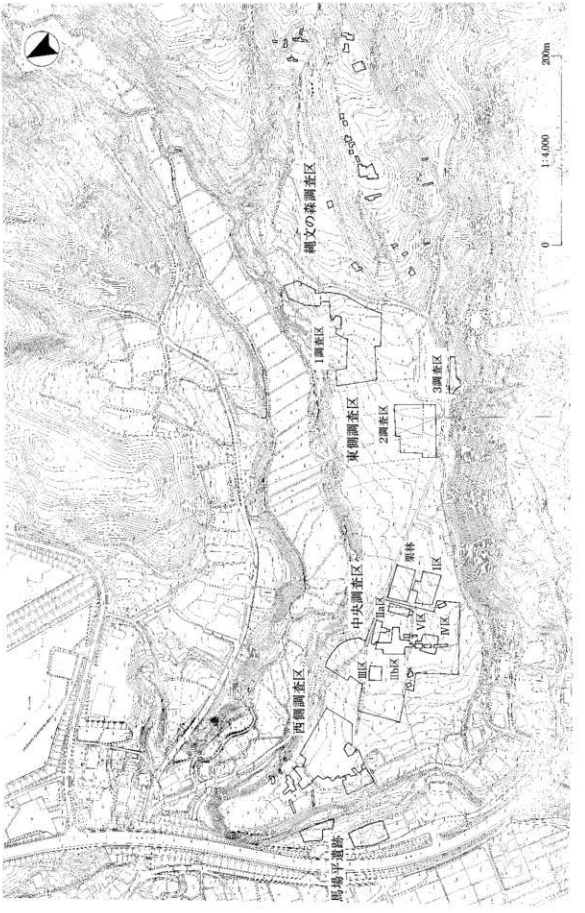
配石遺構の南側に広がると考えられているのが「盛土遺構」である。平成４年度にFH48・FH46・FJ46・GA44トレンチの調査を行ったところ、遺物が多量に出土するとともに、Ⅲ層より上に、Ⅲ～Ⅴ層起源の黄褐色土や黒褐色土が基本土層とは逆転して堆積していると確認された。それに対し、配石遺構周辺ではⅢ～Ⅴ層を欠いていると確認された。これらのことから、「盛土遺構」は配石遺構周辺の土を削平し、それを南側に盛土したものと考えられた。また、獣骨や炭化種実などが多量に出土することから「盛土やその周辺では、獣骨を使った祭祀が取り行われていた可能性が強い」と指摘された（『御所野遺跡Ⅰ』）。平成10年度にはFH46・FJ46・GA44トレンチ周辺に新たに設定されたⅣ区において調査が行われたが、詳しい内容把握には至らなかった（『御所野遺跡Ⅲ』）。

そのため、平成21～24年度の調査では、「盛土遺構」の内容や形成過程を確認することを目的として調査を進めた。調査の主な課題は、①遺跡中央部における層序の把握　②盛土遺構の範囲確認　③重複する遺構との層位的な関係の把握　④盛土遺構の形成過程の把握の４点である。

（2）平成19年度　「縄文の森」における発掘調査

平成16・17年度に範囲確認調査を実施している。調査を行ったのは御所野遺跡（標高190～200m）の東側の丘陵地の「縄文の森」と呼ばれる場所で、標高213～234mの21,167㎡である。この調査結果は『御所野遺跡―平成16、17年度町内遺跡発掘調査報告書』（一戸町文化財調査報告第54集）で報告している。

平成19年度の発掘調査は、7月から9月に「縄文の森」の追加指定部範囲のさらに東側の標高225.5～239mの山地斜面で、遺跡の範囲確認調査を実施した。


縄文の森調査区
1調査区
東側調査区
2調査区
3調査区
栗林
中央調査区
IIIaK
IIIbK
IIIcK
IIK
IVK
VK
西側調査区
馬場平遺跡
0
1:4,000
200m

第２図　調査区配置図

Ⅲ　調査と整理の方法

1．調査区の設定（第３・４・５図）

平成21～24年度の調査では、先に述べた調査目的のために、遺跡の中央部に６つのトレンチ（Ⅳ区、Ⅳ区東トレンチ、Ⅳ区西トレンチ１、Ⅳ区西トレンチ２、配石トレンチ、配石南トレンチ）を設定した。このうち、Ⅳ区は平成４年度に調査が行われたFH48・FH46・FJ46・GA44トレンチを含み、平成10年度に設定・調査が行われたトレンチである。今回の調査では、まずこのⅣ区を再掘し、調査を行った。さらに、盛土遺構の範囲や重複する遺構との層位的な関係を把握するため、残りのトレンチを順次設定し、調査を行った。

平成19年度に行われた「縄文の森」の調査では、１～８のトレンチを設定した。１～３のトレンチは標高237～239mの東西45m、南北15mの緩斜面に設定し、トレンチ４～６は標高220～226mの沢部分の南東から北西に36m、北東から南西に18mに設定した。この沢は標高192mの地切川に続いている。トレンチ７・８は標高225.5～227.5mの東西10m、南北15mの緩斜面に設定した。

2．調査の方法

グリッド設定（第３図）

平面座標は平成元年度から同一の座標系を使用し、遺構の平面座標は平面直角座標第Ｘ系を座標変換した調査座標で表示した。

調査座標原点　　X = RX －22,129　= RX ±0

Y = RY ＋40,414　= RY ±0

グリッドは、これを起点とし、遺跡全体を60×60mの大グリッドを設定し、さらにこれを６×６mの小グリッドに区割りしている。大グリッドは、起点から、北から南へA・B・C・・・のアルファベットを付し、小グリッドは、起点から西から東へ２・４・６・・・の算用数字、北から南へA～Jのアルファベットを付している。グリッドの呼称は「GA46」などのように、それらの組み合わせとする。

遺構の精査、遺構の名称

遺跡保護のため、遺構の掘り下げは最小限にとどめ、掘り下げの際は二分法や四分法を用いて行った。今回の調査で新たに検出し一部でも掘り下げを行った縄文時代の竪穴住居跡や土坑には、従前の方法に沿い、グリッド名を付して「FJ46-02竪穴住居跡」のように遺構名を付した。このほかの時代の土坑や柱穴についてはトレンチごとに連番で遺構名を付した。なお、Ⅳ区と配石トレンチにおいて検出のみ行った遺構については、1～の仮遺構№を付した。

写真撮影は35mm判カメラ（カラーリバーサル、カラーネガ）、デジタル一眼レフカメラを使用した。

遺物の取り上げ

遺物の取り上げは遺構単位、グリッド単位で、層位ごとに取り上げた。グリッド単位で遺物の取り上げを行う際は、６×６mの小グリッドを、さらに１×１mごとに36分割し、この単位ごとに取り上げた。この１×１mの区割りには北西から東へ①～⑥、一列南へ下がって⑦～⑫のように、①～㊱の算用数字を付し、「GA46①」などのように、グリッドと組み合わせて表記した。

微細遺物の回収方法

Ⅳ区で精査したFJ46-02竪穴住居跡は全体の1/3程度を掘り下げた。この竪穴住居跡の堆積土には、多くの縄文土器、石器、剥片・チップ、炭化物粒、獣骨片などが混入しており、この中にさらに多くの微細遺物が残存している可能性が想定された。このため、FJ46トレンチC-C゛断面（第10図）から約50cm幅で設定したベルト部分については、乾燥ふるい法とフローテーション法を用い、微細遺物の回収に努めた。まず、

調査現場において、層位ごとに掘り下げた土をすべて3㎜の篩を用いて乾燥ふるい選別を行った。また、層ごとに1ℓずつサンプリングしたものについてはフローテーションを実施した。浮遊物、沈殿物の回収には0.5㎜の篩を用いた。ここで検出した遺物を含むFJ46-02竪穴住居跡の堆積土から取り上げ、分類した剥片・チップの詳細は第Ⅳ章第9節を参照していただきたい。

また、多量の炭化物が出土したⅣ区FJ46-01竪穴住居跡、Ⅳ区東トレンチGE56-02・05土坑の堆積土についても、一部、フローテーションを実施した。

3．遺物の整理方法

室内整理は発掘調査終了後から御所野縄文博物館で行った。

遺物は、水洗、注記、接合、重量計測、分類などの作業を経たのち、仮番号を付し台帳登録を行い、掲載遺物の抽出を行った。なお、接合に際して、過去の調査で出土した遺物との接合は試みていない。

土器・土製品は完形、略完形のもの、器形全体が判断できるもの、破片資料は口縁部が残存するものを優先して、実測図の作成を行い、掲載した。代表的な遺物については写真撮影を行った。石器・石製品は、全点について遺物観察表を作成した。各器種の代表的な遺物については、実測図の作成、写真撮影を行った。

なお、遺物の分類については、第Ⅳ章9節において詳述する。

4．調査の経過

Ⅳ区

平成21年7月15日から調査を開始した。埋め戻し土を除去した後、調査前の全景写真撮影を行った。その後、基本層序を把握するためGA44トレンチ東隅を深堀した。また、FJ46-02竪穴住居跡を検出し、精査を行った。平成22年度には、まずⅣ区全体での遺構検出を行い、多くの遺構が重複する状況を確認した。その後、FJ46-01・02、GA44-01竪穴住居跡の精査を行った。さらに、南側の内容確認のため、GA44トレンチを拡張し調査を行った。平成23年度には、FH46・FH48トレンチの精査を重点的に行い、FI46配石・竪穴住居跡・柱穴の精査を行った。その後、FH48トレンチからGA44トレンチまでの土層断面精査を行い、基本層序を確認するとともに、①・②層の堆積とこれらの土層を掘り込んで構築されている竪穴住居跡などとの層位関係を確認した。さらに、GB44トレンチの精査を行った。11月、調査終了状況の写真撮影、埋め戻し作業を行い、調査を終了した。

Ⅳ区東トレンチ

盛土遺構東側の内容確認を行うため、平成23年5月から調査を開始した。公園の造成土を除去した後、設定したベルトを残しながら掘り下げを行ったところ、竪穴住居跡や土坑などを検出し、精査を行った。また、トレンチ南東隅を深堀し、層序の確認を行った。11月、調査終了状況の写真撮影、埋め戻し作業を行い、調査を終了した。

Ⅳ区西トレンチ1

盛土遺構西側の内容確認を行うため、平成23年6月から調査を開始した。公園の造成土を除去した後、設定したベルトを残しながら掘り下げを行ったところ、①層に相当する黄褐色土ブロックの広がりを確認するとともに、FE38⑲・㉕付近、FF38①・⑦付近において多量の遺物が出土した。また、FE38-01竪穴住居跡を検出し精査を行った。さらに、トレンチの南北の端にサブトレンチを設定、Ⅲ層まで掘り下げ、土層断面の精査を行った。この際、FE38-02竪穴住居跡を検出、FF38⑩・⑪付近では多量の獣骨片や炭化種実が出

土した。11月に調査終了状況の写真撮影、埋め戻し作業を行い調査を終了した。

Ⅳ区西トレンチ2

さらに西側の内容確認を行うため、平成23年9月から調査を開始した。公園の造成土を除去した後、設定したベルトを残しながら、トレンチ全面においてⅡb層中まで掘り下げを行った。その後、トレンチ南端にサブトレンチを設定し、遺物包含層～Ⅳa層中まで掘り下げた。さらに、南西隅を深堀し、層序を確認した。11月に調査終了状況の写真撮影、埋め戻し作業を行い調査を終了した。

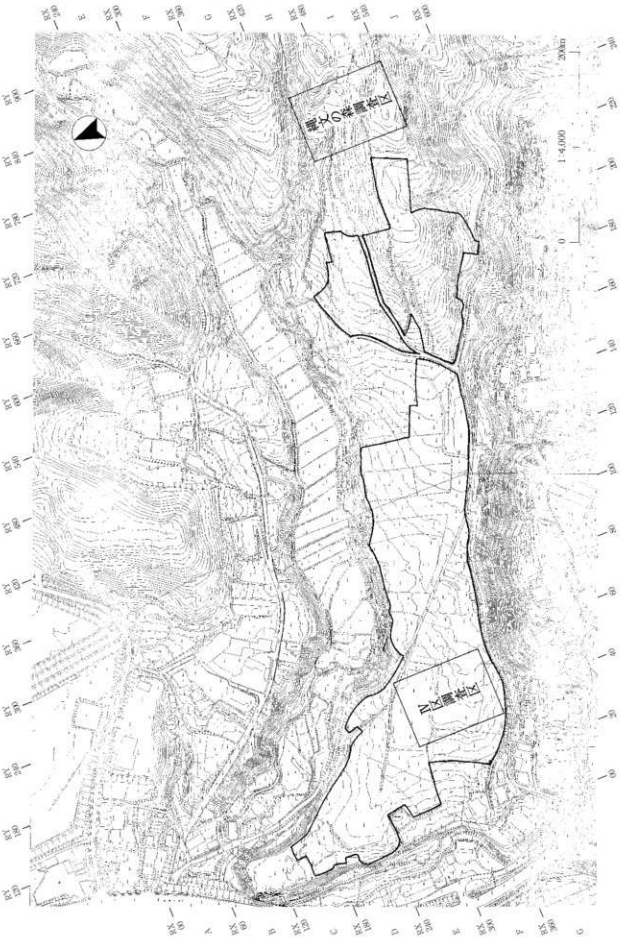
配石トレンチ

配石遺構との層位的な関係を把握するため、FG52配石周辺にトレンチを設定し、平成23年7月から調査を開始した。FG52配石の精査後、トレンチ南側においてベルトを残して掘り下げ、遺構検出を行った。また、トレンチ南端にサブトレンチを設定し、竪穴住居跡と柱穴の精査を行った。平成24年は10月から調査を開始した。再度遺構検出を行い、土層断面の精査を行った。11月に調査終了状況の写真撮影、12月に埋め戻し作業を行い調査を終了した。

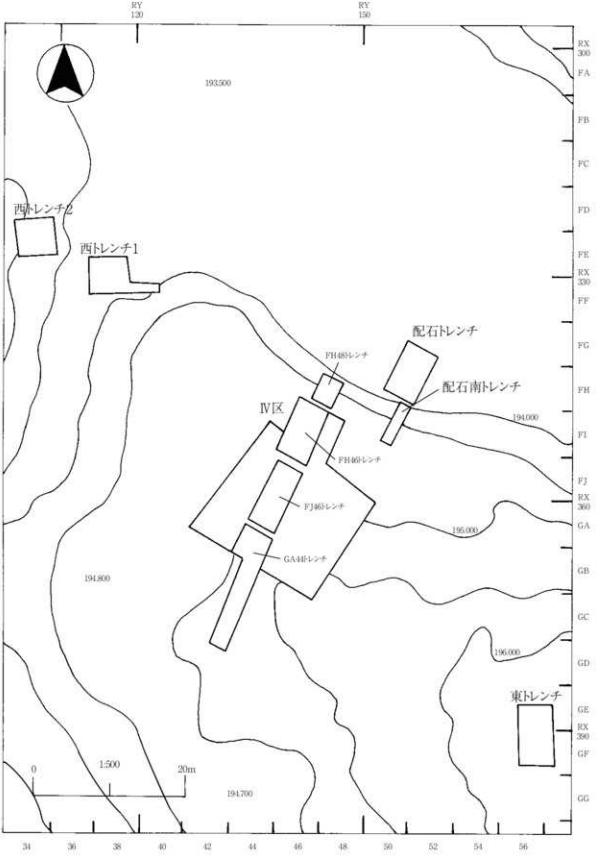
配石南トレンチ

盛土遺構北側の内容確認と配石遺構との層位的な関係を把握するため、平成24年10月から調査を開始した。Ⅱc層を掘り下げたところ、礫の広がりを確認した。その後、遺物包含層を確認し、土坑や柱穴の精査を行った。11月に調査終了状況の写真撮影、12月に埋め戻し作業を行い調査を終了した。平成24年12月11日、すべての作業を終え、4カ年にわたる調査を終了した。

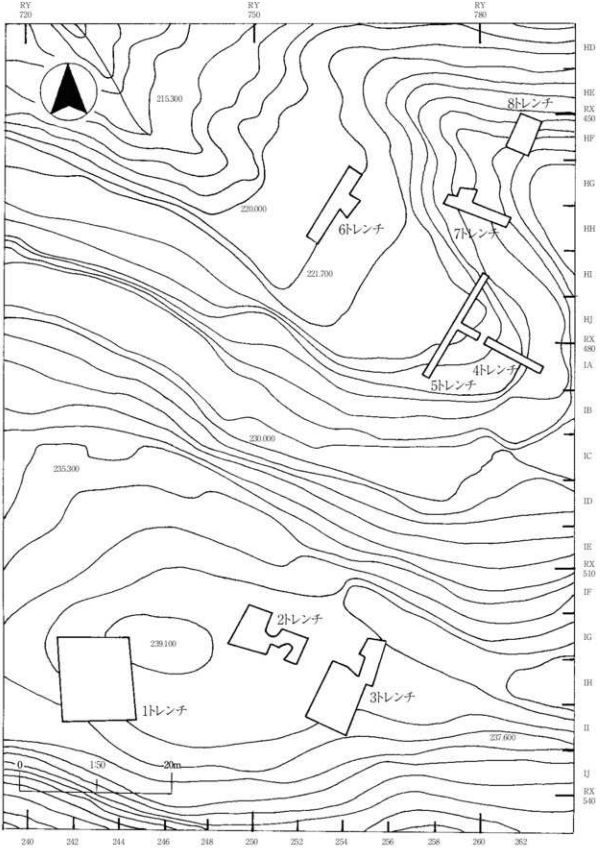
なお、平成21年10月12日と平成23年10月1日に現地説明会を開催した。



第３図　御所野遺跡　国指定史跡範囲・調査区位置図



第４図　Ⅳ区調査区位置図



第５図　縄文の森調査区位置図

Ⅳ　調査内容

1．基本層序

平成21～24年度の調査では、Ⅳ区GA44トレンチ（第６・７図）、Ⅳ区東トレンチ（第13図）、Ⅳ区西トレンチ２（第18図）・配石南トレンチ（第20図）の一部で層序の確認を行い、これまでの調査結果に基づき、遺跡中央部における基本層序を、次のように大別した。

Ⅰ　層　黒褐～暗褐色土。耕作土。

Ⅱａ層　黒褐色土。細粒。粘性弱。

Ⅱｂ層　黒褐色土。細粒。灰白～浅黄橙色火山灰がブロック状に混入する。

Ⅱｃ層　黒色土。Ⅱａ層より細粒である。粘性弱。

Ⅱｄ層　黒色土。細粒（Ⅱｃ層よりやや粗い）。粘性弱。赤褐色～褐色パミスが少量混入する。

Ⅲ　層　暗褐色土。中掘火山灰（To-Cu）のブロックが多量に混入する。

Ⅳａ層　黒褐色土。南部浮石（To-Nb）が少量混入。

Ⅳｂ層　黒褐～暗褐色土。Ⅳａ層より南部浮石がやや多く混入する。

Ⅴａ層　暗褐～黄褐色土（粘土）

Ⅴｂ層　黄褐～明黄褐色土（粘土）。Ⅴａ層より粘性が強い。

Ⅴｃ層　明黄褐～にぶい黄橙色土（粘土）。Ⅴｂ層より色調が明るく、粘性が強い。

Ⅵ　層　浅黄橙色火山灰層。

Ⅶ　層　黄褐橙色～明黄褐色粘土。

Ⅱｂ層に含まれる灰白～浅黄橙色火山灰は十和田ａ火山灰（To-a）と考えられる。また、今回行った自然科学分析によると、Ⅵ層は八戸火山灰（To-H）の火砕流もしくは火砕泥流、Ⅶ層は大不動浮石流凝灰岩（To-Of）による堆積物である。

Ⅳ区GA44トレンチでは、Ⅲ層上に縄文時代の堆積層である①・②層を確認した（第７図）。

①層　黄褐色土ブロック。Ⅴ層起源と考えられる。遺物の混入は客体的であり、炭化物粒や土器片、チップの混入が認められるが極少量である。この層は『御所野遺跡Ⅰ』及び『御所野遺跡Ⅲ』において、「盛土１層」及び「盛土２層」と報告されている層に相当する。ただし、その際は竪穴住居跡の堆積土の様相も含めて「盛土１・２層」の特徴として捉えられている。

②層　黒褐色土。炭化物粒や土器の小片が少量混入する。この層は『御所野遺跡Ⅰ』及び『御所野遺跡Ⅲ』において「盛土３層」と報告されている層に相当する。

Ⅳ区GA44トレンチの土層断面（第７図D-D′断面）及びGB44トレンチでは、①層・②層の堆積がともに確認できたが、FJ46トレンチの土層断面（第７図C-C′断面）では②層のみ確認した。第２節で詳述するが、②層を掘り込んで竪穴住居が構築されている。さらに、FH46・FH48トレンチでは竪穴住居跡などの遺構の重複が激しいため、いずれの層も確認できなかった（第７図A-A′・B-B′断面）。

Ⅳ区東トレンチにおいても②層を確認している。混入物が極めて少ないのが特徴で、鉱物分析では、中掘火山灰（To-Cu）起源とされる火山ガラスが、Ⅳ区よりも多く検出されている。

Ⅳ区西トレン１チでは②層に相当すると考えられる黄褐色土ブロックの堆積を確認できた（第16図）。Ⅳ区で確認した層よりやや色調明るく、粘性も強い。また、この層を掘り込んで竪穴住居が構築されていることを確認した。サブトレンチ内においては②層を確認した。Ⅳ区東トレンチで確認した②層の特徴に類似する。

各トレンチでは、層序と「盛土遺構」の形成過程の検討を行うことを目的として、土壌微細形態分析や鉱物組成分析などを行った。この結果について詳しくは第Ⅴ章第３・４節を参照していただきたい。

2．Ⅳ区

第Ⅲ章第１節でも述べたが、今回の調査では、FH48トレンチ、FH46トレンチ、FJ46トレンチ、GA44トレンチ、GB44トレンチを含めたトレンチを総称して「Ⅳ区」と呼ぶこととする。

調査概要（第６・７図）　Ⅳ区はFH46～GC42グリッド付近に位置し、調査面積は347㎡である。

南側のFJ46・GA44トレンチでは①・②層を確認し、これらの層を掘り込んで構築されている竪穴住居跡を検出し、精査を行った。竪穴住居跡の堆積土からは各種多量な遺物が出土した。また、Ⅳ区全体において、竪穴住居跡の堆積土の特徴に類似する多くのプランを検出し、１～109の仮遺構№を付した。これらのプランは竪穴住居跡などの遺構と考えられ、重複が非常に激しい。

Ⅳ区全体で検出・精査した遺構は、配石遺構１基、竪穴住居跡18棟、土坑３基、柱穴21個である。このほか、GA44トレンチⅣａ層中において剥片・チップの出土集中範囲を確認した。柱穴の精査の状況、規模や重複関係などは第１表の通りである。

FH48-02竪穴住居跡（第７・８図、写真図版６）

検出状況　埋め戻し土を除去した後、縄文土器片や円礫、炭化物粒や焼土粒などを含む黒褐色土の広がりとして検出した。

重複関係　FH48-03竪穴住居跡に切られる。

平面形・規模　不明

壁・床面　不明

堆積土　３層に分層した。いずれも人為堆積と考えられる。１層は黒褐色土を主体とし、炭化物粒や焼土粒、骨片を少量含む。２・３層は褐色土を主体とする。黄褐色土ブロックの混入量の違いにより分層した。３層は黄褐色土ブロックを多量に混入する。

床面施設　床面において柱穴１、３、４を検出した。竪穴住居跡に伴う可能性が考えられる。

出土遺物　１層からは第ⅢB～Ⅳ群土器が少量出土した。小破片が多く、全体の器形が窺えるような資料はなかった。このうち１点（第25図１）を掲載した。また、１層から敲磨器類（表№285）が１点出土した。

FH48-03竪穴住居跡（第７図、写真図版６）

検出状況　FH48トレンチA-A’断面において確認したが、平面では捉えることができなかった。

重複関係　FH48-02竪穴住居跡を切る。FH48-03土坑・柱穴10に切られる。

平面形・規模　不明。

壁・床面　不明。

堆積土　５層に分層した。いずれも人為堆積と考えられる。暗褐～黒褐色土を主体とし、炭化物粒や焼土粒が少量混入する。５層黄褐色土ブロックが混入する。

出土遺物　１層から小形土器（第25図２）が出土している。

FH48-01土坑（第７・８図、写真図版６）

検出状況　埋め戻し土を除去した後、暗褐色土の広がりとして検出した。

重複関係　柱穴８を切る。また、柱穴７に切られる。

平面形・規模　開口部径55×70cmほどの楕円形を呈すると推定される。

壁・底面　壁は外傾しながら立ち上がる。Ⅵ層中を底面とし、底面はほぼ平坦である。

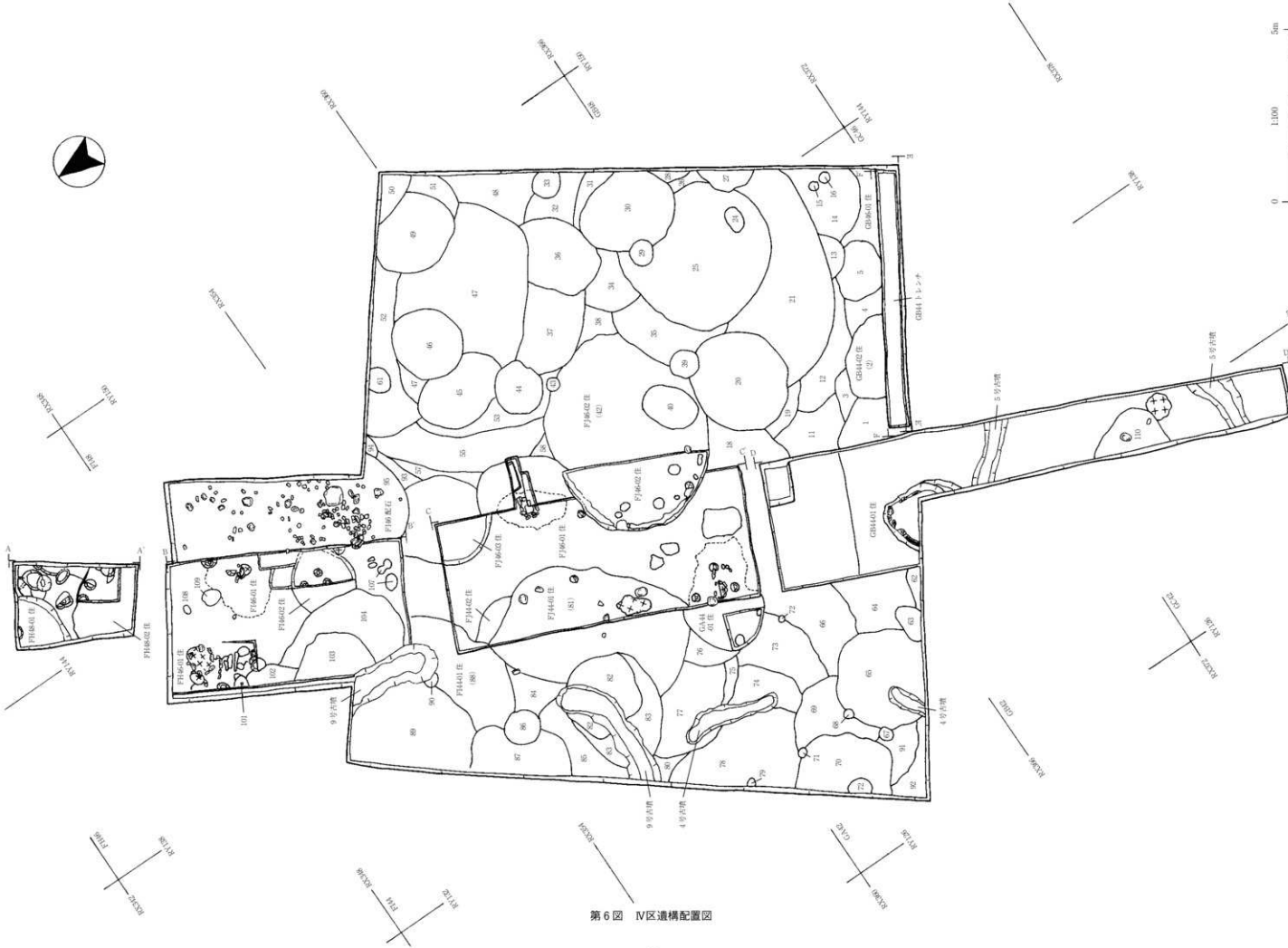
堆積土　暗褐色土を主体とし、炭化物粒や焼土粒、骨片が少量混入する。人為堆積と考えられる。
出土遺物　なし

FH48-02土坑（第７・８図、写真図版６）
検出状況　褐色土・黄褐色土・明黄褐色土の混土の広がりとして検出した。
重複関係　FH48-03竪穴住居跡、柱穴９・10に切られる。
平面形・規模　不明
壁・床面　Ⅵ層中を床面とし、南側に向かってやや傾斜する。土層断面南側では外傾しながら立ち上がる。
堆積土　２層に分層した。いずれも人為堆積と考えられる。１層は褐色土・黄褐色土・明黄褐色土の混土を主体とし、炭化物粒や焼土粒が極少量混入する。２層は黄褐色土と明黄褐色土の混土を主体とする。
出土遺物　なし

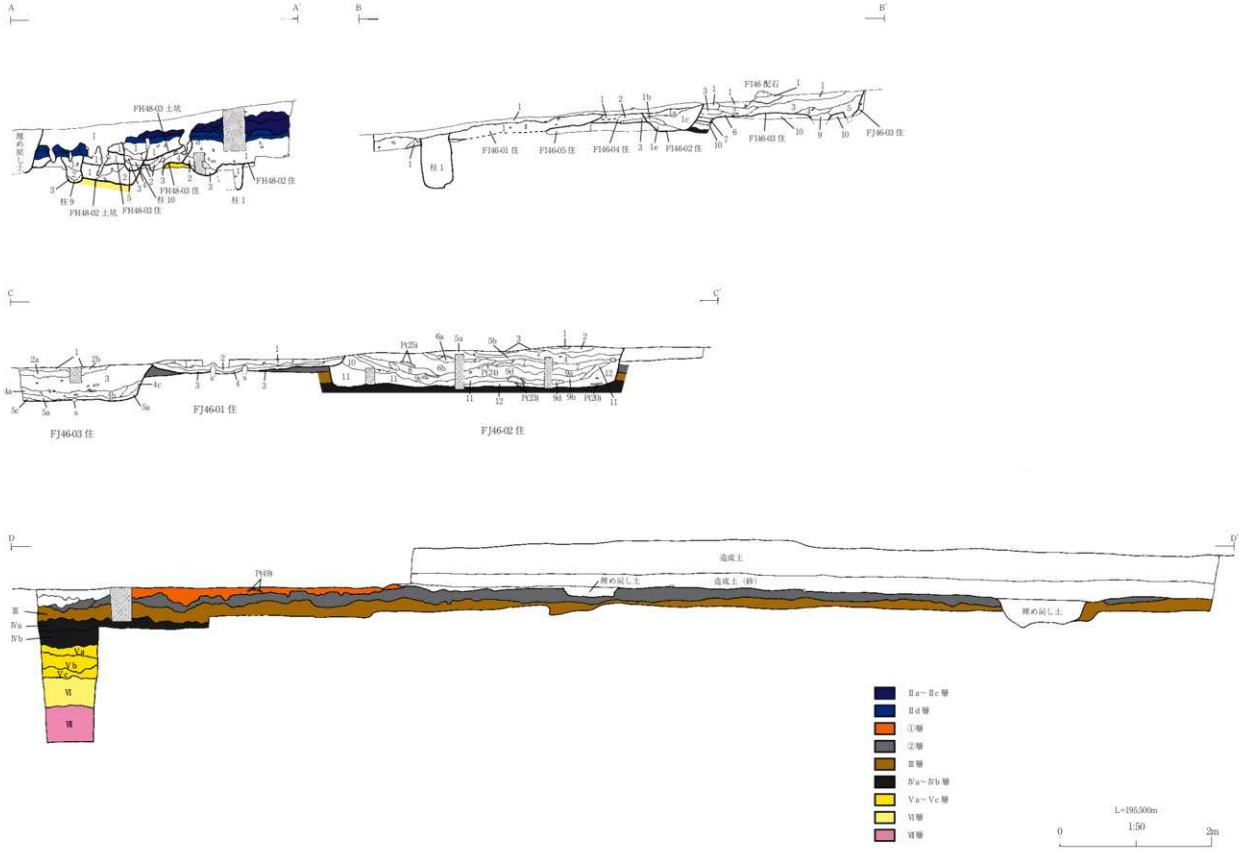
FH48-03土坑（第７図、写真図版６）
検出状況　FH48トレンチA-A’断面において確認したが、平面では捉えることができなかった。
重複関係　FH48-03竪穴住居跡を切る。また、柱穴10に切られる。
平面形・規模　不明
壁・床面　不明
堆積土　黒褐色土を主体とし、炭化物粒・焼土粒が極少量混入する。色調の違いによって２層に細分した。
出土遺物　不掲載としたが、縄文土器が少量出土した。

FI46配石（第７・８図、写真図版６）
検出状況　FI46配石は平成３年度調査、平成10年度調査において検出・精査が行われている。今回の調査では、この調査面まで再び掘り下げ、確認を行った。
確認面の土層　黒褐色土層（第７図B-B’Ⅰ層）を主体とし、炭化材（φ～１cm）や焼土粒、骨片が少量混入する。また、土器片、円礫、剥片・チップなども混入する。この面からは明確に遺構プランを確認することはできなかった。
重複関係　FI46-03竪穴住居跡より新しい。
形状　2.0m×1.4mの楕円形範囲に、長径10～20cmの礫が集中している。東端には長径55cmを測る礫が位置する。西端では石棒（第39図35）が用いられている。使用礫の石質は、以前の調査において、安山岩が多いほか、花崗岩、チャート、砂岩などが含まれていることが確認されている。
出土遺物　平成10年度調査ではこの配石の確認面から第Ⅴ群土器の口縁部片が出土している。この他、石鏃（表№29）、敲石（第38図22）、台石？（表№299）、磨製石斧の刃部片（表№247）が出土した。

FH46-01竪穴住居跡（第８図、写真図版６）
検出状況　『御所野遺跡Ⅰ』では「FH46-01炉跡」と報告されている。今回の調査では、土層断面において立ち上がりを捉えることはできなかったが、石囲炉周辺に黄褐色土の貼床を確認できたことから竪穴住居跡と判断した。
重複関係　不明
平面形・規模　不明
壁・床面　壁の立ち上がりを捉えることはできなかったが、石囲炉の西側周辺において黄褐色土ブロックの



第６図　Ⅳ区遺構配置図


A
A'
FH48-03 土坑
FH48-02 住
FH48-03 住
FH48-02 土坑
B
B'
FJ46 配石
FJ46-01 住
FJ46-05 住
FJ46-04 住
FJ46-02 住
FJ46-03 住
C
C'
FJ46-03 住
FJ46-01 住
FJ46-02 住
D
D'
造成土
造成土（砂）
埋め戻し土
Ⅱa～Ⅱc 層
Ⅱd 層
①層
②層
③層
Ⅳa～Ⅳb 層
Ⅴa～Ⅴc 層
Ⅵ層
Ⅶ層
L=195.500m
1:50
0
2m

第７図　Ⅳ区断面図

貼床を確認した。床面と考えられる。

炉　楕円形を呈する石囲炉である。規模は92×70cmを測り、内部には焼土が発達している。南東側では19×８cmの炭化材が据えられていることが特筆されよう。また、南側に別の石組列が見られることから、炉の作り替え、もしくは竪穴住居の建て替えの可能性が考えられる。

堆積土　不明

出土遺物　炉の周辺から縄文土器が出土しているが不掲載とした。また、敲磨器類（第38図31）が出土している。

FI46-01竪穴住居跡（第７・８図、写真図版６）

検出状況　『御所野遺跡Ⅲ』では「炉３」と報告されているが、今回の調査では炉の周辺に硬化面を確認できたことから竪穴住居跡と判断した。

重複関係　柱穴１に切られる。B-B′ 土層断面では FI46-04・05竪穴住居跡を切ると判断される。

平面形・規模　不明

壁・床面　壁の立ち上がりは明確に捉えることができなかったが、炉の周辺約１ｍの範囲で硬化面を確認した。床面と考えられる。

炉　長さ38cm、幅14cmの円礫の周辺に現地性焼土が広がる。

堆積土　土層断面では暗褐色土を主体とし、炭化物粒や焼土粒、骨片が少量混入する。土器片や剥片・チップなども多く含む。

出土遺物　確認面において第Ⅳ群土器（第25図４）、第Ⅴ群土器（第25図５）が出土している。

FI46-02竪穴住居跡（第７・８・９図、写真図版６）

検出状況　埋め戻し土を除去した後の確認面において、炭化物や焼土を含む暗褐色土の広がりとして検出した。

重複関係　FI46-03・04・05竪穴住居跡を切る。また、仮道構№104に切られる。

平面形・規模　直径２ｍほどの円形と推定される。

壁・床面　Ⅳｂ層中を床面とする。床面はほぼ平坦で、一部に貼床と考えられる硬化面が認められた。壁は外傾しながら立ち上がる。北側の立ち上がりはごく緩やかである。

堆積土　４層に分層した。１・２層は人為堆積、３層は自然堆積と考えられる。１層は黒褐～暗褐色土を主体とし、色調や混入物の違いから１a～e 層に細分した。炭化材（φ～１cm）や粒状～小ブロック状の焼土を中量、骨片を少量混入する。土器片や剥片・チップを含む。２層は黒褐色土を主体とし、炭化材や焼土を中量混入する。３層は暗褐色～黒褐色土を主体とする。４層は貼床と考えられる。

床面施設　床面において柱穴７～８を検出したが、この竪穴住居跡に伴うものではないと考えられる。

出土遺物　２層から出土した小形土器（第25図６）を掲載した。石器は２層から石鏃２点（表№78・79）、石鏃未製品（№85）が出土した。

FI46-03竪穴住居跡（第７・８図、写真図版６）

検出状況　FH46トレンチ B-B′ 断面において確認した。

重複関係　FJ46-03竪穴住居跡を切る。また、FI46-02竪穴住居跡、FI46配石に切られる。

平面形・規模　FH46トレンチ内における平面プランは不明である。FI46配石の下に遺構が続くと推定される。

壁・床面　床面はほぼ平坦である。土層断面南側では外傾しながら立ち上がる。北側は FI46-02竪穴住居跡

に切られるため不明である。

堆積土　暗褐～黒褐色土を主体とし、混入物の違いにより10層に分層した。1層は暗褐色土を主体とし、焼土粒・炭化物粒・骨片を少量混入する。土器片を多く含む。8層は現地性の明赤褐色焼土である。9層は黒褐色土を主体とし10層に類似するが、掘り込みが続くため分層した。10層は黒褐色土を主体とする床構築土と判断した。

出土遺物　FH46トレンチ内の確認面において第Ⅲ B 群土器（第25図11）、石鏃（第37図２）が出土している。

FI46-04竪穴住居跡（第７図、写真図版６）

検出状況　FH46トレンチ B-B′ 断面において確認したが、平面では捉えることができなかった。

重複関係　FI46-01・02竪穴住居跡に切られる。また、FI46-05竪穴住居跡を切ると判断される。

平面形・規模　不明

壁・床面　不明

堆積土　黒褐色土を主体とする。混入物の違いにより１～３層に分層した。１層は黄褐色土ブロック、炭化物粒や骨片が少量混入する。２層は局所的に焼土ブロックが認められる。３層は炭化物を極少量混入する。

出土遺物　なし

FI46-05竪穴住居跡（第７図、写真図版６）

検出状況　FH46トレンチ B-B′ 断面において確認したが、平面では捉えることができなかった。

重複関係　FI46-01・02・04竪穴住居跡に切られる。

平面形・規模　不明

壁・床面　不明

堆積土　暗褐色土と黒褐色土の混土を主体とし、炭化物粒や骨片が少量混入する。

出土遺物　なし

FJ46-01竪穴住居跡（第７・10・11図、写真図版５）

検出状況　『御所野遺跡Ⅰ』では「FJ46-01炉跡」と報告されている。今回の調査では、①FJ46トレンチ C-C′ 断面において床面と壁の立ち上がりを確認できたこと　②FJ46トレンチ東側にあたるⅣ区確認面において、暗褐～褐色土を主体とし炭化材や炭化種実を含む広がりとして遺構プランを検出できたことから竪穴住居跡と判断した。

重複関係　FJ46-02・03竪穴住居跡を切る。

平面形・規模　不明

壁・床面　②層中を床面とし、ほぼ平坦である。壁は外傾しながら立ち上がる。

炉　石囲部＋前庭部から構成される複式炉と考えられる。石囲部は68×53㎝を測ると推定され、内部には焼土が発達している。

堆積土　５層に分層した。１層は暗褐色土を主体とし、黄褐色土ブロックが多量に混入する。また、炭化材が中量、焼土粒や骨片が少量混入する。２層は黒褐色土を主体とし、炭化材・炭化種実を多量に含む層である。炉を覆うように炭化材と炭化種実が分布しており、分布に偏りは見られず、混在していた。炭化種実は完形のものは少なく、炭化材も破片のものが多く見られた。石囲部の中心にいくほど炭化物は厚く堆積しており、完形の炭化種実がやや多く認められた。３～５層は黒褐色土を主体とし、混入物の違いによって細分した。３層は炭化物粒や焼土粒が少量混入する。４層は炭化物粒や焼土粒が極少量混入する。５層にはほと

んど混入物は認められなかった。

出土遺物　2層から出土した第25図18は、孔が施され、脚部の端部が肥厚し平らに調整されていることから、器台の破片と考えられる。また、堆積土から第Ⅲ B 群土器（第25図19）、石鏃（第37図11）、スクレイパー（表№168）が出土した。炭化種実はトチノキ種子に同定されるものが多かったが、詳しくはⅤ章を参照していただきたい。

FJ46-02竪穴住居跡（第７・10・11図、写真図版４）

検出状況　FJ46トレンチ内の②層中において、遺物を含む黄褐色土・褐色土・暗褐色土の広がりとして検出した。また、これに続く遺構プランをⅣ区確認面においても検出した。

重複関係　FJ46-01竪穴住居跡に切られる。

平面形・規模　長軸5.9m×短軸4.6mほどの楕円形を呈すると推定される。

壁・床面　壁はほぼ直立気味に立ち上がる。Ⅳ a 層中を床面とする。床面にはやや凹凸が見られ、一部には貼床と考えられる硬化面が認められた。

床面施設　柱穴と壁溝と考えられるプランを検出した。

炉　精査を行った範囲では確認されなかった。

堆積土　精査の際は、まず、FJ46トレンチ内において掘り下げを行い、FJ46トレンチ C-C’ 断面（調査時は A-A’ 断面と呼称）において、土層観察・分層を行った。その後、この断面から約50cm幅で設定したベルトを残し、反対側にサブトレンチを設定し掘削した。A-A’ 断面の裏側を D-D’ 断面、最終的に残った断面を E-E’ 断面（第11図 e-e’ 断面）と呼称し、観察・分層した。約50cm間隔で３本の断面をとったことになるが、層の対比を行うことは難しい状況であった。そこで、ベルトの掘り下げの際は、A-A’ 断面をもとに層ごとに遺物の取り上げを行った。

調査時の A-A’ 断面（第７図 C-C’ 断面）では３地点でサンプリングを行い、土壌微細形態分析を行った。詳しくは、第Ⅴ章第３・４節を参照していただきたい。

A-A’ 断面は12層に分層したが、堆積様相や遺物の出土状況などから、以下のように大別されよう。

①黄褐色土ブロックを主体とする（６a 層）。ほかの土層より混入物は少ないが、全く混入しないわけではない。極少量の骨片、炭化物、焼土粒、チップなどが混入する。

②褐色土ブロックを主体とする（２・４・６ b 層）。少量の炭化物、焼土粒、骨片、土器片、チップなどが混入する。６b 層からは略完形の第Ⅳ群土器（第26図25）が出土した。

③褐色～黄褐色土ブロックを主体とする（７・９a・９b・９c 層）。炭化物や焼土粒、骨片、剥片・チップなどが混入する。土器は完形～略完形の土器や大形の破片が出土した。

④黒褐～暗褐色土ブロックを主体とし、遺物を多量に含む層（１・３・５a・５b・８層）。５層は炭化物や土器片を含み、それらの出土状況から周囲からの再堆積土壌である可能性がある。５b 層の下位には明褐色焼土の堆積が認められる。８層からは多量の剥片・チップや炭化物が出土した。

⑤黒褐色土ブロックを主体とする（10～12層）。炭化物や焼土粒、チップ、骨片が少量混入する。

調査時 E-E’（第11図 e-e’）断面では15層に分層した。

１a～c 層は黒褐色～暗褐色土ブロックを主体とし、炭化物、土器片、骨片、焼土ブロックが混入する。２・４～６層は暗褐色土ブロックを主体とし、少量の炭化物粒や焼土粒などが混入する。３層は褐色土ブロックを主体とする。遺物の混入は少ない。７～９層は黒褐色土ブロックを主体とする。10層は暗褐色土ブロックを主体とし、焼土や炭化物が多量に混入する。11層は黒褐色ブロック土を主体とし、黄褐色土ブロックが多量に混入する。12・13層は黒褐色土ブロックを主体とする。12層からはシカと同定された骨片が出土した。

14・15層は暗褐色～黒褐色土を主体とする。炭化物や焼土粒などの混入はほとんど認められなかった。

出土遺物　堆積土の各層から縄文土器、石器、剥片・チップ、動物遺存体、植物遺存体など多量の遺物が出土した。縄文土器は第Ⅲ A・Ⅲ B・Ⅳ群土器が出土し、このうち15点（第25図20～23・第26図24～30図・第27図34図）を掲載した。第25図20は床直出土、第25図23は12層出土の土器である。石器は42点出土した。石鏃18点（表№２～９・30～37・80・81）、石鏃未製品８点（表№86～89・97～100）、石槍未製品１点（表№131）、両面加工石器１点（表№157）、スクレイパー ２点（表№169・170）、二次加工ある剥片６点（表№189・191・192・198・199・214）、使用痕ある剥片２点（表№228・229）、楔形石器１点（表№242）、床直出土の磨石1点（第38図24）、このほかの敲磨器類２点（表№276・287）である。第９節において詳述するが、各層から多量の剥片･チップが出土している。動物遺存体、植物遺存体については第９節および第Ⅴ章第１・２節を参照していただきたい。

FJ46-03竪穴住居跡（第７・10・11図、写真図版５）

検出状況　FJ46トレンチ内の②層中において、遺物を多く含む暗褐色土の広がりとして検出した。また、Ⅳ区確認面においてもこれに続くプランを検出した。

重複関係　FJ46-01竪穴住居跡、FI46-03竪穴住居跡に切られる。

平面形・規模　長軸3.0m×短軸2.6mほどの楕円形を呈すると推定される。

壁・床面　壁はほぼ外傾しながら立ち上がる。Ⅳ a 層中を床面とする。床には凹凸が見られ、一部には貼床と考えられる硬化面が認められた。

床面施設・炉　精査した範囲では確認できなかった。

堆積土　８層に分層した。1～６層は人為堆積、７・８層は壁の崩壊土による自然堆積ではないかと考えられる。次のように大別される。１層は褐色土と黄褐色土の混土を主体とし、炭化物や焼土粒、骨片が少量混入する。２層は褐色土を主体とし、黄褐色土ブロックが中量混入する。混入物はほとんど認められない。３～４層は暗褐色土を主体とし、遺物が多量に混入する。５～６層は黒褐色土を主体とし、炭化物や焼土が少量混入する。７・８層は黒褐色土を主体とし、混入物は認められなかった。

出土遺物　第Ⅲ A・Ⅲ B 群土器が出土した。完形のものはなく、すべて破片である。このうち５点を掲載した（第27図35～39）。石器は石鏃未製品２点（表№89・90）、スクレイパー ２点（表№171・172）、敲磨器類４点（表№248・262・295・296）が出土した。出土した骨片はシカと同定されたものを含む。

GA44-01竪穴住居跡（第７・10・11図、写真図版５）

検出状況　FJ46トレンチ内において暗褐色土を掘り下げたところ、石囲炉を検出し、その周囲で硬化面が認められた。また、その西側にあたるⅣ区確認面においても、炭化物粒や骨片を多量に含む暗褐色土の広がりを確認した。

重複関係　FJ44-01竪穴住居跡を切る。

平面形・規模　長軸3.2m×短軸2.4mほどの楕円形を呈すると推定される。

壁・床面　確認できたのは床面からわずかだが、外傾しながら立ち上がる。②層中を床面とし、ほぼ平坦である。

床面施設　床面において柱穴２個を検出した。また、FJ46トレンチ内の硬化面において柱穴３～５を検出、半截した。いずれも検出面からの深さは10cm前後と浅く、この竪穴住居跡に伴うものか不明である。

炉　楕円形を呈する石囲炉である。規模は54×38cmを測り、内部には焼土が発達している。

堆積土　３層に分層した。１a 層は暗褐色土を主体とし、炭化物粒や骨片が多量に散在して混入する。また、

焼土が粒～ブロック状に中量混入する。1b層は黄褐色土ブロックが多量に混入する。2層は黒褐色土、3層は暗褐色土を主体とする。

出土遺物　第28図46～48は2層から出土した。48は割れ口が研磨されている。また、石鏃1点（表№38）が出土した。

FJ44-01竪穴住居跡（第10・11図、写真図版3）

検出状況　FJ46トレンチ内の②層中において、遺物を多く含む黒褐～暗褐色土の広がりとして検出した。

重複関係　FJ44-02・FI44-01竪穴住居跡を切る。また、GA44-01竪穴住居跡に切られる。

平面形・規模　掘り下げを行っていないため詳細は不明だが、長軸5.5m×短軸3.4mほどの隅丸長方形を呈すると推定される。

壁・床面　不明

堆積土　掘り下げは行っていないが、FJ46トレンチh-h'断面において9層に分層した。いずれも人為堆積と考えられる。各層の特徴をまとめると次の通りである。1層は黒褐色土を主体とし、焼土を中量、炭化物粒や骨片を少量混入する。土器片や剥片も含む。2・3・7a～7c層は黒褐色土を主体とし、褐色土ブロックや黄褐色土ブロックを混入する。土器片や剥片・チップも含む。4・6層は暗褐色土を主体とし、炭化物粒や焼土粒、骨片、土器片などが混入する。8層は黄褐色土ブロックと明黄褐色土ブロックの混土であり、混入物は認められない。9層は褐色土ブロックと黄褐色土ブロックとの混土を主体とし、焼土粒・炭化物粒が少量混入する。

出土遺物　7a層から第Ⅲ A 群土器（第27図40）、敲磨器類（表№34）、確認面からは使用痕ある剥片（表№230）、両刃礫器（第38図33）などが出土した。

FJ44-02竪穴住居跡（第10・11図、写真図版3）

検出状況　FJ46トレンチ内②層中において、また、FJ46トレンチh-h'断面において検出した。検出のみを行い、掘り下げは行っていない。

重複関係　FJ44-01・FI44-01竪穴住居跡に切られる。

堆積土　黒褐色土を主体とし、褐色～黄褐色土ブロックや炭化物粒を少量混入する。

出土遺物　なし

FI44-01竪穴住居跡（第10・11図、写真図版3）

検出状況　FJ46トレンチ内②層中において、また、FJ46トレンチh-h'断面において検出した。検出のみを行い、掘り下げは行っていない。

重複関係　FJ44-02竪穴住居跡を切る。また、FJ44-01竪穴住居跡に切られる。

堆積土　掘り下げは行っていないが、FJ46トレンチh-h'断面において2層に分層した。1層は黒褐色土を主体とし遺物を少量含む。2層は暗褐色土と黄褐色土の混土を主体とする。混入物は認められない。

出土遺物　確認面において第Ⅲ B 群土器が出土しているが、小片のため不掲載とした。

GB44-02竪穴住居跡（第6・12図、写真図版7）

検出状況　平面プランは仮遺構№2として検出した。その後、GB44トレンチを設定し掘削したところ、トレンチ内のみの確認だが、硬化面を確認できた。また、土層断面においても、わずかだが立ち上がりを確認することができたことから、竪穴住居跡と捉え、遺構名を付した。

重複関係　なし　　**平面形・規模**　不明

壁・床面　壁の立ち上がりはほとんど捉えることができなかった。床面は①層中を床面とし、ほぼ平坦である。

堆積土　暗褐色土を主体とし、黄褐色土ブロックを中量混入する。また、炭化物粒や焼土粒、骨片が少量混入する。

出土遺物　①層中から第Ⅱ群土器（第27図43）、敲石（第38図20）が出土した。

GB46-01竪穴住居跡（第６・12図、写真図版７）

検出状況　GB44トレンチE-E'およびF-F'断面において確認したが、平面では捉えることができなかった。

重複関係　土層断面ではGB46-02竪穴住居跡を切ると判断される。

平面形・規模　不明　　**壁・床面**　不明

堆積土　５層に分層した。１～３、５層は黒褐色土、４層は暗褐色土を主体とする。　**出土遺物**　なし

GB46-02竪穴住居跡（第６・12図、写真図版７）

検出状況　GB44トレンチE-E'およびF-F'断面において確認したが、平面では捉えることができなかった。

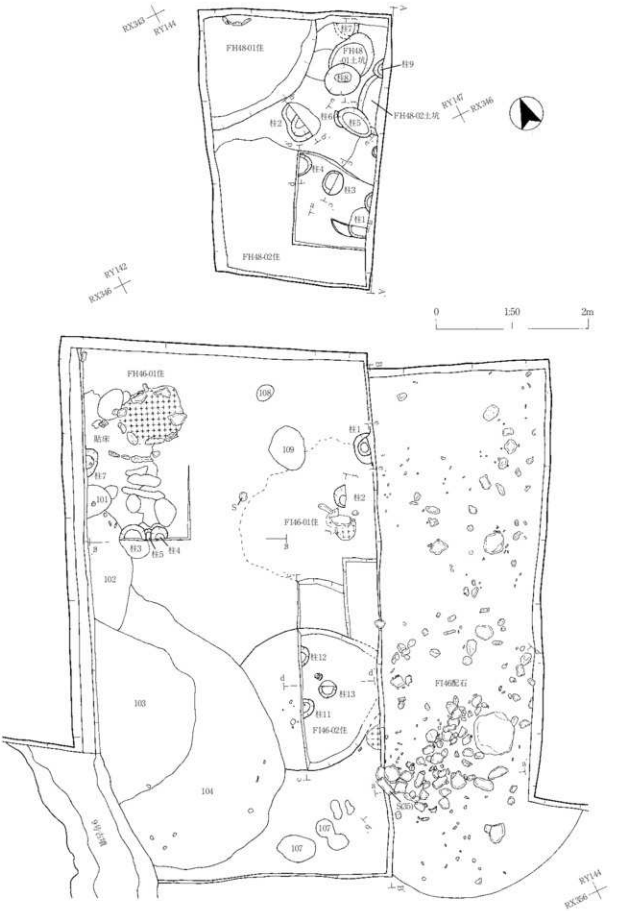
重複関係　土層断面ではGB46-01竪穴住居跡に切られると判断される。

堆積土　黒褐色土を主体とする。混入物の違いにより１a～１cに細分した。1a層は黄褐色土ブロックが少量混入する。1b層は炭化物粒や骨片などが少量混入する。1c層は褐色土ブロックや炭化物粒が少量混入する。

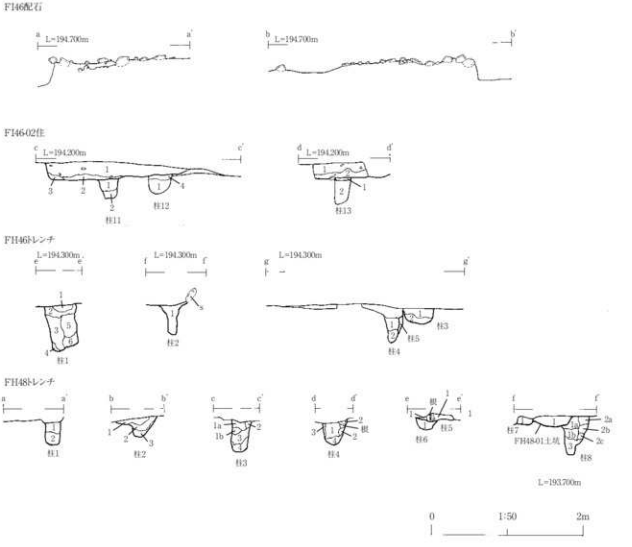
出土遺物　なし

第１表　Ⅳ区柱穴表

トレンチ名	遺構名	重複関係	開口部規模（cm）	底面標高（m）	備考
FH48トレンチ	柱穴１	なし	39×(23)	193.220	
FH48トレンチ	柱穴２	なし	55×(45)	193.330	
FH48トレンチ	柱穴３	なし	33×(27)	193.120	
FH48トレンチ	柱穴４	なし	(29)×(21)	193.210	
FH48トレンチ	柱穴５	>FH48-02土坑・柱6	50×31	193.530	
FH48トレンチ	柱穴６	<柱5	26×(17)	193.430	
FH48トレンチ	柱穴７	>FH48-01土坑	(32)×(21)	193.480	
FH48トレンチ	柱穴８	<FH48-01土坑	50×42	193.080	
FH48トレンチ	柱穴９	>FH48-02土坑	26×(13)	193.350	
FH48トレンチ	柱穴10	>FH48-03住・FH48-02・03土坑	－	193.500	断面で確認
FH46トレンチ	柱穴１	>FH46-01住	41×(21)	193.220	
FH46トレンチ	柱穴２	なし	32×(15)	193.490	
FH46トレンチ	柱穴３	>柱5	(45)×35	193.700	
FH46トレンチ	柱穴４	>柱5	(17)×22	193.450	
FH46トレンチ	柱穴５	<柱3・4	(14)×(8)	－	掘りきっていない
FH46トレンチ	柱穴６	なし	(40)×(17)	193.827	
FH46トレンチ	柱穴７	>FH46-02住	24×(15)	193.670	
FH46トレンチ	柱穴８	>FH46-02住	26×(11)	193.740	
FH46トレンチ	柱穴９	>FH46-02住	24×24	193.590	
FJ46トレンチ	柱穴１		23×22	194.304	FJ44-01住との新旧関係不明
FJ46トレンチ	柱穴２	なし	28×26	194.328	
FJ46トレンチ	柱穴３	なし	22×21	194.492	
FJ46トレンチ	柱穴４	なし	27×26	194.579	
FJ46トレンチ	柱穴５	なし	26×19	194.494	

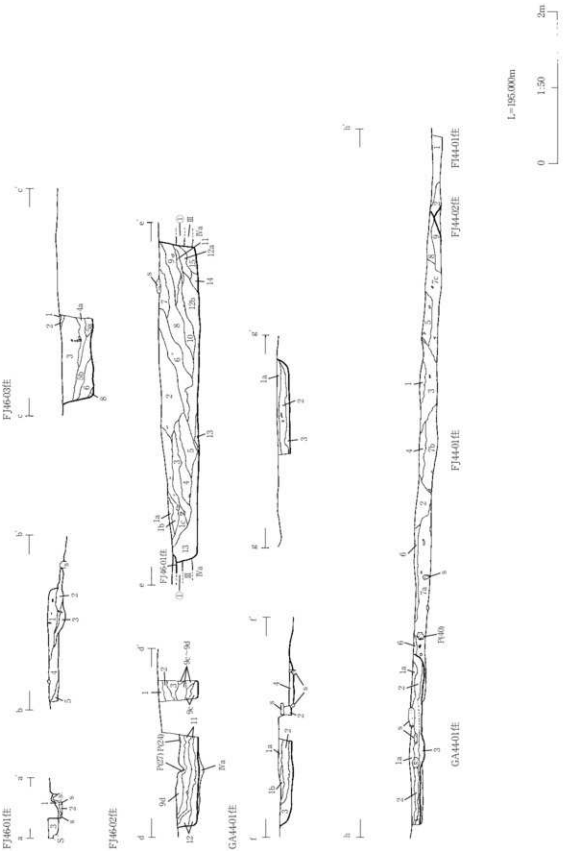


第8図　FH48・FH46トレンチ（1）

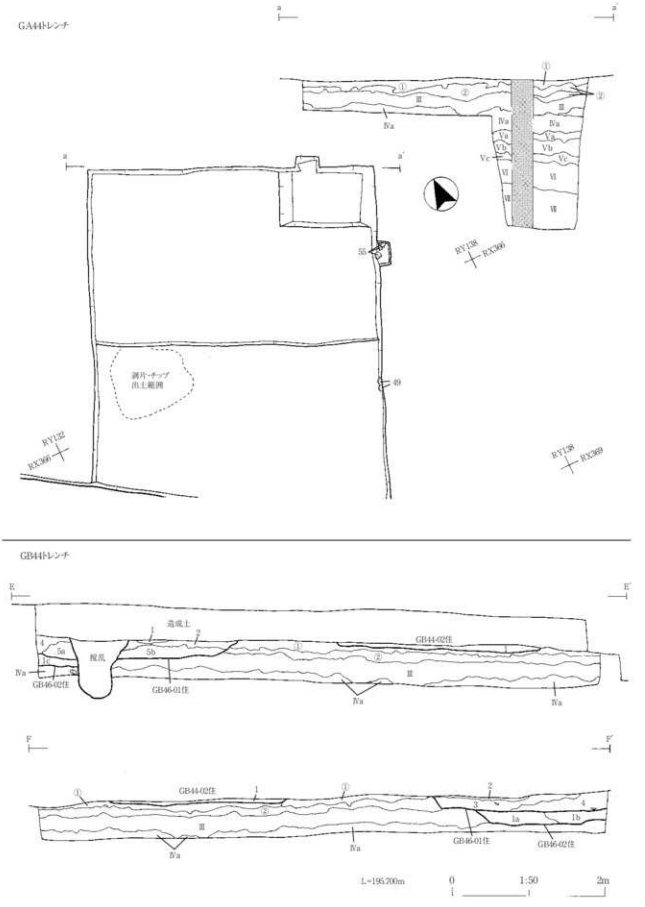


第９図　FH48・FH46トレンチ（２）

第10図　FJ46トレンチ（1）



第11図　FJ46トレンチ（2）



第12図　GA44・GB44トレンチ

3．Ⅳ区東トレンチ

調査概要　Ⅳ区東トレンチはGE56・GF56グリッドに位置し、調査面積は33㎡である。

Ⅳ区東トレンチにおいても②層を確認し、この層を掘り込んで構築されているGF56-01竪穴住居跡などを検出し、精査を行った。

検出した遺構は、竪穴住居跡３棟、土坑７基である。このほかトレンチ北側のGE56グリッドにおいて多量の遺物が出土した。

GE56-01竪穴住居跡（第13～15図、写真図版７）

検出状況　遺跡保護の造成土を除去した後、炭化物や焼土を含む暗褐色土の広がりとして検出した。

重複関係　GE56-02竪穴住居跡に切られる。

平面形・規模　不明

壁・床　床にはやや凹凸が見られ、硬化面が認められた。床面にも焼土や炭化材が認められた。壁はゆるやかに外傾しながら立ち上がる。

床面施設　床面においてしまりのない黒褐色土の広がりとして柱穴１個を検出した。１層は黒褐色土と暗褐色土の混土を主体とし焼土や炭化物が少量混入する。２層は暗褐色土を主体とする。

堆積土　３層に分層した。１層は暗褐色～黒褐色土を主体とし、焼土粒や炭化物粒が少量混入する。色調の違いにより１a・１b層に細分した。２層は炭化材や焼土が多量に混入する。３層は黒褐色～暗褐色土を主体とする。締りは弱い。

出土遺物　第Ⅲ A・Ⅲ B 群土器が出土し、このうち10点（第30図80～89）を掲載した。石器は11点出土した。石鏃５点（表№16・46・47・67・77）、石鏃未製品４点（表№114～117）、敲磨器類２点（表№279・290）である。また、２層最下部からは多量の骨片が出土した。

GE56-02竪穴住居跡（第13・14図、写真図版７）

検出状況　GE56-01竪穴住居跡と同一の遺構として掘り下げていたが、床面において周溝のプランを検出し、E-E′断面において別遺構と確認した。

重複関係　GE56-01竪穴住居跡を切る。

平面形・規模　不明

壁・床　Ⅴb層中を床面とする。今回の調査部分では、貼床や硬化面などは認められず、床はやわらかい。壁は外傾しながら立ち上がる。

床面施設　床面において周溝を検出した。また、柱穴１個を検出した。柱穴の堆積土は暗褐色土を主体とし、黄褐色土ブロックが多量に混入する。床面からの深さは36cmを測る。

堆積土　10層に分層した。１層は褐灰色土を主体とし、粘性・締りともに弱い。２～８層は暗褐色土を主体とし、黄褐色土ブロックや炭化物の混入の違いにより細分した。壁際の９・10a層は黒褐色土を主体とし、黄褐色土ブロックが混入する。

出土遺物　縄文土器が少量出土したが、小片のため不掲載とした。また、石鏃２点（表№17・48）、二次加工ある剥片２点（表№201・202）が出土した。

GF56-01竪穴住居跡（第13・15図、写真図版７・８）

検出状況　遺跡保護の造成土を除去した後、炭化物や焼土、土器片を含む暗褐色土の広がりとして検出した。

重複関係　なし

平面形・規模　不明

壁・床　Ⅴb層中を床面とする。床面はほぼ平坦で、図示していないが貼床が認められた。壁はほぼ直立した後、上部では外傾しながら立ち上がる。

堆積土　27層に分層したが、次のように大別される。1～2層は暗褐色土を主体とし、炭化物や焼土粒が少量混入する。第ⅡA群土器を主体とする土器片が多く出土した。3～5層は黒褐色土を主体とし、炭化物や焼土粒が混入する。土器片、剥片なども出土した。6～14層は黒褐色土を主体とし、暗褐色土ブロックや黄褐色土ブロックが混入し、炭化物粒も少量混入する。15層は黄褐色土ブロックの混入が多くなる。16層以下は炭化物粒が少量混入する黒褐色土と黄褐色土の互層となる。18層からは第30図98が出土した。18層は黒褐色土を主体とし、黄褐色土ブロックや炭化物が混入する。23・25層は黒褐色土、24・26層は暗褐色土である。27層は黒褐色土を主体とし、浅黄橙色土ブロックが混入する。1～20層は自然堆積、21～27層は自然堆積と捉えられよう。

出土遺物　16点（第31図98～113）を掲載した。1～3層からは第ⅡA群土器が多く出土し、少量だが第ⅡB・ⅢB群土器も出土している。石器は15点出土した。石鏃未製品6点（表№119～124）、スクレイパー2点（表№178・179）、石錐（表№185）、二次加工ある剥片（表№203～205）、敲磨器類2点（表№256・278）、台石（表№300）である。

GE56-01土坑（第13図、写真図版7）

検出状況　②層中において黒褐～暗褐色土の広がりとして検出した。

重複関係　なし

平面形・規模　不明

壁・底面　Ⅳa～Ⅳb層中を底面とする。底面はほぼ平坦で、壁は外傾しながら立ち上がる。北側の立ち上がりはごく緩やかである。

堆積土　黒褐～暗褐色土を主体とし、土器片や炭化物を少量含む。

出土遺物　縄文土器が少量出土したが不掲載とした。

GE56-02土坑（第13・15図、写真図版7）

検出状況　②層中において黒褐～暗褐色土の広がりとして検出した。

重複関係　なし

平面形・規模　不明

壁・床面　Ⅲ層～14層中を底面とする。底面はほぼ平坦で、壁は外傾しながら立ち上がる。

堆積土　黒褐色土と暗褐色土の混土を主体とし、焼土ブロックや炭化材が混入する。人為堆積の様相を呈する。

出土遺物　縄文土器が少量出土したが不掲載とした。

GE56-03土坑（第13・15図、写真図版7）

検出状況　14層の掘り下げ中に検出した。

重複関係　なし

平面形・規模　不明

壁・底面　Ⅳb～Ⅴa層中を底面とする。底面はやや北側に傾く。壁は外傾しながら立ち上がる。

堆積土　3層に分層した。1層は黒褐色土と暗褐色土の混土を主体とし、土器片や微量の炭化物を含む。2層は1層より黄褐色土ブロックが多量に混入する。3層は暗褐色土と褐色土の混土を主体とし、炭化物が極

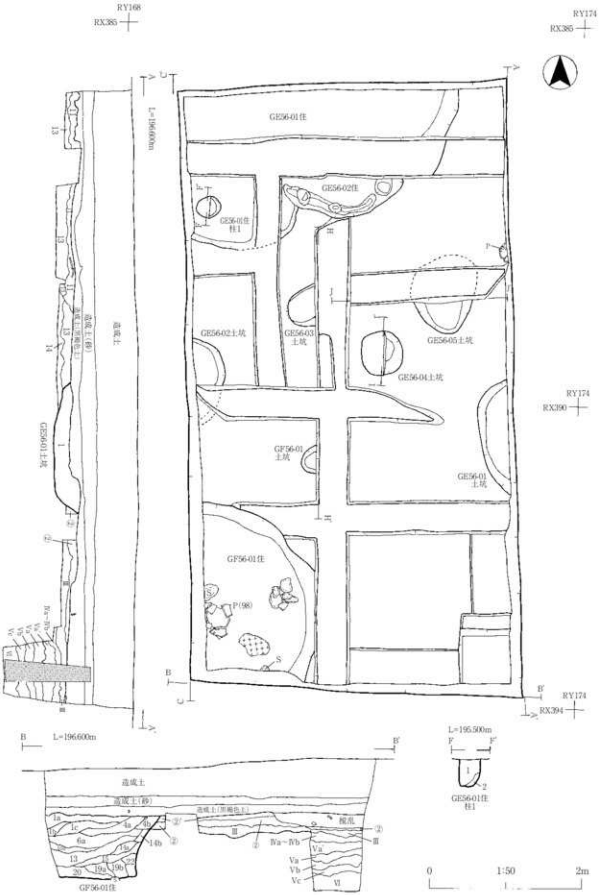
少量混入する。
出土遺物　縄文土器が少量出土したが、不掲載とした。

GE56-04土坑（第13・15図、写真図版７）
検出状況　14層中において剥片・チップを含む黒褐色土の広がりとして検出した。
重複関係　なし
平面形・規模　直径55cmの円形を呈すると考えられる。
壁・底面　壁は外傾しながら立ち上がる。Ⅳb～Ⅴa層中を底面とし、ほぼ平坦である。
堆積土　２層に分層した。１層は黒褐色土を主体とし、剥片・チップを多量に含む。２層は暗褐色土と褐色土の混土である。
出土遺物　なし

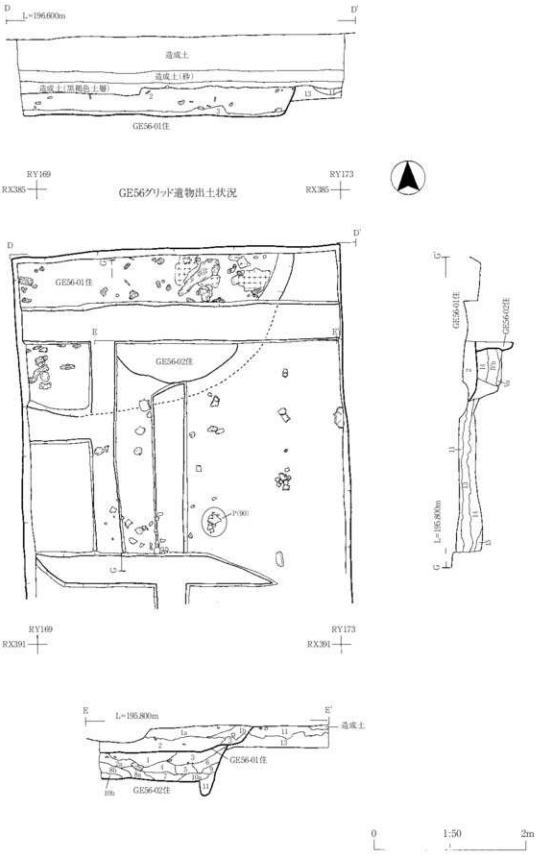
GE56-05土坑（第13・15図、写真図版８）
検出状況　11～13層の掘り下げ中に炭化種実を多く含む暗褐色土の広がりとして検出した。
重複関係　なし
平面形・規模　102×96cmの楕円形を呈すると考えられる。
壁・底面　壁は外傾しながら立ち上がる。Ⅳb層中を底面とする。底面は擂鉢状を呈する。
堆積土　２層に分層した。人為堆積と考えられる。１層は暗褐色土を主体とし、炭化種実や炭化材のほか、土器片や剥片・チップなどを含む。２層は黒褐～暗褐色土を主体とし、炭化種実を多量に含む。
出土遺物　縄文土器が少量出土したが、不掲載とした。

GE56-06土坑（第15図、写真図版７）
検出状況　13～14層の掘り下げ中にC-C′断面において確認したが、平面では捉えることができなかった。
重複関係　なし
平面形・規模　不明
壁・底面　土層断面では外傾しながら立ち上がる。底面は掘りきっていない。
堆積土　暗褐色土を主体とし、炭化物が少量混入する。
出土遺物　なし

GF56-01土坑（第13・15図、写真図版７）
検出状況　Ⅲ層中において暗褐色土の広がりとして検出した。
重複関係　なし
平面形・規模　不明
壁・底面　Ⅳb層中を底面とする。壁は底面から緩やかに外傾しながら立ち上がる。
堆積土　２層に分層した。１層は暗褐色土を主体とし、炭化物が少量混入する。２層は暗褐色土と褐色土の混土である。
出土遺物　縄文土器が少量出土したが小片のため、不掲載とした。

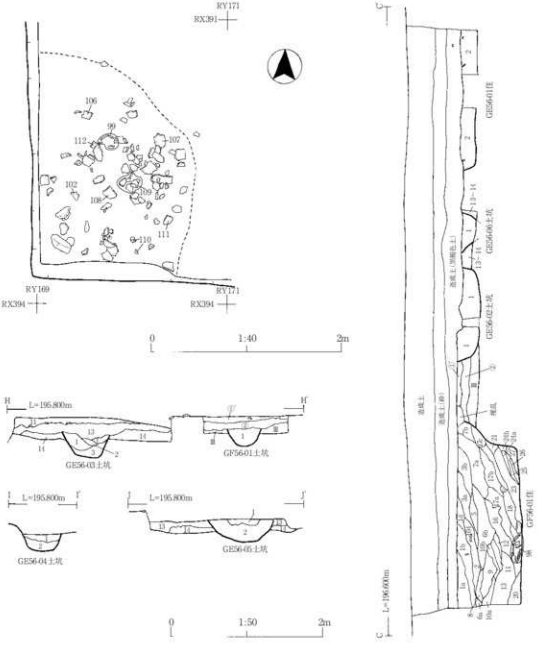


第13図　Ⅳ区東トレンチ（1）



第14図　Ⅳ区東トレンチ（2）

GF56-01住　1～3層　遺物出土状況



第15図　Ⅳ区東トレンチ（3）

GE56グリッド出土遺物について（第14図）

概要　Ⅳ区東トレンチ北側のGE56グリッド（第14図E-E'・G-G'断面11～14層）からは第ⅡA群土器を主体とし、少量の第ⅡB・ⅢB群土器が出土した。

11層は暗褐色土を主体とし、褐色土ブロックや炭化物粒が少量混入する。土器片の大半はこの層から出土した。13層は黒褐色土を主体とし、粒状～ブロック状の暗褐色土や炭化物粒を少量混入する。剥片やチップが多く出土した。14層は黒褐色土と暗褐色土の混土を主体とし、炭化物が少量混入する。なお、14層は下げきっていない。

遺物の取り上げの際は、GE56グリッド西側を「GE56Q3」、東側を「GE56Q4」として、出土地点を分けた。

出土遺物　土器は8点（第30図90～97）を掲載した。石器は22点出土した。石鏃6点（表№18・19・49～51・62）、石鏃未製品6点（表№125～130）、両面加工石器3点（表№159～160）、スクレイパー1点（表№180）、使用痕ある剥片2点（表№234・243）、敲磨器類4点（表№267・280・288・289）である。このほか、剥片・チップも多量に出土している。

4．Ⅳ区西トレンチ1

調査概要　Ⅳ区西トレンチ1は、FE38・FF38グリッド付近に位置し、調査面積は29㎡である。

先にも述べたが、このトレンチでは①層に相当する黄褐色土ブロックを確認するとともに、竪穴住居跡を検出し、精査を行った。また、FE38グリッド、FF38グリッドにおいて多量の遺物が出土した。

検出した遺構は竪穴住居跡2棟、柱穴1個である。

FE38-01竪穴住居跡（第16・17図、写真図版8・9）

検出状況　Ⅰ層を掘り下げた後、遺物を多く含む暗褐色土の広がりとして検出した。

重複関係　FE38-02竪穴住居跡を切る。

平面形・規模　不明

壁・床面　西側では外傾しながら壁が立ち上がることを確認したが、南側では壁の立ち上がりを捉えることができなかった。床はほぼ平坦で貼床（5層）が認められた。

堆積土　5層に分層した。1層は暗褐色土と黄褐色土の混土を主体とし、縄文土器片や円礫、炭化物粒などの遺物を多く含む。2層は黒褐色土を主体とし、剥片・チップや炭化物粒を多量に含む。3層は暗褐色土を主体とし、黄褐色土ブロックが多量に混入する。4層は現地性の明赤褐色焼土である。

出土遺物　1～3層から第ⅢB・Ⅳ群土器が出土し、このうち5点（第32図114～118）を掲載した。第31図114は床直から出土した。石器は、石鏃未製品2点（表№134・135）、二次加工ある剥片1点（表№210）が出土した。

FE38-02竪穴住居跡（第16・17図、写真図版8・9）

検出状況　B-B'断面およびサブトレンチ内の精査中において確認した。

重複関係　FE38-01竪穴住居跡に切られる。

平面形・規模　不明

壁・床面　B-B'断面においては外傾しながら立ち上がる。床面は凹凸が認められる。Ⅴ層中を床面とするが、黄褐色土をそのまま床としているのではなく、炭化物を少量含む黒褐色土を貼床しており、固くしまる。

堆積土　8層に分層した。1～7層は人為堆積と考えられる。1層は暗褐色土を主体とし、黄褐色土ブロックが多量に混入する。2層は明黄褐色土で固く締まる。3層は黒褐色土と褐色土と黄褐色土の混土、4層は

暗褐色土、5層は黄褐色土と黒褐色土の混土を主体とし、それぞれ炭化物粒が少量混入する。6層は明黄褐色土と浅黄橙色土の混土で固く締まる。7層は黒褐色土を主体とし、粒状～ブロック状の黄褐色土が中量、炭化物粒や焼土が少量混入する。

出土遺物　各層とも出土遺物は少ない。5・6層から出土した3点（第32図119～121）を掲載した。また石錐1点（第37図14）を掲載した。このほか6層上面において炭化材が出土したことが特筆されよう。

柱穴1（第16図、写真図版8）

検出状況　FE38-01竪穴住居跡の精査中に検出した。

規模　開口部は46×32cmを測る。検出面からの深さは48cmを測る。

重複関係　なし

堆積土　黒褐色土を主体とし、混入物の違いによって2層に分層した。2層は粉～ブロック状の黄褐色土が中量混入する。

出土遺物　外反する無文の口縁部片（第32図12）を掲載した。このほか石鏃1点（表№23）が出土した。

FE38グリッド出土遺物について（第16・17図、写真図版9）

概要　FE38⑲・㉕付近（第16図B-B′断面11～15層）からは縄文土器、石器、剥片・チップ、炭化物、骨片など多量の遺物が出土した。竪穴住居跡などの遺構の可能性も考えられるが、今回の調査では明確な立ち上がりを確認することはできなかった。

11層は遺物を多量に含む層である。暗褐色土を主体とし、炭化物を中量、骨片や焼土粒を少量混入する。この層からは第Ⅲ A・B群土器が多量に出土した。大形の破片も含まれていたが、完形品は出土しなかった。このうち15点（第33図131～140、第34図141～145）を掲載した。

12層は骨片や炭化物を多量に含む橙色焼土層である。焼土は現地性のものではなく、骨片や炭化物と混在する様相であった。骨片にはシカやイノシシに同定されたものが含まれる。13層は黒褐色土を主体とし、炭化物を多く含む。

14・15層は暗褐色土を主体とし、炭化物粒や焼土粒が混入する。14層は炭化材（φ～1cm）を中量、骨片や焼土粒を少量混入する。15層は14層より炭化材がやや多く混入する。

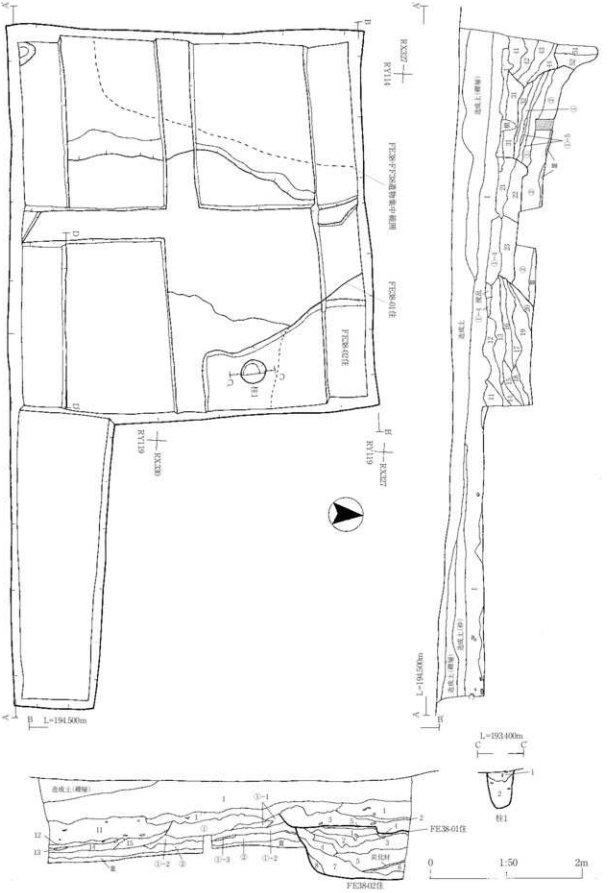
石器は22点出土した。石鏃5点（表№21・22・24・52・84）、石鏃未製品3点（表№132・133・136）、二次加工ある剥片3点（表№206～208）、使用痕ある剥片1点（表№235）、楔形石器1点（表№244）、敲磨器類8点（表№268～270・281・282・291～293）、台石1点（表№302）である。

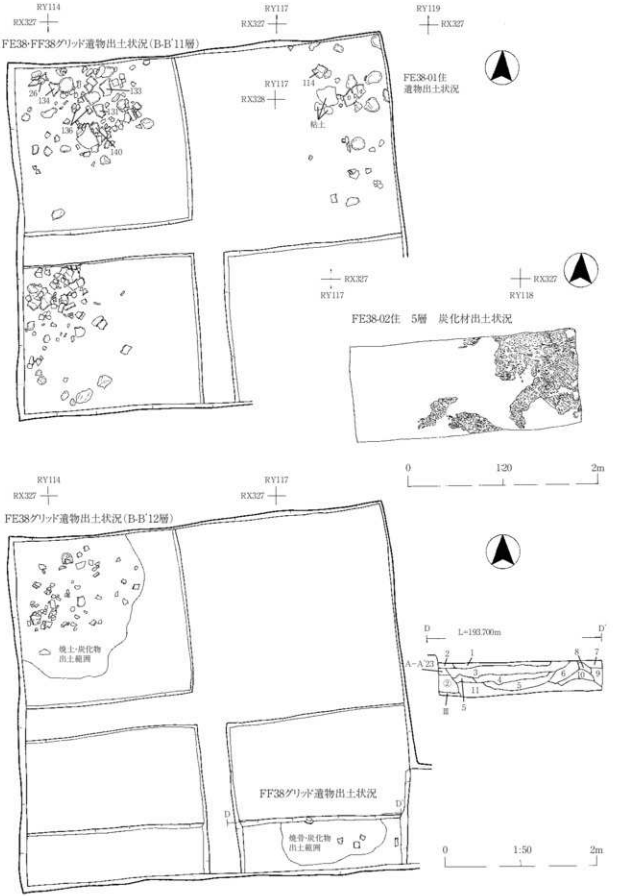
FF38グリッド出土遺物について（第17図、写真図版9）

概要　FF38⑩・⑪付近では、サブトレンチの精査中に多量の骨片・炭化種実が出土した。出土した骨片のなかには、シカの袋角と同定されたものがあり注目される。これらは第17図D-D′断面（1～11層）の4層に相当すると考えられる。

1層は黒褐色土を主体とし、粒状～小ブロック状の黄褐色土を少量、炭化物粒・焼土粒を極少量混入する。2層は褐色土と黄褐色土の混土である。3層は暗褐色土を主体とし、炭化物が少量混入する。4層は骨片や炭化物が多量に出土した層であり、黒褐色土を主体とする。焼土は認められなかった。5～11層は黒褐～暗褐色土を主体とする。色調や混入物の違いにより分層した。

これらの土層は人為堆積と考えられ、遺構堆積土の可能性も考えられるが、今回の調査では判然としなかった。


FE38-01住
FE38-02住
FE38-03住
FE38-04住
FE38-05住
FE38-06住
FE38-07住
FE38-08住
FE38-09住
FE38-10住
FE38-11住
FE38-12住
FE38-13住
FE38-14住
FE38-15住
FE38-16住
FE38-17住
FE38-18住
FE38-19住
FE38-20住
FE38-21住
FE38-22住
FE38-23住
FE38-24住
FE38-25住
FE38-26住
FE38-27住
FE38-28住
FE38-29住
FE38-30住
FE38-31住
FE38-32住
FE38-33住
FE38-34住
FE38-35住
FE38-36住
FE38-37住
FE38-38住
FE38-39住
FE38-40住
FE38-41住



第17図　Ⅳ区西トレンチ１（２）

5．Ⅳ区西トレンチ２

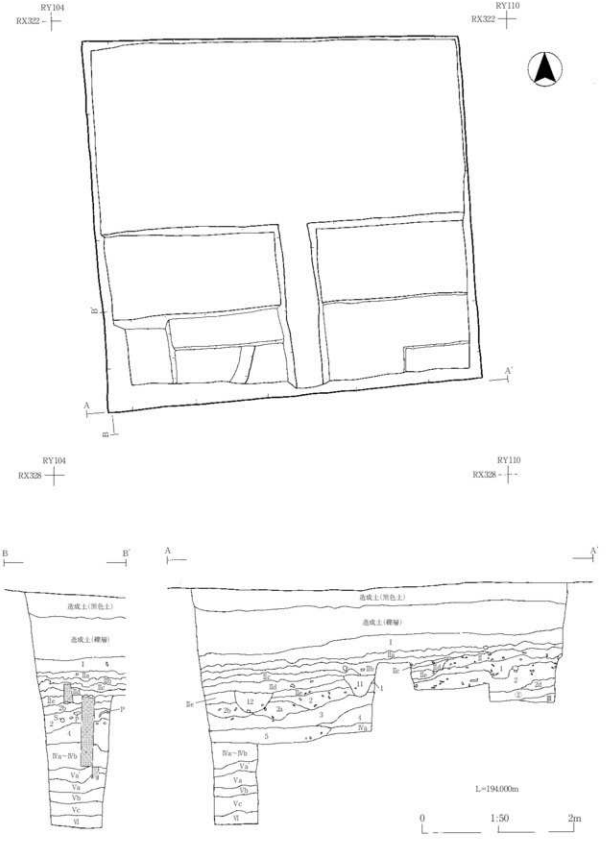
調査概要（第18図、写真図版10）

Ⅳ区西トレンチ２は、FD34・FD36・FE34・FE36グリッドに位置し、調査面積は23㎡を測る。

先にも述べたが、最初にトレンチ全面においてⅡｂ層中まで掘り下げを行った。その後、トレンチ南端にサブトレンチを設定し、さらに精査を行った。

堆積土　トレンチ南壁 A-A’ 断面において、Ⅰ・Ⅱ層（Ⅱａ～Ⅱｅ層に細分）の下位において、黒褐色～暗褐色土を主体とし、縄文土器や石器、剥片･チップ類、炭化物粒や焼土粒、骨片などを含む土層を確認し、１～５層に分層した。A-A’ 断面東端では、２層下位において、Ⅳ区西トレンチ１で確認した②層に類似する黒褐色土層を確認し、さらにその下位ではⅢ層を確認できた。ただし、Ⅳ区西トレンチ１で確認した①層は確認できなかった。A-A’ 西側で確認した５層は、Ⅳａ～Ⅳｂ層中にほぼ平坦な面が認められ、サブトレンチ内においてわずかだが立ち上がりも確認できたことから、遺構の可能性が考えられる。A-A’ 西端では、基本土層をⅣａ～Ⅳｂ層以下、Ⅵ層まで確認した。

出土遺物　１～５層からは第ⅢＡ・ⅢＢ群土器が出土した。このうち15点（第35図156～169）を掲載した。石器は４点出土した。石鏃２点（表№27・28）、石鏃未製品１点（表№148）、スクレイパー１点（表№183）である。Ⅱａ～ｄ層からは、第ⅢＡ・Ｂ群土器のほか第Ⅳ・Ⅴ群土器や後期初頭の土器も出土した。また、円盤状土製品８点（第36図５～12）、ミニチュア土器２点（第36図15・16）、石器６点が出土した。



第18図　Ⅳ区西トレンチ２

6．配石トレンチ

調査概要　配石トレンチはFG50・FG52・FH50・FH52グリッドに位置し、調査面積は27㎡である。

平成元年度調査において検出されたFG52配石を再掘し、確認面の土層の確認を行い、竪穴住居跡などの遺構検出を試みた。いくつかの不整形の黒色土の広がりは確認できたが、この面においては、明確な遺構プランを検出することはできなかった。そこで、トレンチ南側において、FG52配石を確認した面から５～10㎝掘り下げ、再度遺構検出を行い、竪穴住居跡や柱穴と考えられるプランを検出した。さらに、トレンチ南端にサブトレンチを設定し、検出した遺構の層位的な関係を把握するために掘り下げを行った。

検出・精査した遺構は、配石遺構1基、竪穴住居跡２棟、柱穴10個である。柱穴の精査状況、規模や重複関係などは第２表の通りである。なお、検出のみ行った遺構には１～18の仮遺構№を付した。

FG52配石（第19図、写真図版11）

検出状況　FG52配石は平成元年度調査において検出されている。配石周辺のグリッドでは平成２年度調査において、長径５～30㎝の礫が散漫して出土した状況が確認されている。今回の調査ではこの調査面まで再び掘り下げ、確認を行った。

確認面の土層　黒褐色土を主体とし、土器片や礫、炭化物粒や焼土粒などが混入する（第19図 A-A’ ３層）。

重複関係　不明

形状　２ｍ×1.4ｍの楕円形範囲に、長径80㎝、厚さ25㎝の巨礫（花崗岩）の周囲に20～40㎝の礫が集中する。

使用礫の石質は、以前の調査において、花崗岩の他、安山岩やチャートが含まれていることが確認されている。下部構造は不明である。

出土遺物　確認面において出土した土器は10㎝以下の破片で、地文のみのものが多かった。第Ⅲ B 群土器の破片も見受けられたが、時期がわかる資料は少なかった。

FH50-01竪穴住居跡（第19図、写真図版11）

検出状況　FG52配石の確認面から10㎝ほど掘り下げ、炭化物や焼土を含む暗褐色土の広がりとして確認した。

重複関係　FH50-02竪穴住居跡を切る。また、柱穴１に切られる。

平面形・規模　不明

壁・床　外傾しながら立ち上がる。Ⅴb 層中を床面とし、平坦である。貼床が認められた。

堆積土　１～３層に分層した。１層は暗褐色土を主体とし、ブロック状の褐色土や黄褐色土が多量に混入する。炭化材や粒～ブロック状の焼土も中量混入する。２層は焼土が多量に混入する。３層は黒褐色土を主体とし、１層より炭化材の混入が多い。また、壁際では黄褐色土ブロックの混入が多い。

出土遺物　第Ⅲ B、Ⅳ群土器が出土したが、小破片のものが大半である。

FH50-02竪穴住居跡（第19図、写真図版11）

検出状況　FH50-01竪穴住居跡の精査中に、土層断面において重複関係とともに確認した。

重複関係　FH50-01に切られる。また、柱穴７を切る。

平面形・規模　不明

壁・床　土層断面では、ほぼ直立して立ち上がった後、上部では外傾しながら立ち上がる。Ⅴb 層中を床面とし、ほぼ平坦である。

堆積土　暗褐色土を主体とし、黄褐色土ブロックの混入により２層に分層した。２層は黄褐色ブロックを多

量に混入する（壁の崩壊土か）。

出土遺物　なし

柱穴１～10（第19図、写真図版11、第２表）

10個の柱穴を検出した。精査の状況、規模や重複関係などは第２表の通りである。

柱穴10の堆積土は暗褐色～黄褐色土を主体とする。色調や混入物の違いによって５層に分層した。柱穴内からは20cmの礫が10個ほど出土したことが特筆されよう。人為的な埋め戻しが行われた可能性が考えられる。

７．配石南トレンチ

調査概要　配石南トレンチは、FH48トレンチの東側、Ⅳ区と配石トレンチの間の緩斜面に設定し、FH50・FI50グリッドに位置する。また、この場所は平成元～４年度調査の土層観察用ベルトにあたる。調査面積は５㎡である。

トレンチの南側ではⅡｃ層下位において、約５～20cmの礫や土器片などが出土した。これらが出土した層位は、Ⅳ区FH46トレンチに位置するFI46配石の層位に相当すると考えられる。なお、平成２年度調査において遺跡中央部の配石遺構が検出されており、配石南トレンチに隣接するFH50・FI50グリッドにおいても礫の広がりが確認されている。

トレンチ南側では、Ⅱｃ層の下位に暗褐色土を主体とする土層（第20図 A-A’断面１～４層、写真図版11）を確認した。黄褐色土ブロック、炭化物粒や焼土粒などの混入物の違いから４層に分層した。１層からは第ⅡＡ・ⅢＡ・ⅢＢ・Ⅳ群土器、２～４層からは第ⅢＢ・Ⅳ群土器が出土した。いずれも５～10cmほどの破片で、地文のみのものが多かった。これらの土層の様相は、Ⅳ区やⅣ区西トレンチ１で検出した竪穴住居跡の堆積土に類似しているが、立ち上がりや周溝などの床面施設をとらえることはできず、判然としなかった。

トレンチ北側では、黄褐色土を主体とする土層（第20図 A-A’断面11～15層、写真図版11）を確認した。14層から剥片が１点出土したのみで、このほかの出土遺物はなかった。

配石南トレンチで検出した遺構は、土坑３基、柱穴30個以上である。このうち、柱穴は断面にかかる22個を精査し、残りは検出のみにとどめた。柱穴の精査状況、規模や重複関係などは第３表の通りである。

FH50-01土坑（第20図）

検出状況　掘り下げ中に A-A’断面において確認したが、平面では捉えることができなかった。

重複関係　土坑２・３、柱穴２・19を切る。

平面形・規模　不明

壁・床　土層断面では外傾しながら立ち上がる。黄褐色土層中を床面とし、ほぼ平坦である。

堆積土　黒褐色土を主体とし、炭化物粒や焼土粒を極少量含む。

出土遺物　なし

FH50-02土坑（第20図）

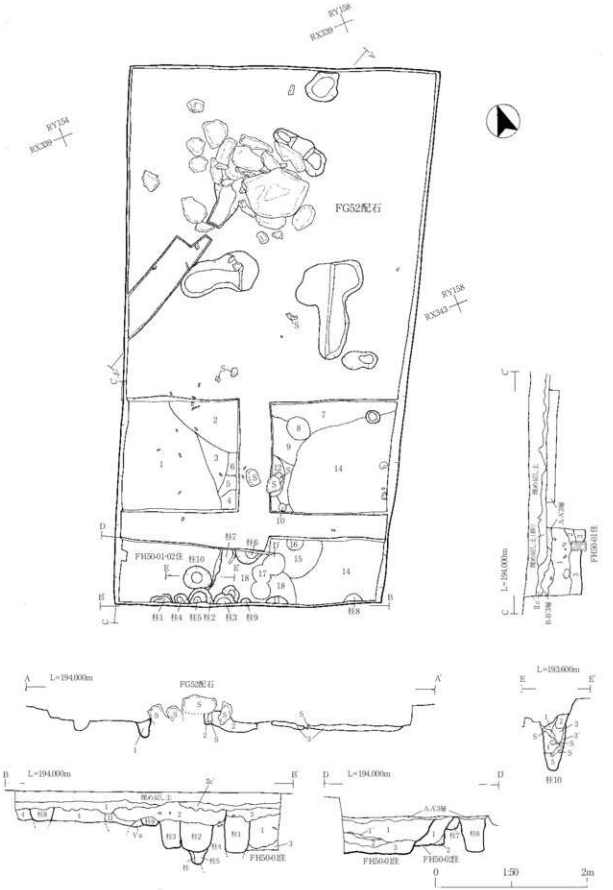
検出状況　掘り下げ中に A-A’断面において確認したが、平面では捉えることができなかった。

重複関係　柱穴８・９を切る。また、土坑１・３に切られる。　　平面形・規模　不明

壁・床　土層断面では外傾しながら立ち上がる。黄褐色土層中を床面とし、ほぼ平坦である。

堆積土　暗褐色土を主体とし、黄褐色土ブロックが中量、炭化物粒・焼土粒が少量混入する。

出土遺物　なし


FG52配石
FH5041-02住
FH5041住
FH5042住
L=194.000m
L=193.600m
0
1:50
2m

第19図　配石トレンチ

FH50-03土坑（第20図）

検出状況　土坑１・２の底面レベルまで掘り下げ、黄褐色土が混入する土層中において、焼土粒が混入する暗褐色土と黄褐色の広がりとして検出した。

重複関係　土坑２、柱穴８を切る。また、土坑１に切られる。

平面形・規模　不明

壁・床　外傾しながら立ち上がる。黄褐色土層中を床面とし、ほぼ平坦である。

堆積土　暗褐色土と黄褐色土の混土を主体とし、炭化物粒・焼土粒を少量混入する。また、下部では黄褐色土ブロックが多量に混入する。

出土遺物　なし

柱穴１～22（第20図、写真図版11、第３表）

トレンチ南側では１～４層掘り下げ後のⅥ層中において、トレンチ北側では土坑１・２の底面レベルまで掘り下げ、黄褐色土が混入する土層中において、30個以上の柱穴を検出した。このうち、断面にかかる22個を精査し、残りは検出のみにとどめた。規模や重複関係などは第３表の通りである。

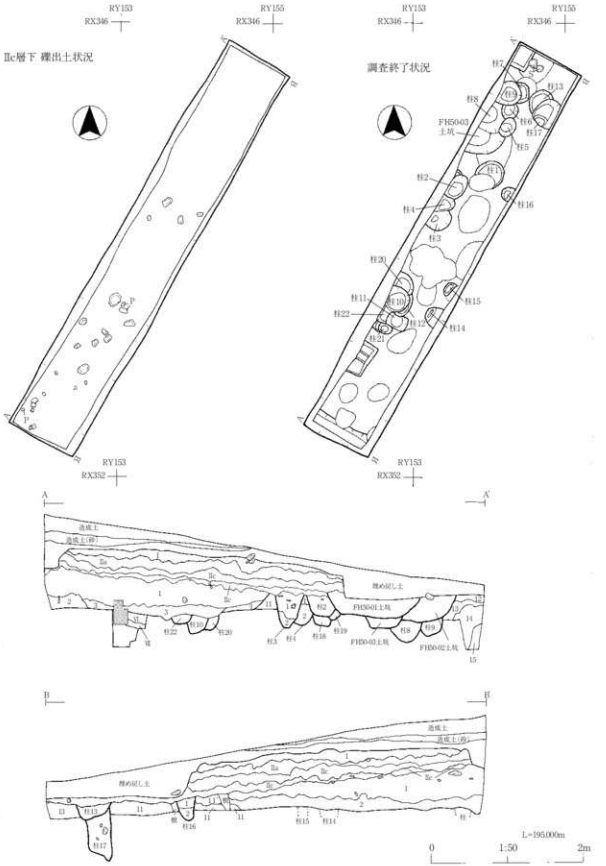
柱穴17の堆積土は、暗褐色土を主体とし、小ブロック～ブロック状の黄褐色土が多量に混入する。５cmほどで地文のみの土器片や剥片が少量出土したほか、焼成粘土塊が出土したことが特筆されよう。配石トレンチ柱穴10と同様に、人為的な埋め戻しが行われた可能性が考えられる。

第２表　配石トレンチ柱穴表

遺構名	重複関係	開口部径（cm）	底面標高（m）	精査状況
柱穴１	>FH50-01住・柱4	－	－	断面で確認
柱穴２	＞柱3・4・5	(35)×(19)	193.080	サブトレンチ内掘り下げ
柱穴３	＜柱2	(30)×(14)	193.140	サブトレンチ内掘り下げ
柱穴４	＜柱1・2・4	(18)×(13)	－	断面で確認。掘りきっていない。
柱穴５	＜柱2、＞柱4	(22)×(14)	－	断面で確認。掘りきっていない。
柱穴６	なし	(35)×(18)	193.115	サブトレンチ内掘り下げ
柱穴７	<FH50-02住	－	193.405	サブトレンチ内掘り下げ
柱穴８	不明	－	－	検出のみ
柱穴９	不明	－	－	検出のみ
柱穴10	>FH50-01住	36×30	192.520	完掘

第３表　配石南トレンチ柱穴表

遺構名	重複関係	開口部規模（cm）	底面標高（m）	備考
柱穴１	＜柱（検出のみ）	40×37	193.330	
柱穴２	＞柱４・18・19	35×(21)	193.322	
柱穴３	＞柱４	(36)×(31)	193.382	
柱穴４	＜柱２・３	(20)×(26)	193.410	
柱穴５	＞柱６	28×23	193.330	
柱穴６	＜柱５・９	33×28	193.315	
柱穴７	＜柱９	29×25	193.410	
柱穴８	＜土坑２・３、＞柱９	(41)×(23)	193.187	
柱穴９	＜土坑２・柱８、＞柱７	(34)×(29)	193.252	
柱穴10	＜柱22、＞柱12・20	(29)×(32)	193.273	
柱穴11	＜柱12、＞柱21・22	28×19	193.317	
柱穴12	＜柱10・20、＞柱11	(38)×(7)	193.142	
柱穴13	＜柱17	36×(15)	193.357	
柱穴14	なし	(27)×(16)	193.333	
柱穴15	なし	(16)×(23)	193.525	
柱穴16	なし	(14)×(20)	193.472	
柱穴17	＞柱13	(39)×(30)	192.942	
柱穴18	＜柱２・４・19	－	193.360	断面で確認
柱穴19	＜柱２、＞柱18	－	193.450	断面で確認
柱穴20	＜柱10、＞柱12	(27)×(21)	193.342	
柱穴21	＜柱11・22	(17)×(14)	193.430	
柱穴22	＜柱10・11・12、＞柱21	(24)×(9)	193.400	



第20図　配石南トレンチ

8．縄文の森

調査概要

今回の発掘調査では、時期不明の土坑２基、古代の土坑1基を検出した。出土遺物は、縄文土器と弥生土器が少量である。１～８までトレンチ（第４図）を設定したが、５、６トレンチは沢部分にトレンチを設定したため水が湧き等高線が測れない状態となった。また、６トレンチは沢を横断するようにトレンチを設定したため、断面の計測途中に崩落し、トレンチの一部が埋まり計測不能となった部分がある。

調査トレンチの層序は、植物や樹木の根、枯死した植物などによる攪乱が著しいことや斜面に立地していることなどの条件により、台地上の基本層序との対比が困難な状況にあることから、縄文の森に関しては別とした。１～３トレンチの層序では、３層暗褐色土とその下位層の褐色土の境が明瞭であることから、ある時期に褐色土まで浸食ないし人為的に削平されたものと考えられる。7･8トレンチの層序は１･２層までは１～３トレンチと基本的には同様の堆積層をなすが、３層に砂礫が混入している。当然その下位層には砂礫が多く混入している。御所野縄文博物館建設に伴い実施されたボーリング調査資料によると、山地斜面にはこのような砂礫層が堆積していることが確認されている。

１トレンチ（第21図・写真図版12）

標高　236.9m～238.2m　　**面積**　105㎡

層序　１層黒褐色土で植物の細かい根が多く入り込んでいる。２ａ層黒褐色土に褐色土をブロック状に少量含む。２ｂ層暗褐色土ににぶい黄橙色火山灰をブロック状に含む。２ｄ層黒褐色土ににぶい黄褐色土をブロック状に含む。３層暗褐色土と褐色土の混土。２・３層の断面に植物や樹木の根痕が多くみられる。遺物は１･２層から出土している。

出土遺物（第40図1～６･24）　１は円筒上層ｂ式土器である。縄文を爪形文のように圧痕した文様で、その下部には粘土紐の貼付けが剥がれた痕が残る。５は弥生土器で外面と内面に撚糸文が施文されている。６は指の圧痕が残る弥生土器である。24は１層上面で採取した磨石である。

土坑１

位置　トレンチ南西端　　**検出面**　褐色土　　**平面形**　楕円形

規模　開口部110cm×（80cm）

層序　１層暗褐色土とにぶい黄橙色火山灰の混土。２層黒色土と暗褐色土の混土で１層の火山灰をブロック状に少量含む。３層黒褐色土と褐色土の混土。

出土遺物　なし

２トレンチ（第22図・写真図版12）

標高　238.5m～239m　　**面積**　38㎡

層序　１層黒褐色土で植物の細かい根が多く入り込んでいる。２ａ層黒褐色土に褐色土をブロック状に少量含む。２ｂ層暗褐色土ににぶい黄橙色火山灰をブロック状に含む。２ｃ層黒色土、３層暗褐色土と褐色土の混土。２・３層の断面に植物や樹木の根痕が多くみられる。遺物は１・２層から出土している。

出土遺物（第40図７～９）　７・９は表と裏が赤く焼けている縄文土器である。強い火をうけたためと考えられる。ほかに弥生土器の小片４点が出土している。

３トレンチ（第22図・写真図版12）

標高　237.6m～239.0m　　**面積**　58㎡

層序　1層黒褐色土で植物の細かい根が多く入り込んでいる。2a層黒褐色土に褐色土をブロック状に少量含む。2b層暗褐色土ににぶい黄橙色火山灰をブロック状に含む。2c層黒色土。2d層黒褐色土。3層暗褐色土と褐色土の混土。2・3層の断面に植物や樹木の根痕が多くみられる。遺物は1・2層から出土している。

出土遺物（第40図10～12）　10は沈線による区画文が描かれている。11は深鉢の口縁部で貼り付けと沈線の渦巻文が施されているが、口縁部の器形と文様から大木9式土器と考えられる。12は弥生土器の底部で、他にも弥生土器が出土している。

土坑1

位置　トレンチ南端　　**検出面**　褐色土　　**平面形**　不定形

重複関係　土坑2を切っている。

規模　開口部径236cm×222cm　底部径150cm×120cm　検出面からの深さ30cm

堆積土　1層黒褐色土。2層黒褐色土と暗褐色土がブロック状に混土。3層暗褐色土と褐色土がブロック状に混土。4層黒褐色土。5層黒褐色土と暗褐色土がブロック状に混土。6層暗褐色土とにぶい褐色土がブロック状に混土。7層暗褐色土と褐色土がブロック状に混土。8層褐色土。

出土遺物　なし

土坑2

位置　トレンチ南端　　**検出面**　褐色土　　**平面形**　円形

重複関係　土坑1に切られる。

規模　開口部径210cm×（140cm）　底部径180cm×（120cm）　検出面からの深さ30cm

堆積土　1層黒褐色土。2層黒褐色土と暗褐色土がブロック状に混土。3層暗褐色土とにぶい褐色土がブロック状に混土。4層暗褐色土と褐色土がブロック状に混土。

出土遺物　なし

4トレンチ（第23図・写真図版12）

標高　222.6m～226.6m　　**面積**　8㎡

層序　上位から黒褐色土、黒色土、にぶい黄褐色火山灰を含む黒褐色土、黒色土、黒褐色土、砂質の暗褐色土で、さらその下層はにぶい黄褐色土となる。

出土遺物（第40図13）　縄文土器の小片1点が出土している。

5トレンチ（第23図・写真図版12）

標高　226m～223m　　**面積**　20㎡

層序　上位から黒褐色土、黒色土、にぶい黄褐色火山灰を含む黒褐色土、黒色土、黒褐色土、砂質の暗褐色土、砂質の暗褐色土、暗褐色土と黒褐色土の混土となる。

出土遺物（第39図14）　縄文土器の小片1点が出土している。

6トレンチ（第24図・写真図版13）

標高　220.5m　　**面積**　17㎡

層序　上位から黒褐色土、黒色土、黒褐色土、黒褐色土ににぶい黄褐色火山灰を少量含む、黒褐色土とにぶい黄褐色火山灰の混土、黒褐色土、黒色土、黒褐色土、砂質の暗褐色土、暗褐色土と黒褐色土の混土、下層は暗褐色土と褐色土の混土となる。トレンチ中央付近の断面の2か所に層のずれが見られる。

出土遺物（第40図15～19・23・25・26）　15は深鉢の胴部片で中期中葉から後葉のものと考えられる。18・19は弥生土器で18は撚糸文（単軸絡条体第１類）が施文された土器の小片、19は底部片である。ほかにも撚糸文が施文された土器の小片３点が出土している。上面から90cm下の砂質の暗褐色土から同一個体の縄文土器が出土したが、小片のため接合できなかった。25は磨石で付着物がある。23は石匙、26は凹みと敲きが施された石器である。

７トレンチ（第24図・写真図版13）

標高　222m～226.6m　　**面積**　15㎡

層序　１層黒褐色土植物の根が多く入り込んでいる。２a層黒褐色土。２c層黒色土。２d層黒色土。２e層黒褐色土。２f層黒褐色土で太い樹木の根が入っている。３層暗褐色土と褐色土の混土に10mm以下の砂礫が少量混入する。

出土遺物（第40図20・21）　弥生土器３点が出土している。20は撚糸文（単軸絡条体第１類）が施文された土器で、いずれの土器も１層上面より出土している。

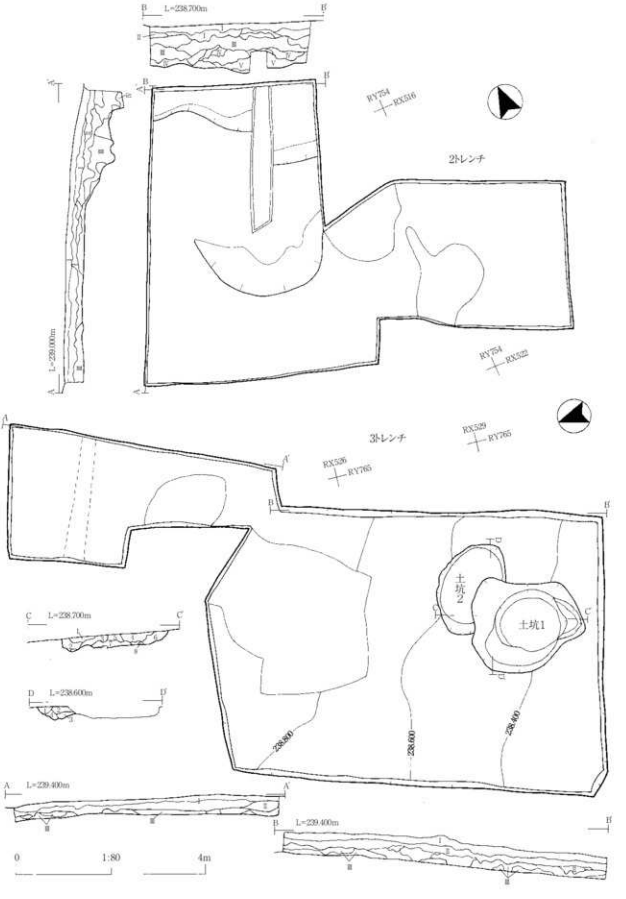
８トレンチ（第24図・写真図版13）

標高　224.8m～227m　　**面積**　９㎡

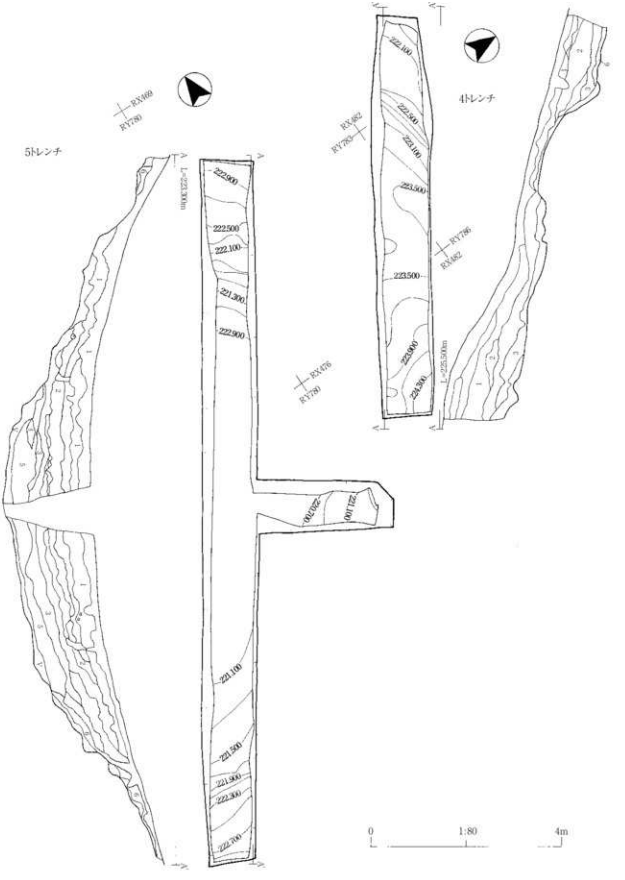
層序　１層黒褐色土上面に植物の根が多く入り込んでいる。２a層黒色土。２b層黒褐色土にオリーブ褐色火山灰がブロック状に多く混入。２c層黒色土。３層暗褐色土と褐色土の混土に10mm以下の砂礫が少量混入する。

出土遺物（第40図22）　撚糸文（単軸絡条体第１類）が施文された土器が出土している。

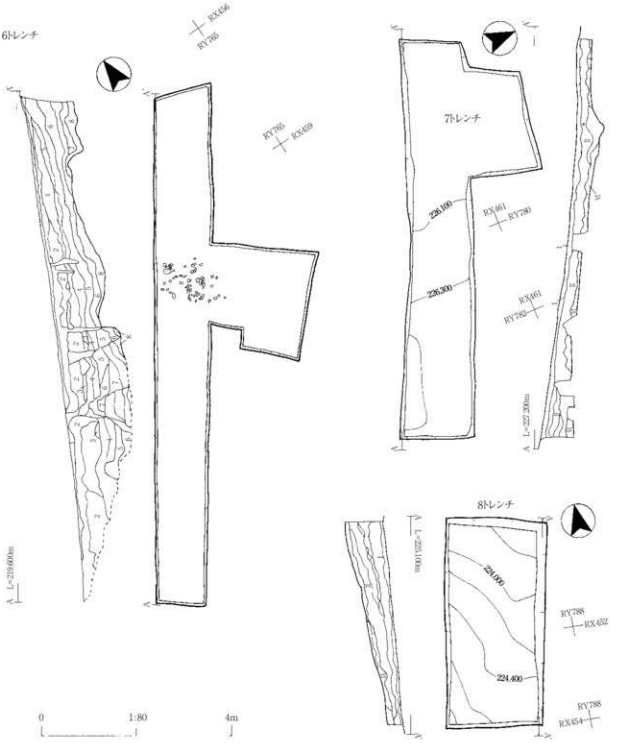
第21図　縄文の森１トレンチ



第22図　縄文の森２・３トレンチ



第23図　縄文の森４・５トレンチ



第24図　縄文の森６～８トレンチ

9　出土遺物

平成19・21～24年度の発掘調査で出土した遺物は、縄文土器・弥生土器、土製品、石器・石製品、剥片・チップ、動物遺存体、植物遺存体である。縄文土器は段ボール箱（42×29×23㎝）換算約30箱、石器は約３箱、土製品22点、石製品１点が出土した。以下、平成21～24年度調査出土遺物を中心に、遺物の種別ごとに概要、出土状況、代表的な遺物について記述する。

縄文土器

縄文土器は竪穴住居跡の堆積土および遺構の確認面から出土したものが大半を占める。

全体の器形を窺える資料は非常に少なく、残存状態は良好ではない。小破片が大半を占め、完形、略完形のものはごくわずかである。また、時期別にみてみると、中期中葉～後葉のものが大半を占めるが、早期、前期、後期のものも少量出土している。縄文の森から出土した土器も中期のものが大半を占めている。

そのため、ここでは以下のように時期ごとに大別し、大局的な時期を示すこととした。このうち、出土土器の中で主体を占める中期に属するものについては、『御所野遺跡Ⅰ』において用いられた群別に分類し、細分した。以下、各土器の特徴について若干述べたい。

（１）縄文時代早期に属するもの
（２）縄文時代前期に属するもの
（３）縄文時代中期に属するもの
　第Ⅰ群　　円筒上層ｃ式に位置づけられるもの
　第ⅡＡ群　円筒上層ｄ式、あるいはｅ式に位置づけられるもの
　第ⅡＢ群　大木８ａ式に位置づけられるもの
　第ⅢＡ群　榎林式に位置づけられるもの
　第ⅢＢ群　大木８ｂ式に位置づけられるもの
　第Ⅳ群　　大木９式、あるいは大木９式に併行すると位置づけられるもの
　第Ⅴ群　　大木10式に位置づけられるもの
　第Ⅵ群　　第Ⅱ～Ⅴ群の粗製土器
（４）縄文時代後期に属するもの

（１）縄文時代早期に属するもの

３点掲載した。第28図56・57は貝殻腹縁文が施文される。

（２）縄文時代前期に属するもの

４点掲載した。第28図53と54は同一個体と考えられる。53は尖底土器の底部片で撚糸文（単軸絡条体第１類）が施文される。54は胴部片で撚糸文や綾絡文が施文される。これと類似する土器は、二戸市中曽根遺跡155号址出土土器に見られる（二戸市教委　1981）。第28図55はGA44トレンチⅢ層から出土した胴部片である。胎土に繊維を含み、綾絡文が施文される。第35図166はⅣ区西トレンチ２Ⅱ層から出土した胴部片である。胎土に繊維を含み、横位非結束羽状縄文が施文される。

（３）縄文時代中期に属するもの

第Ⅰ群　円筒上層ｃ式に位置づけられるもの

今回の調査では、第Ⅰ群に相当する土器は出土しなかった。

第Ⅱ A 群　円筒上層 d 式、あるいは e 式に位置づけられるもの

42・73・79・90・91・94・95・97・98・101～108・111・120～122・127 ～ 130・147が該当する。主にⅣ区東トレンチ GF56-01竪穴住居跡や GE56グリッドから出土している。

第31図103は GF56-01竪穴住居跡 1 層から出土した台形状の突起をもつ口縁部片である。細い粘土紐によって文様が表現され、口唇部には刻みが施されている。地文には単節縄文が施文される。第31図98は 4 単位の山形状突起をもつ深鉢である。口唇部には刻みが施され、口唇～口縁部には細い粘土紐で波状の文様が表現されている。頸部～胴部の主文様は沈線によって表現されている。図示していないが、弧線文の末端が渦巻状を呈する箇所も見られる。第27図42は突起を有する深鉢の口縁～胴部である。口唇部に刻みが施され、沈線によって文様が表現される。

第Ⅱ B 群　大木 8 a 式に位置づけられるもの

第29図60・第31図112は、いずれもキャリパー形深鉢の口縁部片である。口縁部文様帯に隆線による波状文が施文される。

第Ⅲ A 群　榎林式に位置づけられるもの

5 ・ 8 ・26・31・33～35・40・45・63～65・67～69・71・75・80・87・109・115・124・133・134・138・141～143・145・156～160・163～169などが該当する。Ⅳ区やⅣ区東トレンチの竪穴住居跡（FJ46-02、FJ46-03、GE56-01竪穴住居跡など）、Ⅳ区西トレンチ 1 ・ 2 から出土しており、今回調査したいずれのトレンチからも出土している。

第26図26は口縁部が外反する 2 単位の波状口縁の深鉢である。沈線による縦位や横位の区画文、渦巻文が描かれる。地文には単節縄文が施文される。また、補修孔が認められる。第35図167は平縁の小形深鉢である。口縁部に横位の沈線文が廻り、胴部の器面には沈線による渦巻文や円文、懸垂文が連結して描かれる。第35図156は 3 単位の波状口縁をもつ深鉢である。口縁部はわずかに外傾し、胴部はやや膨らむ器形と考えられる。波頂部には短い縦位沈線、その下には 3 条の縦位沈線文が施文される。これと連結して横位の波状文や弧線文、縦位の波状文が沈線によって描かれる。地文には単節縄文が縦位に施文される。この土器は八戸市西長根遺跡第10号住居跡 4 ～ 6 層出土土器（八戸市教委　1995）に類似すると考えられる。第33図133の裏面には付着物が認められたことが特筆されよう（写真図版15）。

第Ⅲ B 群　大木 8 b 式に位置づけられるもの

11・14・19・20・21・23・24・29・30・32・36・38・47・48・62・72・74・83・88・89・92・93・114・131・140・144・148などが該当する。主に FJ46-02竪穴住居跡、GA44-01竪穴住居跡、GE56-01竪穴住居跡、Ⅳ区西トレンチ 1 FE38グリッドなどから出土している。

第25図23は FJ46-02竪穴住居跡12層から出土した深鉢である。波状口縁を呈し、波頂部には孔が施される。底部からの立ち上がりはやや角張る。器面には隆沈線による有棘渦巻文や懸垂文が連結して描かれ、地文には複節縄文が縦位に施文される。第25図20は FJ46-02竪穴住居跡の床直から出土した波状の口縁部片である。隆沈線による渦巻文が描かれ、地文には撚糸文が縦位に施文される。第26図24は 2 単位の波状口縁をもつ深鉢で、隆沈線による渦巻文や懸垂文が連結して描かれる。また、補修孔が認められる。第33図131はⅣ区西トレンチ 1 FE38グリッドから出土した大形深鉢の口縁部片である。波頂部には孔が施され、隆沈線による渦巻文や懸垂文が連結して描かれる。地文には単節縄文が施文される。

第32図114は FE38-01竪穴住居跡の床直から出土した深鉢の波状口縁～胴部片である。器面には渦巻文を

起点として区画文や懸垂文が連結して描かれている。この土器は、盛岡市柿ノ木平遺跡出土の第Ⅳ群土器（盛岡市教委　2008）に類似すると考えられる。

第Ⅳ群　大木９式、あるいは大木９式に併行すると考えられるもの

１・４・10・12・15・25・66・76・78・151・170などが該当する。主に、Ⅳ区のFH48・FH46トレンチからの出土が多い。また、縄文の森では第40図12が該当する。

第25図１・４は外反する口縁部片である。１は頸部に刺突が施され、隆沈線による文様が施文される。４には鍔上の隆帯が貼り付けられる。第34図151は口縁部片で、波頂下に隆線で渦巻文が施される。第26図25はFJ46-02竪穴住居跡6b層から出土したやや小形の深鉢である。口縁部はやや外傾し、胴部は膨らみをもつ器形である。頸部に２条の沈線文が廻り、その間に刺突が施され、その下には３条の沈線が垂下する。これと類似する土器は西長根遺跡第10号住居跡１～２層出土土器に見られる（八戸市教委　1995）。縄文の森３トレンチから出土した第40図12は隆沈線による渦巻文が施文される。隆線の断面は台形～山形状を呈する。

第Ⅴ群　大木10式に位置づけられるもの

今回の調査では、遺構の堆積土からはこの時期の土器は出土しなかった。Ⅳ区西トレンチ１のⅠ層およびⅣ区西トレンチ２のⅡ層から出土している。第34図153は波状の口縁部片で、口縁内部に鱔状の隆線が付く。第35図173は平縁の口縁部片で、横位沈線文が施文される。

第Ⅵ群　第Ⅱ～Ⅴ群の粗製土器

器面に地文のみが施文されるものを一括した。第26図28はFJ46-02竪穴住居跡9c層から出土した土器であるが、単節縄文（LR）が斜方向に施文される。この土器の中からは焼骨片が入っていたことが特筆されよう。また、網代→ナデ調整の底部痕跡が見られる。第31図99にも網代→ナデ調整の網代痕跡がみられる。

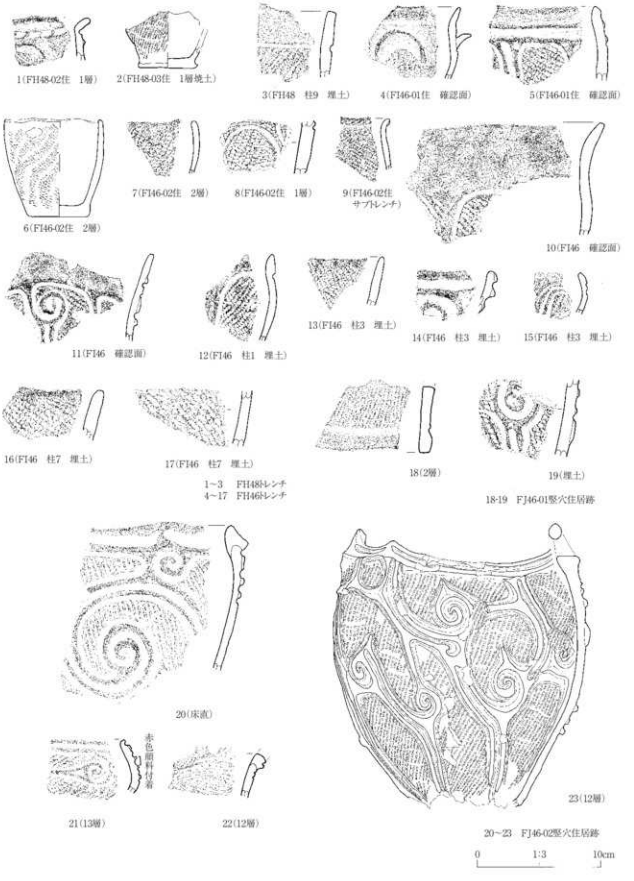
（４）縄文時代後期に属するもの

第34図154は波状口縁の破片と考えられ連鎖状隆帯が認められる。第34図155・第35図171は隆線に沿って刺突が施される。これらは後期初頭に位置づけられよう。

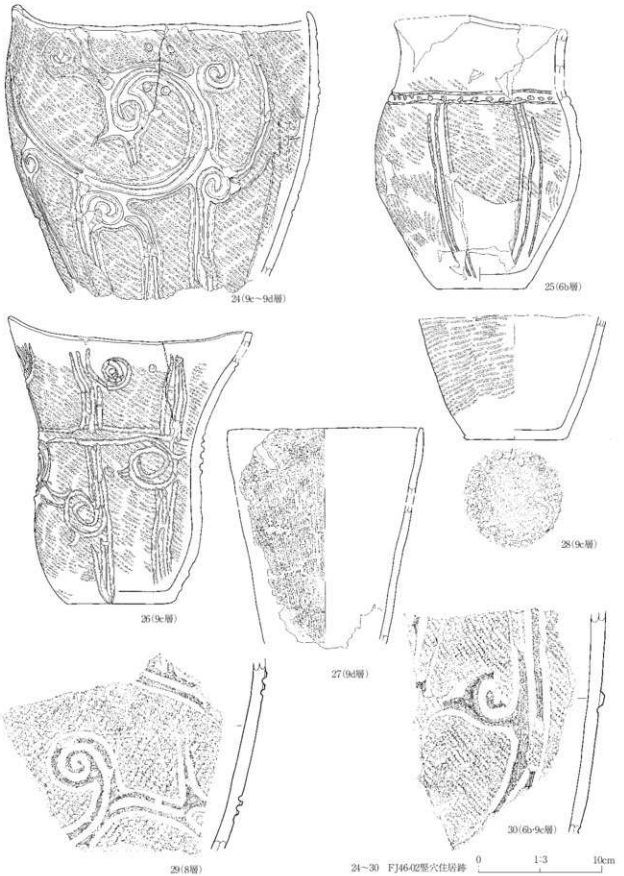
土製品（第36図）

三角形土製品１点、円盤状土製品12点、斧状土製品１点、ミニチュア土器３点、土玉類２点を掲載した。このほかに、ミニチュア土器1点、不明土製品３点が出土している。

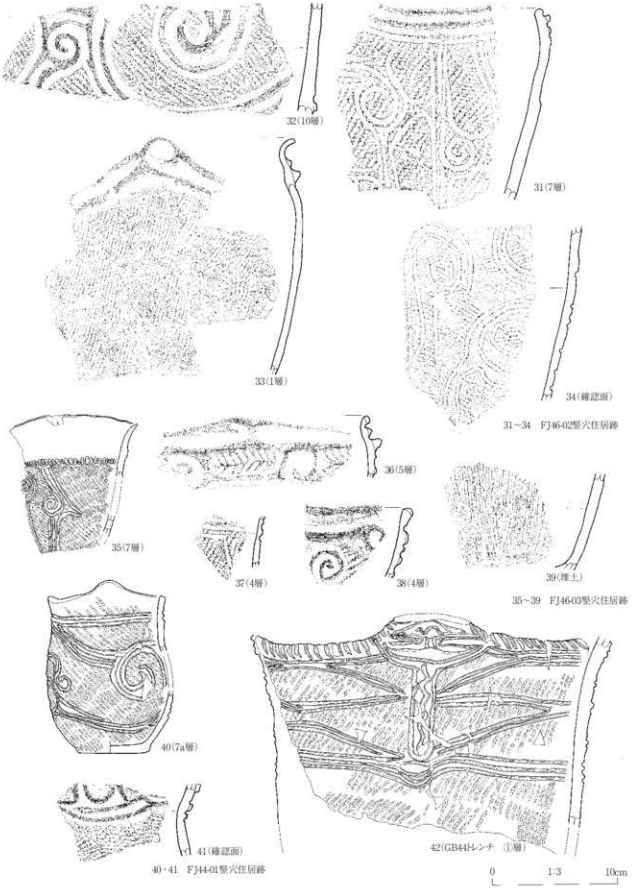
１は無文の三角形土製品である。２～12は土器片を転用して円形などに作出された円盤状土製品である。４は三角形、６は五角形に作出されている。３・７・10・11・12には部分的にスレ痕が認められる。13は基部欠損の斧状土製品である。全面に単節縄文（LR）が縦方向に施文される。14～16はミニチュア土器、17・18は土玉類である。17は球形のもので中央に刺突が廻る。18は涙形を呈し、両面に刺突が施されている。



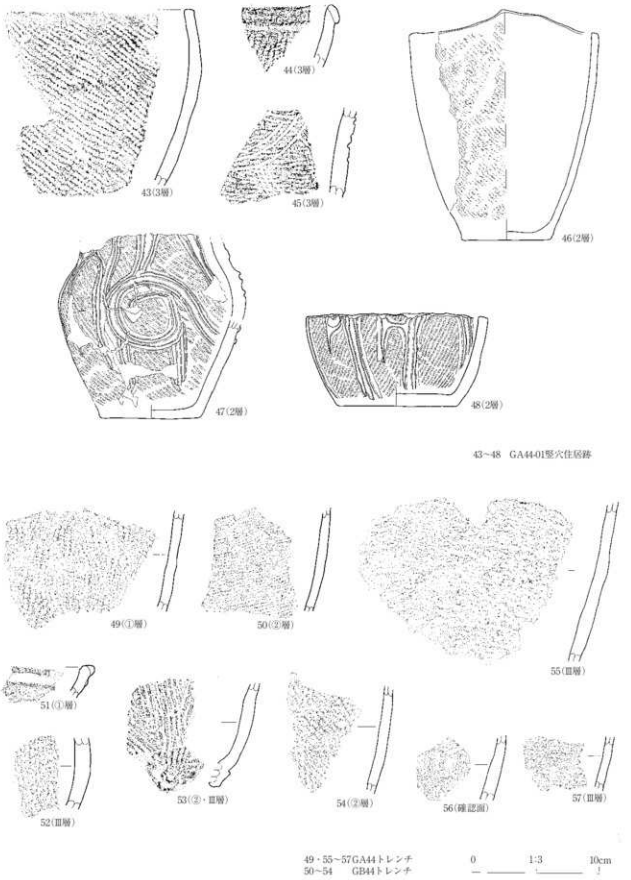
第25図 Ⅳ区出土土器（1）



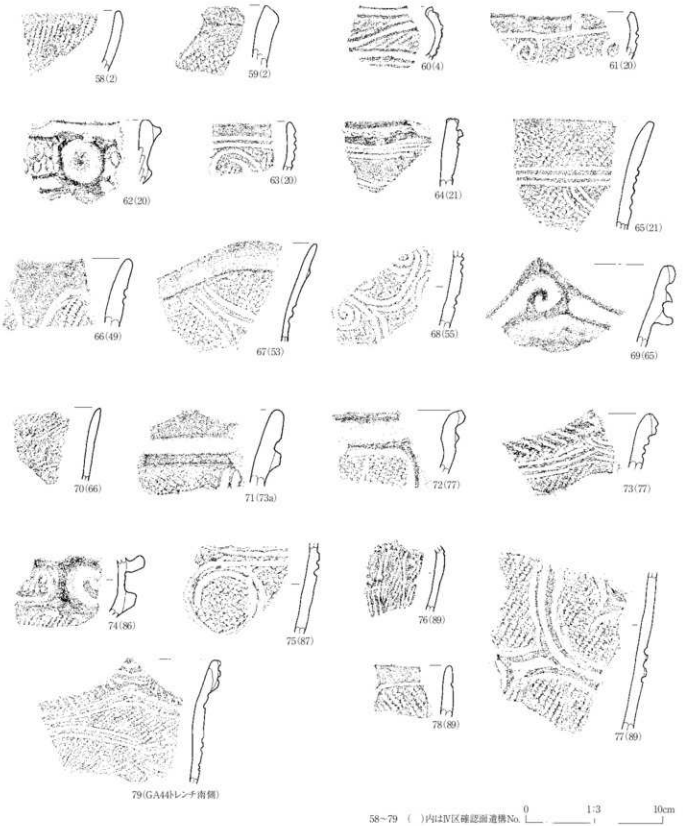
第26図　Ⅳ区出土土器（2）



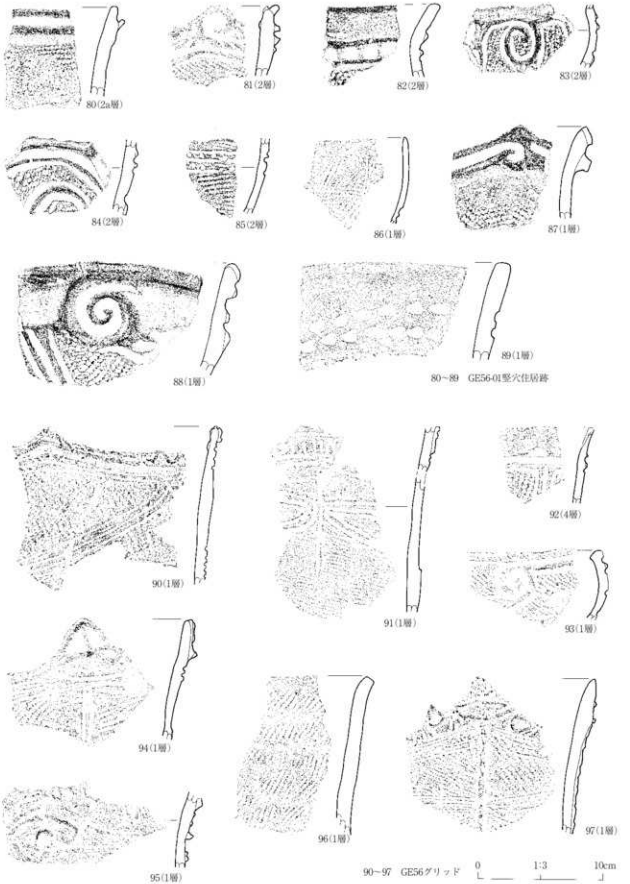
第27図　Ⅳ区出土土器（3）



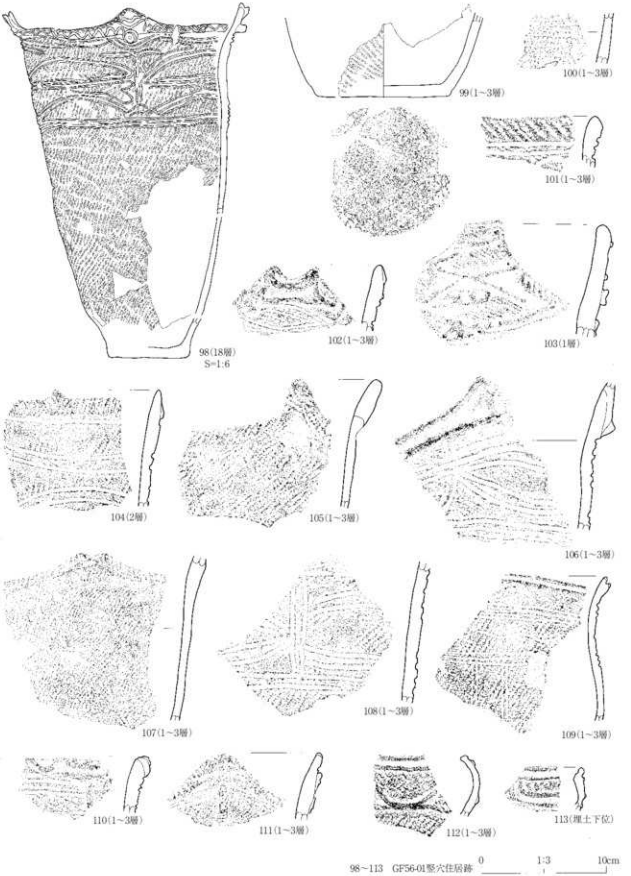
第28図　Ⅳ区出土土器（4）



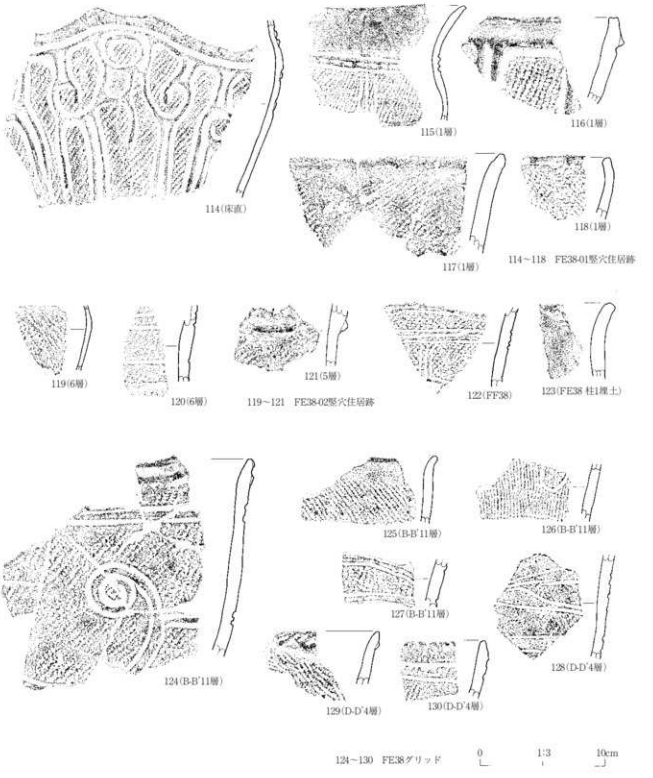
第29図　Ⅳ区出土土器（5）



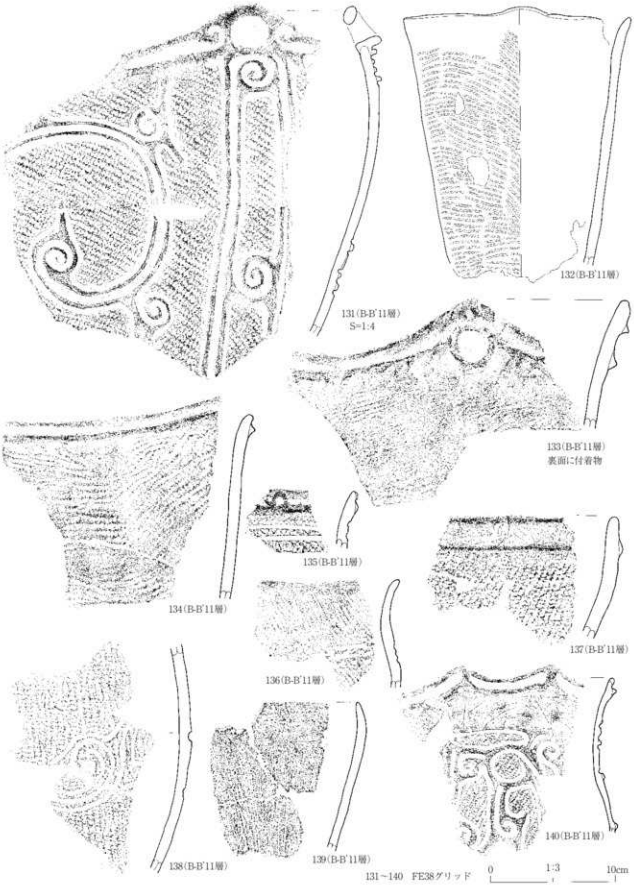
第30図 Ⅳ区東トレンチ出土土器（1）



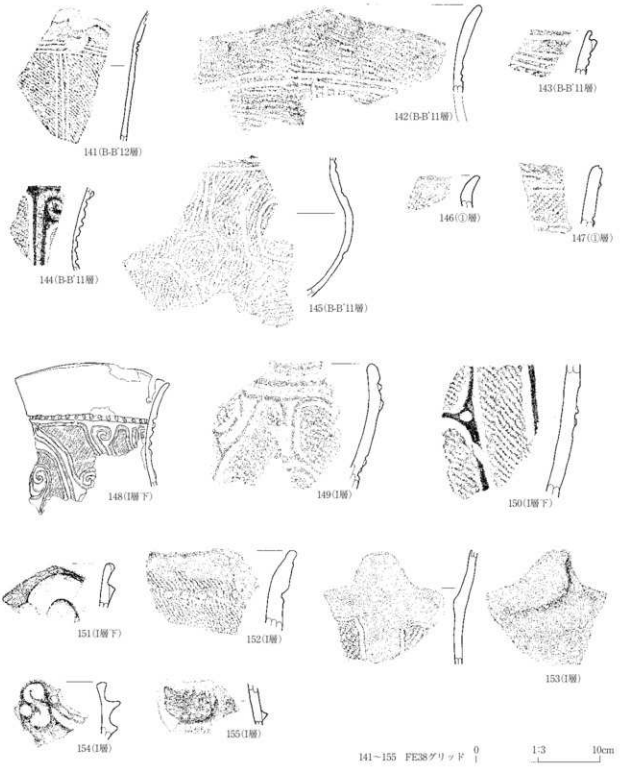
第31図 Ⅳ区東トレンチ出土土器（2）



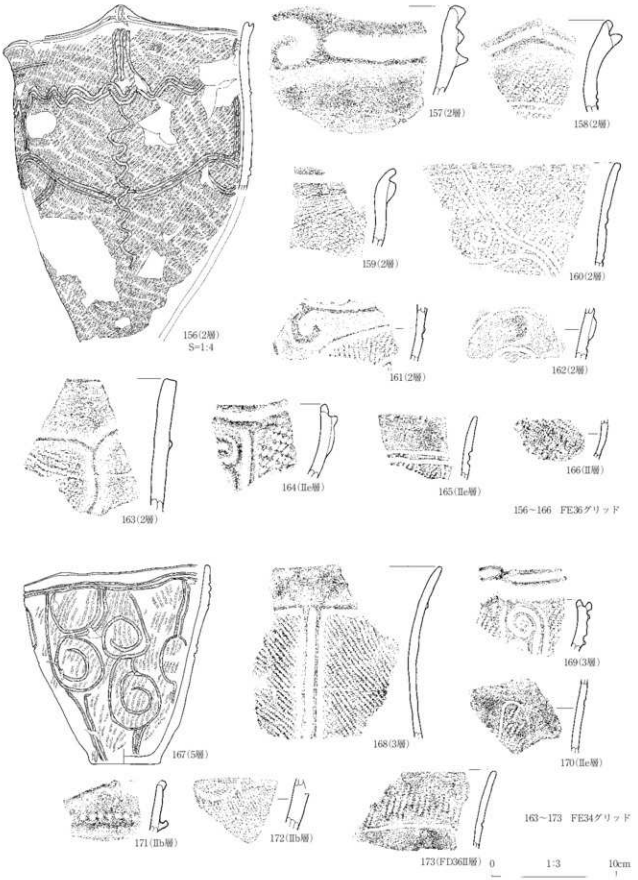
第32図　Ⅳ区西トレンチ１出土土器（１）



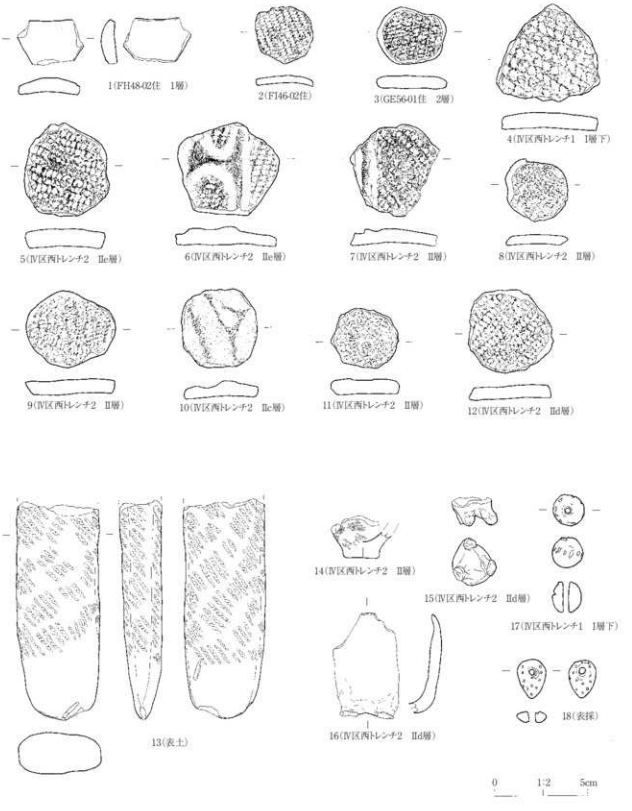
第33図　Ⅳ区西トレンチ１出土土器（２）



第34図　Ⅳ区西トレンチ１出土土器（３）



第35図 Ⅳ区西トレンチ2出土土器


1(FH48-02住 1層)
2(FI46-02住)
3(GE56-01住 2層)
4(Ⅳ区西トレンチ1 1層下)
5(Ⅳ区西トレンチ2 Ⅱc層)
6(Ⅳ区西トレンチ2 Ⅱc層)
7(Ⅳ区西トレンチ2 Ⅱ層)
8(Ⅳ区西トレンチ2 Ⅱ層)
9(Ⅳ区西トレンチ2 Ⅱ層)
10(Ⅳ区西トレンチ2 Ⅱc層)
11(Ⅳ区西トレンチ2 Ⅱ層)
12(Ⅳ区西トレンチ2 Ⅱd層)
13(表土)
14(Ⅳ区西トレンチ2 Ⅱ層)
15(Ⅳ区西トレンチ2 Ⅱd層)
16(Ⅳ区西トレンチ2 Ⅱd層)
17(Ⅳ区西トレンチ1 1層下)
18(表採)
0 1:2 5cm

第36図 土製品

石器・石製品

（1）概要

平成21～24年度の調査では326点の石器・石製品、多量の剥片・チップが出土した。石器は、石鏃84点、石鏃未製品71点、石槍未製品１点、両面加工石器12点、石匙４点、スクレイパー 18点、石錐２点、二次加工ある剥片42点、使用痕ある剥片15点、楔形石器６点、磨製石斧１点、敲磨器類51点、台石５点、その他の礫石器５点、石核７点である。石製品は石棒１点が出土している。

（2）分類

ここでは基本的に『御所野遺跡Ⅰ』で用いられた分類を踏襲したが、一部で石器の形態や使用痕などの観察をもとに再分類・定義の見直しを行った。出土した石器・石製品の全点について個別の属性を第４・５表の石器観察表にまとめ、分類した器種の代表例について実測図示、写真撮影を行った。以下、器種ごとに設定した分類内容と主な特徴について概観することとしたい。なお、『御所野遺跡Ⅰ』で用いられた分類名は＜　＞内に示した。

石鏃＜A 類＞（第37図１～11、写真図版17）

概ね長さ５cm未満のもの。形態的な特徴により６類に細分した。

Ⅰ類：柳葉形のもの（第37図１～３）

Ⅱ類：有柄のもの（第37図４～６）

Ⅲ類：無柄のもの（第37図７）

Ⅳ類：凹基のもの（第37図８～10）

Ⅴ類：茎部を有し、幅広の木の葉形を呈するもの（第37図11）

Ⅵ類：欠損などにより分類不能なもの

石鏃は出土石器の25.8％を占める。石鏃84点のうち細分類ごとの点数は、Ⅰ類28点（33.3％）、Ⅱ類33点（39.3％）、Ⅲ類1点（0.1％）、Ⅳ類12点（14.3％）、Ⅴ類（3.6％）、Ⅵ類（8.3％）であり、Ⅰ・Ⅱ類が石鏃総数に占める割合は７割を超える。Ⅰ類とⅡ類はその中間的な様相をもつものも多くあったが、わずかでも茎を作り出そうと認められるものはⅡ類とした。欠損が認められるものは半数に及ぶ。また、アスファルトの付着が見られるものは３割を超える。

石鏃未製品（第37図12・13、写真図版19）

大きさや二次加工などから石鏃を意図して製作されたが、何らかの理由により製作途中で放棄されたと推定されるものを「石鏃未製品」とした。出土石器の21.8％を占める。剥片に周辺加工が施されたもの、両面加工が施されたもの、先端や基部が作出され形態がわかるものなどの３～４段階に細分される可能性がある。

石槍＜B 類＞（写真図版17）

概ね長さ５cm以上のもの。今回の調査では未製品が１点出土した。

両面加工石器（写真図版17）

石槍未製品の初期段階と考えられる両面加工されたものを一括した。

石匙＜C 類＞（第37図15・16、写真図版17）

身部の形態により、縦型（16）と横型（15）の２類に細分した。

スクレイパー＜D 類＞（第37図18・19、写真図版17）

剥片の縁辺に剥離を施し、刃部を作出したもの。

石錐＜E 類＞（第37図14、写真図版17）

Ⅰ類：つまみ部のあるもの　Ⅱ類：つまみ部と針部の境が明瞭ではないもの（第37図14）に細分される。

二次加工を有する剥片

剥片の一部に刃部ではない二次加工のあるもの。いわゆるＲフレイク。

使用痕を有する剥片

剥片の縁辺に微細剥離のみられるもの。いわゆるＵフレイク。図示はしなかったが、観察表№241の剥片は縁辺に微細剥離は認められないがアスファルトが付着していたため、観察表に記載した。

楔形石器（第37図17）

楔形石器、両極石器、ピエス・エスキーユなどと呼称される両極剥離痕のある石器を一括した。

磨製石斧＜H-Ⅰ類＞

刃部片１点（表№247）が出土した。

敲磨器類＜G類＞（第38図20～31、写真図版19～21）

礫を素材とし、使用痕として敲打痕、磨痕、凹痕が認められるもの。御所野遺跡から出土したこれらの石器群は、先に記述した使用痕跡が複数組み合わさっていることが多いため、別々に扱わず一括した。さらに、礫の大きさや形態、使用痕の種類や組み合わせにより以下のように分類した。

敲石　敲打痕のみが認められるもの。使用礫の形態や敲打痕の部位などにより４類に細分した。

Ⅰ類：扁平円礫の側縁に帯状の敲打が認められるもの（第38図20）

Ⅱ類：扁平円礫の両肩に敲打が認められるもの（第38図21）

Ⅲ類：扁平円礫の端部に敲打が認められるもの（第38図22）

Ⅳ類：小形の丸い礫に敲打痕が認められるもの（第38図23）

磨石　磨痕のみが認められるもの（第38図24～26）

凹石　凹痕のみが認められるもの（第38図27・29）

敲石＋凹石　敲打痕と凹痕が組み合わさったもの（第38図28・30）

敲石＋磨石　敲打痕と磨痕が組み合わさったもの（第38図31）

磨石＋凸石　磨痕と凹痕が組み合わさったもの

敲磨器類51点のうち細分類ごとの点数は、敲石12点（25.5％）、磨石12点（23.5％）、凹石12点（23.5％）、敲石＋凹石９点（17.6％）、敲石＋磨石４点（7.8％）、磨石＋凹石１点（2.1％）である。石材は安山岩や砂岩が多い。磨石のなかには赤色顔料などの付着物が認められるものがある。敲石＋凹石にはひび割れがあるものが多く認められる。

石皿・台石・砥石＜Ⅰ類＞（第39図34、写真図版22）

大形や扁平の礫を素材とし、敲打痕や磨痕が認められる石器を一括した。Ⅰ類：石皿、Ⅱ類：台石（第39図34）、Ⅲ類：砥石に細分される。ただし、今回の調査では石皿は出土しなかった。

礫器＜J類＞（第38図32・33、写真図版22）

これまでに分類した以外の礫石器。礫を素材とし、その縁辺の一部に二次加工を施し、刃部を作出したものが見られる。第38図32は二次加工が片面のみに施されるもの、第38図33は二次加工が両面から施されるものである。このほか、図示はしていないが、写真図版22-３は「蜂の巣石」と考えられる。

石棒類＜L類＞（第39図35、写真図版22）

Ⅰ類：断面形が円形のもので所謂「石棒」、Ⅱ類：片側に刃があり断面形が扁平な三角形のもので所謂「石刀」に細分される。今回は石棒（第39図35）が１点出土した。

剥片・チップ（写真図版18、第６・７表）

今回の調査では多量の剥片やチップが出土した。このうちⅣ区 FJ46-02竪穴住居跡では、先に述べたよう

に堆積土の一部（ベルト部分）において、乾燥ふるい法とフローテーション法を用いて剥片・チップを抽出した。御所野遺跡における石器の製作工程を考える際の基礎的資料とするために、ポイントフレークのほか、主に大きさの違いによって次のように分類し（第６表、写真図版18）、各層ごとに点数を集計した（第７表）。

なお、第４・５表と第６・７表における石質は統一されていないことをお断りしておく。

ポイントフレーク	石鏃や石槍の製作過程で作り出される剥片。１～２㎝のものが多い。
剥片	２㎝以上のもの
小剥片	１㎝以上２㎝未満の剥片
チップ（バルブあり）	１㎝未満のもの
チップ（バルブなし）	１㎝未満のもの
剥片片	バルブがとんでいる剥片
石片	変則的に５㎝ほどのものがみられるため、剥片片と別とした

総数は1,532点である。分類ごとの点数は、ポイントフレーク130点（8.5％）、剥片33点（2.2％）、小剥片112点（7.3％）、チップ（バルブあり）711点（46.4％）、チップ（バルブなし）439点（28.7％）、剥片片82点（5.4％）、石片25点（1.5％）である。

層ごとの特徴を見てみると、８層と９層上（ともに炭化物や剥片・チップが多量に混入する層）出土のものを合わせた総数は464点（30.3％）である。これらの層から出土したポイントフレーク、チップ（バルブあり）、チップ（バルブなし）は、それぞれ48点（36.9％）、188点（26.4％）、177点（26.7％）となり、３割前後を占める。9c～9d層からは完形土器や骨片などが出土しているが、剥片・チップの出土総数は85点(5.5％)であり、少量の傾向である。壁際の堆積土である12・13層からも215点（14.0％）出土している。

石器組成の特徴

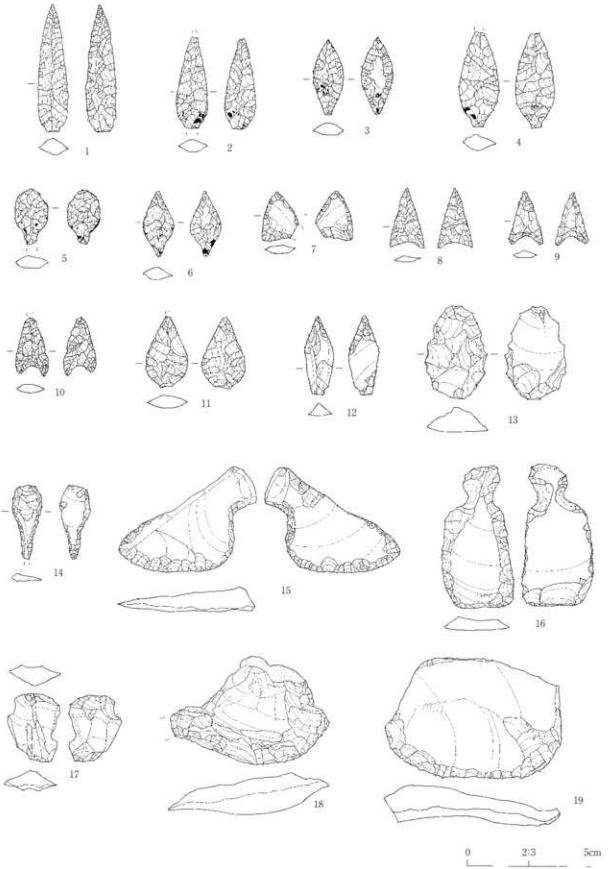
平成21年～24年度の調査で出土した石器326点の半数近くとなる155点（47.5％）を石鏃・石鏃未製品が占める。同様の特徴はこれまでの調査でも示されている（『御所野遺跡Ⅲ』）。FJ46-02竪穴住居跡出土の剥片・チップからポイントフレークや多量のチップ（バルブあり・なし）が抽出されたことからも、御所野遺跡では石鏃などの多量な石器制作が行われていたことが窺える。

動物遺存体

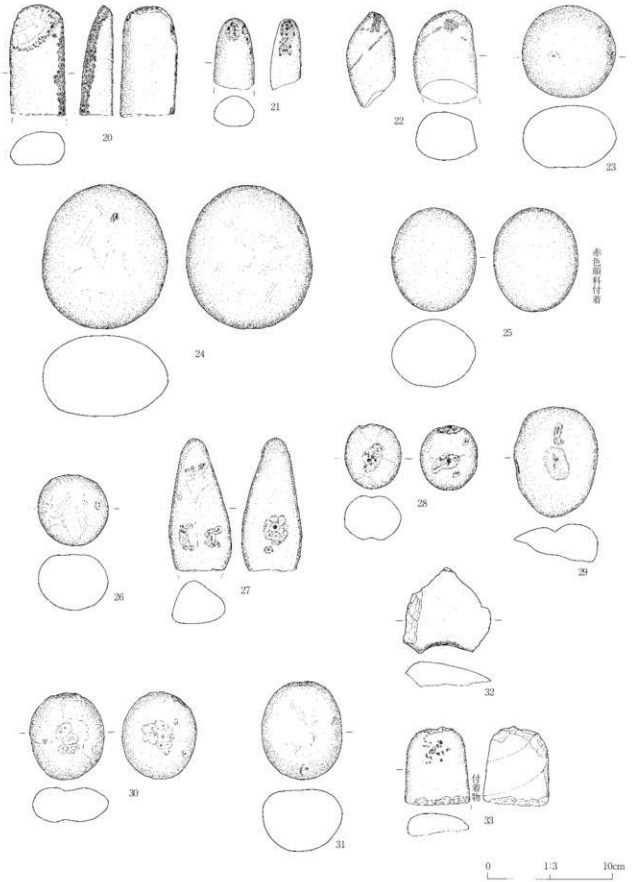
出土した骨片は多くが５㎜以下の骨片で、その多くが焼骨であった。そのほとんどが竪穴住居跡の堆積土や遺構の確認面から出土している。鑑定の結果、FJ46-02竪穴住居跡から出土したものには、シカやイノシシの歯や骨、トリの骨などが含まれていた。FI46-01竪穴住居跡の確認面からはウグイ？の椎骨片が出土している。詳しくは第Ⅴ章第１節を参照していただきたい。

植物遺存体

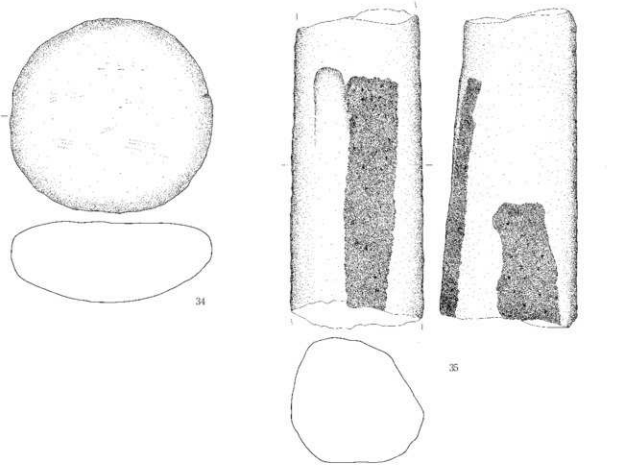
動物遺存体と同じく、竪穴住居跡の堆積土や遺構の確認面から出土した。FJ46-01竪穴住居跡からは多くの炭化種実や炭化材が出土したが、トチノキ種子、クリ、オニグルミが検出された。詳しくは第Ⅴ章第２節を参照していただきたい。



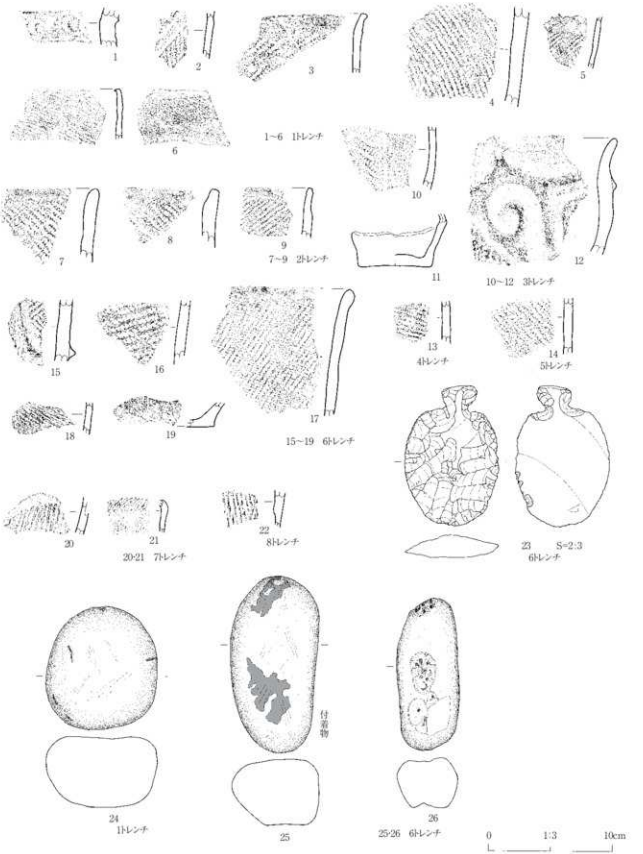
第37図　Ⅳ区出土石器（1）



第38図　Ⅳ区出土石器（2）



第39図　Ⅳ区出土石器（3）



第40図　縄文の森１～８トレンチ出土土器・石器

第４表　石器観察表（１）

No. 表	No. 図	No. 写図	調査区	出土地点・層位	器　種	分　類	石　質	重量(g)	備　考
1	37-2	17-19	Ⅳ区	FI46⑶　遺構確認面	石鏃	Ⅰ	チャート	2.1	アスファルト付着　先端、基部ともに欠損
2			Ⅳ区	FJ46-02住　13層	石鏃	Ⅰ	チャート	2.8	基部・先端欠損
3	37-1	17-20	Ⅳ区	FJ46-02住　12層	石鏃	Ⅰ	チャート	4.7	
4			Ⅳ区	FJ46-02住　12層	石鏃	Ⅰ	チャート	1.9	先端欠損
5		17-17	Ⅳ区	FJ46-02住　9b 層	石鏃	Ⅰ	チャート	1.6	アスファルト付着
6			Ⅳ区	FJ46-02住　A-A′ 7層	石鏃	Ⅰ	チャート	0.9	薄い　基部欠損
7	37-3	17-16	Ⅳ区	FJ46-02住　土器1の下	石鏃	Ⅰ	チャート	1.9	アスファルト付着
8		17-15	Ⅳ区	FJ46-02住　確認面	石鏃	Ⅰ	チャート	2.6	
9			Ⅳ区	FJ46-02住　確認面	石鏃	Ⅰ	チャート	1.3	アスファルト微量付着　基部・先端欠損
10			Ⅳ区	20　確認面	石鏃	Ⅰ	チャート	1.1	被熱による変色
11			Ⅳ区	81　確認面	石鏃	Ⅰ	チャート	1.8	基部・先端欠損
12			Ⅳ区	GB44トレンチ　9　石鏃3	石鏃	Ⅰ	チャート	1.1	アスファルト微量付着　先端欠損
13			Ⅳ区	GB46⑶　確認面	石鏃	Ⅰ	チャート	2.9	アスファルト付着　基部・先端欠損
14			Ⅳ区	表土	石鏃	Ⅰ	チャート	6.5	アスファルト？付着　先端欠損
15			Ⅳ区南側拡張部	表土	石鏃	Ⅰ	チャート	3.0	被熱による変色、はじけ　アスファルト付着
16			Ⅳ区東トレンチ	GE56-01住　1層	石鏃	Ⅰ	チャート	2.3	基部欠損
17			Ⅳ区東トレンチ	GE56-02住　8層	石鏃	Ⅰ	チャート	4.1	完形
18			Ⅳ区東トレンチ	GE56　Q3・4　2層	石鏃	Ⅰ	チャート	2.1	アスファルト付着　先端欠損
19			Ⅳ区東トレンチ	GE56　Q3　2層	石鏃	Ⅰ	チャート	0.9	
20			Ⅳ区東トレンチ	北側攪乱	石鏃	Ⅰ	チャート	1.9	被熱によるはじけ
21			Ⅳ区西トレンチ1	FE38⑶・⑷　5回目	石鏃	Ⅰ	チャート	4.2	欠損
22			Ⅳ区西トレンチ1	FE38　5回目　石鏃2	石鏃	Ⅰ	チャート	2.3	基部欠損　アスファルト付着
23			Ⅳ区西トレンチ1	FE38⑶柱穴1　埋土	石鏃	Ⅰ	チャート	1.8	
24			Ⅳ区西トレンチ1	サブトレンチ1　FE38⑶　石鏃1	石鏃	Ⅰ	チャート	1.3	被熱によるはじけ
25			Ⅳ区西トレンチ1	FE38　Ⅰ層下	石鏃	Ⅰ	チャート	0.7	
26			Ⅳ区西トレンチ1	Ⅰ層	石鏃	Ⅰ	チャート	2.8	
27			Ⅳ区西トレンチ2	FE36　石鏃1	石鏃	Ⅰ	チャート	3.3	アスファルト付着　基部欠損
28		17-18	Ⅳ区西トレンチ2	FE36　石鏃2	石鏃	Ⅰ	硬質頁岩	1.3	アスファルト付着
29			Ⅳ区	FI46⑶　配石確認面	石鏃	Ⅱ	チャート	1.8	
30			Ⅳ区	FJ46-02住　A-A′ 8層	石鏃	Ⅱ	チャート	1.7	アスファルト？付着
31			Ⅳ区	FJ46-02住　A-A′ 6b 層	石鏃	Ⅱ	チャート	0.8	薄い　アスファルト付着　先端欠損
32			Ⅳ区	FJ46-02住　A-A′ 3層	石鏃	Ⅱ	チャート	1.0	被熱によるはじけ
33		17-13	Ⅳ区	FJ46-02住　E-E′ 17層	石鏃	Ⅱ	チャート	0.9	薄い　先端欠損
34			Ⅳ区	FJ46-02住　石鏃No.1	石鏃	Ⅱ	チャート	3.3	基部欠損
35			Ⅳ区	FJ46-02住　埋土	石鏃	Ⅱ	チャート	1.7	
36	37-6	17-10	Ⅳ区	FJ46-02住　確認面	石鏃	Ⅱ	チャート	1.3	アスファルト付着
37			Ⅳ区	FJ46-02住　確認面	石鏃	Ⅱ	硬質頁岩	2.5	
38			Ⅳ区	GA44-01住　3層　石鏃No.1	石鏃	Ⅱ	チャート	1.0	
39		17-12	Ⅳ区	GB44トレンチ　9　石鏃1	石鏃	Ⅱ	チャート	1.0	アスファルト付着

No. 表	図	写図	調査区	出土地点・層位	器種	分類	石質	重量(g)	備考
40			Ⅳ区	21　確認面	石鏃	Ⅱ	チャート	0.9	アスファルト付着　基部欠損
41			Ⅳ区	GA46⑶	石鏃	Ⅱ	チャート	0.9	基部のみ残存
42			Ⅳ区	GA46⑵　確認面	石鏃	Ⅱ	チャート	1.2	
43			Ⅳ区	GA46⑶　確認面	石鏃	Ⅱ	チャート	1.2	基部欠損
44			Ⅳ区	表土	石鏃	Ⅱ	チャート	1.2	薄い
45			Ⅳ区	表土	石鏃	Ⅱ	チャート	4.8	被熱による変色，はじけ
46			Ⅳ区東トレンチ	GE56-01住　1層	石鏃	Ⅱ	硬質頁岩	1.8	先端欠損
47		17-14	Ⅳ区東トレンチ	GE56-01住　埋土	石鏃	Ⅱ	チャート	2.2	アスファルト？付着　先端欠損
48			Ⅳ区東トレンチ	GE56-02住　埋土	石鏃	Ⅱ	チャート	1.9	欠損あり
49			Ⅳ区東トレンチ	GE56　石鏃1	石鏃	Ⅱ	チャート	1.8	
50			Ⅳ区東トレンチ	GE56　石鏃1	石鏃	Ⅱ	チャート	1.5	アスファルト微量付着　先端欠損
51			Ⅳ区東トレンチ	GE56　Q4　1～2層	石鏃	Ⅱ	チャート	1.7	基部のみ残存
52			Ⅳ区西トレンチ1	FE38　石鏃1	石鏃	Ⅱ	チャート	1.2	アスファルト付着　先端欠損
53			Ⅳ区西トレンチ1	FF38　5回目　石鏃5	石鏃	Ⅱ	チャート	1.3	
54	37-4	17-11	Ⅳ区西トレンチ1	FF38　5回目　石鏃4	石鏃	Ⅱ	チャート	3.1	アスファルト付着　先端欠損
55			Ⅳ区西トレンチ1	FE38　Ⅰ層下	石鏃	Ⅱ	チャート	2.4	アスファルト付着　基部・先端欠損
56			Ⅳ区西トレンチ1	FE38　Ⅰ層下	石鏃	Ⅱ	チャート	0.9	アスファルト付着　先端欠損
57	37-5	17-9	Ⅳ区西トレンチ1	FE38　Ⅰ層下	石鏃	Ⅱ	チャート	1.3	アスファルト付着
58			Ⅳ区西トレンチ1	FF38　Ⅰ層下	石鏃	Ⅱ	チャート	2.7	アスファルト付着
59			Ⅳ区西トレンチ2	FE34　Ⅱe層	石鏃	Ⅱ	チャート	2.0	先端欠損
60			Ⅳ区西トレンチ2	Ⅰ層	石鏃	Ⅱ	チャート	2.7	
61			Ⅳ区西トレンチ2	Ⅰ層	石鏃	Ⅱ	硬質頁岩	2.0	先端・基部欠損
62	37-7	17-1	Ⅳ区東トレンチ	GE56　Q3・4　2層	石鏃	Ⅲ	チャート	0.8	欠損
63	37-9	17-5	Ⅳ区	FF48⑺　配石確認面	石鏃	Ⅳ	チャート	0.7	凹部が深い
64		17-6	Ⅳ区	FJ48⑻　確認面	石鏃	Ⅳ	チャート	1.2	凹部が浅い
65			Ⅳ区		石鏃	Ⅳ	チャート	1.2	凹部が浅い　先端欠損　アスファルト？付着
66			Ⅳ区	埋め戻し土	石鏃	Ⅳ	チャート	0.7	脚先端が尖状　欠損あり
67	37-8	17-3	Ⅳ区東トレンチ	GE56-01住　1層	石鏃	Ⅳ	チャート	0.6	凹部が浅い
68	37-10	17-4	Ⅳ区西トレンチ1	FF38　石鏃1	石鏃	Ⅳ	チャート	0.8	先端欠損　脚先端が尖状
69			Ⅳ区西トレンチ1	FF38　4回目　石鏃2	石鏃	Ⅳ	チャート	0.8	アスファルト付着　先端欠損　脚先端が尖状
70			Ⅳ区西トレンチ2	FE36　Ⅱd層	石鏃	Ⅳ	チャート	0.2	アスファルト付着　先端欠損
71			Ⅳ区西トレンチ2	FE36　Ⅱc層	石鏃	Ⅳ	チャート	0.7	先端欠損
72			Ⅳ区西トレンチ2	Ⅰ層	石鏃	Ⅳ	硬質頁岩	3.1	凹部ごく浅い
73			Ⅳ区西トレンチ2	Ⅰ層	石鏃	Ⅳ	硬質頁岩	0.7	
74		17-2	Ⅳ区西トレンチ2	Ⅰ層	石鏃	Ⅳ	チャート	0.8	凹部が深い　脚先端に欠損
75	37-11	17-8	Ⅳ区	FJ46-01住	石鏃	Ⅴ	粘板岩	2.0	先端欠損
76			Ⅳ区	表土	石鏃	Ⅴ	チャート	3.3	基部欠損
77			Ⅳ区東トレンチ	GE56-01住	石鏃	Ⅴ	チャート	2.2	基部欠損
78			Ⅳ区	FI46-02住　2層	石鏃	Ⅵ	チャート	0.7	先端のみ残存

No. 表	図	写図	調査区	出土地点・層位	器種	分類	石質	重量(g)	備考
79			Ⅳ区	FI46-02住　2層	石鏃	Ⅵ	チャート	0.6	先端のみ残存
80			Ⅳ区	FJ46-02住　9c 層	石鏃	Ⅵ	チャート	0.2	先端のみ残存
81			Ⅳ区	FJ46-02住　A-A’ 9層上	石鏃	Ⅵ		2.0	先端・基部欠損
82			Ⅳ区	GB44トレンチ　9　石鏃2	石鏃	Ⅵ	チャート	1.5	先端・基部欠損
83			Ⅳ区	GA44　Ⅳ a 層	石鏃	Ⅵ	チャート	1.3	先端欠損　薄い
84		17-7	Ⅳ区西トレンチ1	FE38⑤　1回目	石鏃	Ⅵ	黒曜石？	0.3	先端のみ残存
85		19-8	Ⅳ区	FI46-02住　南側2層	石鏃未製品		硬質頁岩	3.7	完成に近い
86			Ⅳ区	FJ46-02住　A-A’ 13層	石鏃未製品		チャート	1.6	破片
87	37-12	19-17	Ⅳ区	FJ46-02住　埋土	石鏃未製品		チャート	1.6	
88		19-15	Ⅳ区	FJ46-02住　確認面	石鏃未製品		硬質頁岩	2.5	完成に近い
89		19-14	Ⅳ区	FJ46-03住　3層	石鏃未製品		チャート	5.5	完成に近い
90		19-3	Ⅳ区	FJ46-03住　確認面	石鏃未製品		チャート	5.7	
91			Ⅳ区	7	石鏃未製品			1.9	
92			Ⅳ区	25　確認面	石鏃未製品			6.0	完成に近い
93			Ⅳ区	FI44④	石鏃未製品		チャート	8.9	
94		19-2	Ⅳ区	FJ46③　確認面	石鏃未製品			2.8	
95			Ⅳ区	GA44③	石鏃未製品			8.0	
96			Ⅳ区	GA46③　確認面	石鏃未製品			3.3	
97		19-6	Ⅳ区	GA46ⓐ（FJ46-02住）	石鏃未製品		チャート	8.8	
98			Ⅳ区	GA46ⓕ（FJ46-02住）	石鏃未製品		チャート	6.8	
99		19-10	Ⅳ区	GA46ⓕ（FJ46-02住）	石鏃未製品			10.7	
100			Ⅳ区	GA46ⓘ（FJ46-02住）　確認面	石鏃未製品		チャート	2.1	完成に近い
101			Ⅳ区	GB44トレンチ　9　1層	石鏃未製品		チャート	11.2	
102			Ⅳ区	GB46①	石鏃未製品			5.7	
103		19-4	Ⅳ区	GB46①　確認面	石鏃未製品		チャート	6.0	
104			Ⅳ区	表土	石鏃未製品		チャート	3.3	
105			Ⅳ区	表土	石鏃未製品		チャート	2.6	
106		19-1	Ⅳ区	表土	石鏃未製品		チャート	9.9	
107			Ⅳ区	表土	石鏃未製品		チャート	0.4	完成に近い　基部のみ残存
108		19-9	Ⅳ区	表土	石鏃未製品			6.9	付着物あり
109			Ⅳ区	表土	石鏃未製品		チャート	3.7	完成に近い
110			Ⅳ区	表土	石鏃未製品		チャート	3.0	Ⅱの未製品
111			Ⅳ区	表土	石鏃未製品			5.3	
112			Ⅳ区	表土	石鏃未製品			4.7	
113			Ⅳ区南側拡張部	表土	石鏃未製品			11.2	
114			Ⅳ区東トレンチ	GE56-01住　2層	石鏃未製品		チャート	7.6	
115			Ⅳ区東トレンチ	GE56-01住　2層	石鏃未製品			9.1	
116			Ⅳ区東トレンチ	GE56-01住　1層	石鏃未製品			4.0	
117			Ⅳ区東トレンチ	GE56-01住　埋土	石鏃未製品		チャート	9.7	

No. 表	図	写図	調査区	出土地点・層位	器種	分類	石質	重量(g)	備考
118			Ⅳ区東トレンチ	GE56-01・02住	石鏃未製品			7.3	
119		19-16	Ⅳ区東トレンチ	GF56-01住　1層	石鏃未製品		チャート	3.3	Ⅴの未製品
120			Ⅳ区東トレンチ	GF56-01住　1層	石鏃未製品			3.5	
121			Ⅳ区東トレンチ	GF56-01住　1層	石鏃未製品		チャート	4.6	
122			Ⅳ区東トレンチ	GF56-01住　1層	石鏃未製品			2.9	
123			Ⅳ区東トレンチ	GF56-01住　1層	石鏃未製品			5.7	
124			Ⅳ区東トレンチ	GF56-01住　埋土中位	石鏃未製品		チャート	2.7	
125			Ⅳ区東トレンチ	GE56　Q3　1層	石鏃未製品		チャート	1.6	
126			Ⅳ区東トレンチ	GE56　Q3　1層	石鏃未製品			1.7	
127			Ⅳ区東トレンチ	GE56　Q3　1層	石鏃未製品		チャート	7.0	
128			Ⅳ区東トレンチ	GE56　Q3・4　1層	石鏃未製品			3.5	
129			Ⅳ区東トレンチ	GE56　Q3・4　1層	石鏃未製品			3.2	
130			Ⅳ区東トレンチ	GE56　Q3・4　1層	石鏃未製品		チャート	7.6	
131			Ⅳ区東トレンチ	埋め戻し土	石鏃未製品		硬質頁岩	2.8	
132			Ⅳ区西トレンチ1	FE38⑨・㉕　13回目	石鏃未製品		チャート	7.7	
133	37-13	19-13	Ⅳ区西トレンチ1	FE38⑨・㉕　6回目	石鏃未製品		チャート	8.6	
134		19-12	Ⅳ区西トレンチ1	FE38②・㉓（FE38-01住）	石鏃未製品		チャート	5.9	
135			Ⅳ区西トレンチ1	FE38②・㉓　5～6回目（FE38-01住）	石鏃未製品		チャート	1.7	
136		19-7	Ⅳ区西トレンチ1	FE38㉕　3回目	石鏃未製品		チャート	1.8	
137			Ⅳ区西トレンチ1	FE38㉕　5～6回目	石鏃未製品		チャート	7.1	被熱
138			Ⅳ区西トレンチ1	FF38④・⑤　2回目	石鏃未製品		チャート	2.1	
139		19-11	Ⅳ区西トレンチ1	FF38①・⑦　7回目	石鏃未製品		チャート	8.3	
140			Ⅳ区西トレンチ1	FE38　Ⅰ層下	石鏃未製品		チャート	4.0	
141			Ⅳ区西トレンチ1	FF38　Ⅰ層下	石鏃未製品		チャート	4.7	
142			Ⅳ区西トレンチ1	FF38　Ⅰ層下	石鏃未製品			7.4	
143			Ⅳ区西トレンチ1	FF38　Ⅰ層下	石鏃未製品			5.0	
144			Ⅳ区西トレンチ1	FE36　Ⅰ層下	石鏃未製品		チャート	7.1	
145			Ⅳ区西トレンチ1	Ⅰ層下	石鏃未製品		チャート	5.6	
146			Ⅳ区西トレンチ1	Ⅰ層下	石鏃未製品		チャート	5.1	
147			Ⅳ区西トレンチ1	FF40⑦・⑧・⑨　Ⅰ層	石鏃未製品		硬質頁岩	3.6	
148		19-5	Ⅳ区西トレンチ2	FE36　2層	石鏃未製品			6.0	
149			Ⅳ区西トレンチ2	FE34　Ⅱ層	石鏃未製品		チャート	2.1	
150			Ⅳ区西トレンチ2	FE34　Ⅱd層	石鏃未製品		チャート	1.9	被熱
151			Ⅳ区西トレンチ2	FE34　Ⅱd層	石鏃未製品		チャート	3.8	被熱
152			Ⅳ区西トレンチ2	FE34　Ⅱb層	石鏃未製品		チャート	2.1	被熱　完成に近い
153			Ⅳ区西トレンチ2	Ⅱ層	石鏃未製品			3.0	
154			配石トレンチ	サブトレンチ　1層	石鏃未製品		チャート	1.7	被熱
155			Ⅳ区	FJ46-02住　13層	石鏃未製品		チャート	46.1	
156		17-31	Ⅳ区南側拡張部	表土	石鏃未製品		粘板岩	23.2	

No. 表	図	写図	調査区	出土地点・層位	器　種	分　類	石　質	重量(g)	備　　考
157		17-23	Ⅳ区	FJ46-02住　P5の下	両面加工石器		チャート	7.8	欠損
158			Ⅳ区	表土	両面加工石器		硬質頁岩	25.3	
159			Ⅳ区東トレンチ	GE56　Q3・4　1層	両面加工石器		硬質頁岩	4.5	
160			Ⅳ区東トレンチ	GE56　Q4　1～2層	両面加工石器		硬質頁岩	11.0	
161			Ⅳ区東トレンチ	GE56　Q4　2～3層	両面加工石器		硬質頁岩	5.4	欠損
162			Ⅳ区東トレンチ	GF56　Ⅲ層上の黒褐色土層	両面加工石器		チャート	5.0	
163			Ⅳ区東トレンチ	埋め戻し土	両面加工石器		チャート	6.8	
164	37-15	17-25	Ⅳ区	20　確認面	石匙	横型	チャート	11.4	
165		17-26	Ⅳ区南側拡張部	Ⅲ層	石匙	不明	チャート	14.2	欠損
166		17-24	Ⅳ区東トレンチ	埋め戻し土	石匙	横型	チャート	6.1	欠損
167	37-16	17-27	Ⅳ区西トレンチ2	FE36　Ⅱe層	石匙	縦型	チャート	11.9	
168			Ⅳ区	FJ46-01住	スクレイパー		チャート	2.7	欠損
169			Ⅳ区	FJ46-02住　E-E′ 17層	スクレイパー		チャート	5.5	
170			Ⅳ区	FJ46-02住　9c層	スクレイパー		硬質頁岩	4.8	
171			Ⅳ区	FJ46-03住　3層	スクレイパー		粘板岩	10.1	欠損
172			Ⅳ区	FJ46-03住　4層	スクレイパー		チャート	6.9	欠損
173			Ⅳ区	GB44トレンチ　9　1層	スクレイパー		チャート	9.7	
174			Ⅳ区	GB44トレンチ　9　1層	スクレイパー		チャート	2.5	小形
175			Ⅳ区	76　確認面	スクレイパー		チャート	3.2	欠損
176	37-18	17-29	Ⅳ区	FJ46③	スクレイパー		チャート	36.8	欠損
177			Ⅳ区	表土	スクレイパー		チャート	4.4	
178		17-30	Ⅳ区東トレンチ	GF56-01住　埋土中位	スクレイパー		チャート	25.4	
179			Ⅳ区東トレンチ	GF56-01住　1層	スクレイパー		チャート	1.5	
180			Ⅳ区東トレンチ	GE56　Q3・4　3層	スクレイパー		チャート	7.9	ノッチあり
181			Ⅳ区西トレンチ1	FF38④・⑤・⑨11　2回目	スクレイパー		硬質頁岩	10.1	
182			Ⅳ区西トレンチ1	FE36　1層下	スクレイパー		チャート	13.5	
183			Ⅳ区西トレンチ2	FE36　2層	スクレイパー		チャート	2.1	小形　欠損
184	37-19	17-28	Ⅳ区西トレンチ2	FE36　Ⅱa層	スクレイパー		硬質頁岩	43.9	
185		17-22	Ⅳ区東トレンチ	GF56-01住　1層	石鏃		チャート	2.6	欠損
186	37-14	17-21	Ⅳ区西トレンチ1	サブトレンチ1回目　FE38㉒　暗褐色土	石鏃		チャート	1.2	欠損
187			Ⅳ区	GA44㉑	二次加工ある剥片			6.1	
188			Ⅳ区	GA44㉒　Ⅳa層	二次加工ある剥片			6.5	
189			Ⅳ区	GA46③（FJ46-02住）	二次加工ある剥片		チャート	12.1	
190			Ⅳ区	FJ44⑤	二次加工ある剥片			6.6	
191			Ⅳ区	FJ46③（FJ46-02住）	二次加工ある剥片			17.6	
192			Ⅳ区	FJ46③（FJ46-02住）12層	二次加工ある剥片		チャート	3.6	
193			Ⅳ区	表土	二次加工ある剥片			4.2	
194			Ⅳ区	表土	二次加工ある剥片		チャート	18.3	
195			Ⅳ区	表土	二次加工ある剥片		チャート	7.0	

No. 表	No. 図	No. 写図	調査区	出土地点・層位	器　種	分　類	石　質	重量(g)	備　　考
196			Ⅳ区	GB44トレンチ　2	二次加工ある剥片		チャート	2.8	
197			Ⅳ区	76　確認面	二次加工ある剥片			7.8	
198			Ⅳ区	FJ46-02住　13層	二次加工ある剥片		チャート	2.5	
199			Ⅳ区	FJ46-02住　E-E′　20層	二次加工ある剥片		チャート	2.3	
200			Ⅳ区	FJ46-02住　9a 層	二次加工ある剥片			5.5	
201			Ⅳ区東トレンチ	GE56-02住　埋土	二次加工ある剥片			1.5	
202			Ⅳ区東トレンチ	GE56-02住　埋土	二次加工ある剥片			1.4	
203			Ⅳ区東トレンチ	GF56-01住　1層	二次加工ある剥片		硬質頁岩	1.6	
204			Ⅳ区東トレンチ	GF56-01住　1層	二次加工ある剥片		チャート	4.7	
205			Ⅳ区東トレンチ	GF56-01住　埋土中位	二次加工ある剥片			10.0	
206			Ⅳ区西トレンチ1	FE38　1回目	二次加工ある剥片			1.0	
207			Ⅳ区西トレンチ1	FE38㉙・㊴　1回目	二次加工ある剥片		チャート	20.4	付着物あり
208			Ⅳ区西トレンチ1	FE38㉙　3回目	二次加工ある剥片		チャート	0.6	
209			Ⅳ区西トレンチ1	FE38㉙　5～6回目	二次加工ある剥片		チャート	5.2	被熱
210			Ⅳ区西トレンチ1	FE38㉒・㉓（FE38-01住）	二次加工ある剥片		チャート	2.5	
211			Ⅳ区西トレンチ1	FF38④・⑤　2回目	二次加工ある剥片		チャート	17.8	
212			Ⅳ区西トレンチ1	FF38　④・⑤・⑨・⑪　2回目	二次加工ある剥片		チャート	6.5	
213			Ⅳ区西トレンチ1	FF38　4回目	二次加工ある剥片			4.5	
214			Ⅳ区西トレンチ1	FE38　1層下	二次加工ある剥片		チャート	1.7	
215			Ⅳ区西トレンチ1	FE38　1層下	二次加工ある剥片		チャート	4.5	
216			Ⅳ区西トレンチ1	FE38　1層下	二次加工ある剥片		チャート	2.3	
217			Ⅳ区西トレンチ1	FF38　1層下	二次加工ある剥片			4.1	
218			Ⅳ区西トレンチ1	FF38　1層下	二次加工ある剥片			3.6	
219			Ⅳ区西トレンチ1	FF38　1層下	二次加工ある剥片		チャート	15.1	
220			Ⅳ区西トレンチ1	1層下	二次加工ある剥片		チャート	58.4	
221			Ⅳ区西トレンチ1	1層下	二次加工ある剥片		チャート	3.3	
222			Ⅳ区西トレンチ1	1層下	二次加工ある剥片			14.8	
223			Ⅳ区西トレンチ1	1層下	二次加工ある剥片		チャート	5.6	
224			Ⅳ区西トレンチ1	1層	二次加工ある剥片		チャート	15.5	
225			Ⅳ区西トレンチ2	FE34　3層	二次加工ある剥片			3.9	
226			Ⅳ区西トレンチ2	FE34　2層	二次加工ある剥片		チャート	2.6	
227			Ⅳ区西トレンチ2	FE36　Ⅱd 層	二次加工ある剥片		チャート	4.6	
228			Ⅳ区	GA46　サブトレンチ1-2（FJ46-02住）	使用痕ある剥片		チャート	2.9	
229			Ⅳ区	GA46① （FJ46-02住）	使用痕ある剥片		チャート	4.9	
230			Ⅳ区	FJ44㊾	使用痕ある剥片		チャート	2.5	
231			Ⅳ区	81　確認面	使用痕ある剥片		チャート	11.7	アスファルト？付着
232			Ⅳ区	埋め戻し土	使用痕ある剥片		チャート	15.9	
233			Ⅳ区南側拡張部	表土	使用痕ある剥片		チャート	13.7	
234			Ⅳ区東トレンチ	GE56　Q4　1～2層	使用痕ある剥片		チャート	3.8	

No. 表	No. 図	No. 写図	調査区	出土地点・層位	器　種	分　類	石　質	重量(g)	備　　考
235			Ⅳ区西トレンチ1	FE38　㉕・㉖　1回目	使用痕ある剥片		チャート	1.9	
236			Ⅳ区西トレンチ1	FE36　Ⅰ層下	使用痕ある剥片		チャート	4.0	付着物あり
237			Ⅳ区西トレンチ1	FE36　Ⅰ層下	使用痕ある剥片		チャート	5.5	
238			Ⅳ区西トレンチ1	FE36　Ⅰ層下	使用痕ある剥片		チャート	3.9	
239			Ⅳ区西トレンチ1	Ⅰ層	使用痕ある剥片		チャート	9.8	
240			Ⅳ区西トレンチ2	Ⅱ層	使用痕ある剥片		チャート	6.5	
241			Ⅳ区	76　確認面	剥片			5.5	アスファルト付着
242			Ⅳ区	FJ46-02住　A-A’5a③層	楔形石器		チャート	3.3	
243			Ⅳ区東トレンチ	GE56　Q3・4　2層	楔形石器		チャート	3.5	
244			Ⅳ区西トレンチ1	FE38㉕・㉖　1回目	楔形石器		チャート	3.6	
245	37-17		Ⅳ区西トレンチ2	FE36　Ⅱd層	楔形石器		チャート	4.0	
246			配石トレンチ	FH50-01住　黒色土層	楔形石器		チャート	13.5	
247			Ⅳ区	FI46配石	磨製石斧		頁岩	3.3	刃部片
248		20-5	Ⅳ区	FJ46-03住　5層　S-3	敲磨器類	敲石Ⅰ	花崗岩	1220.0	片側の側面～端部に敲打痕
249	38-20	20-3	Ⅳ区	GB44トレンチ　2の②	敲磨器類	敲石Ⅰ	砂岩	180.0	1/2欠損
250	38-21	20-1	Ⅳ区西トレンチ2	Ⅰ層	敲磨器類	敲石Ⅱ	頁岩	66.0	1/2欠損
251	38-22	20-2	Ⅳ区	FI46配石	敲磨器類	敲石Ⅲ	頁岩	190.0	一部欠損
252		20-4	Ⅳ区	FJ44-01住　7a層　S-1	敲磨器類	敲石Ⅲ	安山岩	260.0	端部片面に敲打痕　1/2欠損
253		20-7	Ⅳ区	GA46④	敲磨器類	敲石Ⅲ	砂岩	360.0	両面の端部に敲打痕　一部欠損
254		20-6	Ⅳ区西トレンチ2	層位不明	敲磨器類	敲石Ⅲ	砂岩	510.0	端部に敲打痕
255	38-23	20-8	Ⅳ区	表採	敲磨器類	敲石Ⅳ	安山岩	410.0	
256			Ⅳ区東トレンチ	GF56-01住　S-2	敲磨器類	敲石Ⅳ	安山岩	42.0	1/2欠損
257			Ⅳ区東トレンチ	撹乱	敲磨器類	敲石Ⅳ	凝灰岩	54.0	
258			Ⅳ区	埋め戻し土	敲磨器類	敲石Ⅳ	砂岩	108.0	
259			Ⅳ区	埋め戻し土	敲磨器類	敲石Ⅳ？	安山岩	118.0	破片
260			Ⅳ区	GA44③　Ⅳa層上位	敲磨器類	敲石	頁岩		破片のため分類不明
261	38-24	19-24	Ⅳ区	FJ46-02住　床直	敲磨器類	磨石	安山岩	1000.0	
262		19-18	Ⅳ区	FJ46-03住　5層	敲磨器類	磨石	安山岩	94.0	
263		19-22	Ⅳ区	GB44トレンチ　7	敲磨器類	磨石	砂岩	800.0	付着物あり
264			Ⅳ区	21　確認面	敲磨器類	磨石	安山岩	740.0	
265			Ⅳ区	2　確認面　S-1	敲磨器類	磨石	安山岩	820.0	欠損、黒化（変色）
266	38-25	19-20	Ⅳ区	表採	敲磨器類	磨石	安山岩	420.0	赤色顔料付着
267		19-21	Ⅳ区東トレンチ	GE56　S-1	敲磨器類	磨石	安山岩	900.0	
268	38-26	19-19	Ⅳ区西トレンチ1	FE38　S-9	敲磨器類	磨石	安山岩	172.0	ヒビ
269			Ⅳ区西トレンチ1	FE38　S-12	敲磨器類	磨石	砂岩	614.0	
270		19-23	Ⅳ区西トレンチ1	FE38　S-17	敲磨器類	磨石	安山岩	774.0	
271			Ⅳ区西トレンチ1	FF40　⑦⑧⑨	敲磨器類	磨石	安山岩	630.0	欠損
272			Ⅳ区西トレンチ2	FE36　S-1　Ⅲ層上の暗褐色土層	敲磨器類	磨石	安山岩	262.0	欠損
273		20-12	Ⅳ区	FH48　S-4	敲磨器類	凹石	安山岩	716.0	焼けている（黒く変色、ヒビ割れ）

No. 表	図	写図	調査区	出土地点・層位	器　種	分　類	石　質	重量(g)	備　　考
274			Ⅳ区	FH48　S-1	敲磨器類	凹石	安山岩	1100.0	
275		20-14	Ⅳ区	FJ483⑪	敲磨器類	凹石	安山岩	440.0	
276			Ⅳ区	FJ46-02住　5層　S-1	敲磨器類	凹石	安山岩	360.0	
277			Ⅳ区	表採	敲磨器類	凹石	砂岩	628.0	
278	38-27	20-13	Ⅳ区東トレンチ	GF56-01住　S-1	敲磨器類	凹石	砂岩	156.0	一部欠損
279	38-29	20-10	Ⅳ区東トレンチ	GE56-01住　A-A' ベルト2a層	敲磨器類	凹石	凝灰岩	192.0	
280		20-11	Ⅳ区東トレンチ	GE56　Q3・4　1～2層	敲磨器類	凹石	砂岩	700.0	変色
281		20-9	Ⅳ区西トレンチ1	FE38　S-6	敲磨器類	凹石	砂岩	534.0	
282			Ⅳ区西トレンチ1	FE38　S-18	敲磨器類	凹石	砂岩	270.0	
283			Ⅳ区西トレンチ2	層位不明	敲磨器類	凹石	安山岩	596.0	ヒビ、一部黒く変色
284			配石トレンチ	FH　S-1	敲磨器類	凹石	安山岩	644.0	一部欠損
285			Ⅳ区	FH48-02住　1層	敲磨器類	敲石＋凹石	砂岩	346.0	
286		21-8	Ⅳ区	FI46　S-1	敲磨器類	敲石＋凹石	安山岩	900.0	ヒビ割れ
287		21-5	Ⅳ区	FJ46-02住　9c層　S-1	敲磨器類	敲石＋凹石	砂岩	520.0	
288		21-2	Ⅳ区東トレンチ	GE56	敲磨器類	敲石＋凹石	安山岩	140.0	
289		21-7	Ⅳ区東トレンチ	GE56　S-3	敲磨器類	敲石＋凹石	安山岩	628.0	ヒビ　一部欠損
290		21-6	Ⅳ区東トレンチ	GE56-01住　A-A' ベルト2a層　S-2	敲磨器類	敲石＋凹石	砂岩	582.0	ヒビあり
291		21-4	Ⅳ区西トレンチ1	FE38　S-7	敲磨器類	敲石＋凹石	安山岩	240.0	焼けている（変色、欠損）
292	38-28	21-1	Ⅳ区西トレンチ1	FE38⑲　2回目　S-13	敲磨器類	敲石＋凹石	凝灰岩	94.0	小形　ヒビ
293	38-30	21-3	Ⅳ区西トレンチ1	FE38　S-15	敲磨器類	敲石＋凹石	頁岩	126.0	小形　ヒビ
294	39-31	21-10	Ⅳ区	FH463　S-1	敲磨器類	敲石＋磨石	安山岩	382.0	一部黒化（変色）
295		21-13	Ⅳ区	FJ46-03住　5層	敲磨器類	敲石＋磨石	砂岩	578.0	
296		21-11	Ⅳ区	FJ46-03住　3層	敲磨器類	敲石＋磨石	砂岩	416.0	
297		21-12	Ⅳ区	南側拡張部　S-1	敲磨器類	敲石＋磨石	安山岩	380.0	
298		21-9	Ⅳ区	FH48　S-2	敲磨器類	磨石＋凹石	安山岩	266.0	ヒビ割れ
299			Ⅳ区	FI46配石　S-2	台石？		砂岩	3300.0	赤色顔料？付着
300			Ⅳ区東トレンチ	GF56-01住　床直　S-1	台石？		砂岩	2240.0	赤く変色（被熱）
301	39-34		Ⅳ区西トレンチ1	FE38　S-4	台石		安山岩	2040.0	
302			Ⅳ区西トレンチ1	FE38　S-11	台石？		安山岩	3960.0	
303			Ⅳ区西トレンチ2	層位不明	台石？		砂岩	1120.0	
304		22-2	Ⅳ区西トレンチ1	FE38　S-2（FE38-02住）	砥石		安山岩	1860.0	
305	38-32		Ⅳ区	35a　確認面	方刃礫器		安山岩	100.0	破片
306	38-33		Ⅳ区	FJ44⑲	両刃礫器		粘板岩	100.0	付着物あり
307		22-3	Ⅳ区	FH48トレンチ　S-3	蜂の巣石		安山岩	1000.0	アスファルト付着
308		22-4	Ⅳ区西トレンチ2	層位不明	不明		安山岩	290.0	
309			Ⅳ区	FJ46-02住　A-A' 3層	両面加工石器		チャート	5.0	半両面加工
310			Ⅳ区	FJ46-02住　A-A' 3層	両面加工石器		チャート	15.1	半両面加工
311			Ⅳ区	FJ46-02住　A-A' 7層	両面加工石器		チャート	1.3	半両面加工
312			Ⅳ区	FJ46-02住　A-A' 7層	使用痕ある剥片		チャート	30.4	

No. 表	図	写図	調査区	出土地点・層位	器　種	分　類	石　質	重量(g)	備　考
313			Ⅳ区	FJ46-02住　8層	二次加工ある剥片		チャート	18.7	
314			Ⅳ区	FJ46-02住　11層	スクレイパー			1.2	破片
315			Ⅳ区	FJ46-02住　12層	石鏃未製品			0.6	
316			Ⅳ区	FJ46-02住　12層	楔形石器		チャート	4.6	破片
317			Ⅳ区	FJ46-02住　13層	両面加工石器		チャート	20.8	半両面加工
318			Ⅳ区	FJ46-02住　13層	両面加工石器		チャート	3.4	被熱　破片
319			Ⅳ区	GA44　⑫	石核		チャート	81.4	
320			Ⅳ区	77　確認面	石核		チャート	43.9	
321			Ⅳ区東トレンチ	GF56-01住	石核		チャート	45.9	
322			Ⅳ区西トレンチ1	FE36　Ⅰ層下	石核		チャート	40.0	
323			Ⅳ区西トレンチ1	Ⅰ層	石核		チャート	61.1	
324			Ⅳ区西トレンチ2	FE36　Ⅱd層	石核		チャート	159.7	
325			Ⅳ区西トレンチ2	FE36　Ⅱc層	石核		チャート	39.5	
326	39-35	22-1	Ⅳ区	FI46配石	石棒		安山岩	4520.0	

第５表　石器観察表（２）

No. 表	図	調査区	出土地点・層位	器　種	分　類	石　質	重量(g)	備　考
1		縄文の森	1トレンチ 表採	石鏃	Ⅲ	チャート	0.8	被熱　欠損あり
2		縄文の森	1トレンチ	石鏃未製品		チャート	1.2	Ⅱの未製品
3	40-23	縄文の森	6トレンチ	石匙	縦型	頁岩	17.2	
4		縄文の森	1トレンチ	スクレイパー		頁岩	7.3	
5		縄文の森	1トレンチ	二次加工のある剥片		チャート	4.2	
6		縄文の森	1トレンチ 表採	石核		チャート	109.3	
7		縄文の森	1トレンチ 表採	石核		チャート	75.2	
8	40-24	縄文の森	1トレンチ 表採	敲磨器類	磨石	安山岩	700.0	
9	40-25	縄文の森	6トレンチ S-1	敲磨器類	磨石	砂岩	840.0	付着物あり
10		縄文の森	1トレンチ 表採	敲磨器類	凹石	安山岩	350.0	欠損　2面に凹痕
11		縄文の森	6トレンチ S-2	敲磨器類	凹石	安山岩	1280.0	欠損　2面に凹痕
12		縄文の森	1トレンチ 表採	敲磨器類	敲石＋凹石	安山岩	396.0	
13	40-26	縄文の森	6トレンチ 黒色土	敲磨器類	敲石＋凹石	礫岩	330.0	3面に凹痕

第６表　FJ46-02竪穴住居跡出土剥片・チップ分類表

凡例　①ポイントフレーク　②剥片　③小剥片
④チップ（バルブあり）　⑤チップ（バルブなし）
⑥剥片片　⑦石片

袋No.	層名	石質	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
1	A-A' 1層	灰褐頁岩			1	1			
		黒褐メノウ							
		茶メノウ							
		黄灰メノウ				1			
		白メノウ							
		褐メノウ				1			
		灰褐メノウ				1			
		灰メノウ					1		
2	1層	黄灰メノウ						1	
		茶メノウ						1	
		黒褐メノウ			1				
		灰褐頁岩						2	
		白メノウ						3	
3	A-A' 2層	灰褐頁岩				1			
		茶メノウ					1		
		灰褐頁岩					1		
4	2層	灰白頁岩				5			
		灰褐頁岩	1						
		茶メノウ		1					
		灰褐頁岩			1				
		茶メノウ					1		
		茶メノウ				2			
		焼メノウ					1		
		褐頁岩					4		
		灰褐頁岩				5	7		
		褐頁岩				1			
5	A-A' 3層	焼メノウ				1	2		
		灰白メノウ				5			
		茶メノウ		1	2	3	2	1	
		褐頁岩				9		1	
		灰黄メノウ				2			
		灰褐頁岩	3			14	18		
		灰褐メノウ				2			
		灰メノウ				2			
		暗褐頁岩				1			
		スレート							2
		灰チャート			1	1			
		黄灰メノウ							
6	A-A' 3層	茶メノウ				2	1		
		灰褐頁岩				1			
59	A-A' 4層	メノウ			3	11			
		緑茶メノウ							2
		頁岩			2	21			
		石質不明					5		
7	A-A' 5a層	灰褐メノウ					1		
		灰褐頁岩	1						
		黒褐頁岩				1			
		褐頁岩				1			
8	A-A' 5a層	黒褐頁岩				1			
		褐頁岩				1			
		灰褐頁岩			1	2	1		1
		茶メノウ	1			2	4	1	
		灰褐メノウ							1
		黄褐メノウ			1				

袋No.	層名	石質	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
9	A-A' 5a層	灰褐頁岩				1			
		灰白					1		
		スレート							1
		灰褐メノウ					1		
10	A-A' 5b層	褐頁岩					1		
		灰褐頁岩				2			
11	A-A' 5b層	暗褐頁岩				1	1		
		焼メノウ				1	1		
		灰褐頁岩	1			5	2		
		茶メノウ	2		1				1
		褐頁岩			1				
12	A-A' 5b層	灰褐メノウ	1						
		褐頁岩			1				
		灰チャート				1			
		暗黒褐メノウ				1			1
60	5b層	黒褐頁岩	1				1		
		灰チャート	1						
		灰褐頁岩	1			1			
13	A-A' 6a層	赤化メノウ				1			
		メノウ				1			
		褐メノウ						1	
		灰褐頁岩				7	2	1	
		灰メノウ				1			
		黒褐頁岩						2	
		灰白メノウ						1	
61	A-A' 6a層	茶メノウ				1			
14	A-A' 6b層	暗褐頁岩				7	6		
		茶メノウ	2		1	6	3		
		灰褐頁岩	1		1	8	6	1	
		黄灰メノウ						1	
		灰チャート			1			1	
		灰白メノウ					1		
		灰褐メノウ			3	3	1		
		黒褐頁岩	1					1	
		黒褐メノウ	2						
		褐頁岩			1				
		灰白頁岩					1		
		結板岩						1	
		石質不明							2
15	A-A' 6b層	灰褐頁岩			1				
		褐頁岩					1		
16	A-A' 6b層下	褐頁岩			1	2			
19	A-A' 7層	暗褐頁岩				8	1		
		玉髄				1			
		灰チャート				1			
		灰褐頁岩				6	1		
20	A-A' 7層	焼メノウ						1	
		灰メノウ				1			
		暗褐頁岩				1	1		
		灰褐頁岩				1	3		
65	A-A' 7層	焼メノウ			2		1		
		灰褐メノウ					1		
		灰褐頁岩					2		
		黒褐頁岩				4			

袋No.	層名	石質	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		茶メノウ	1						
17	A-A' 7層	灰褐メノウ	1			1	1		
		茶メノウ				2	1		
		暗褐頁岩			3	4			
		灰褐頁岩				8	6		
		焼(茶)メノウ				2			
		黄灰メノウ							1
		灰白メノウ	2			1			
18	A-A' 7層	灰チャート				1			
		茶メノウ				2	1		
		灰黄メノウ				1			
		灰褐頁岩	3			5	4		
		暗褐頁岩					2		
		褐頁岩				1			
62	A-A' 7層	茶メノウ							
63	A-A' 7層	黒褐頁岩				1			
64	A-A' 7層	灰褐頁岩			1				
70	A-A' 7層	灰褐頁岩			1				
21	A-A' 8層	褐頁岩				5	1		
		茶メノウ				1			
		暗褐頁岩						1	
		焼メノウ					1		
22	8層	灰メノウ				1	5		
		灰白メノウ				1			
		茶メノウ					3		
		灰黄メノウ			1	1	1		
		褐メノウ				1			
		焼メノウ				2	2		
		灰褐頁岩	6		1	46	53		
		褐頁岩	1			16	7		
		黄褐メノウ			1				
23	8層	焼メノウ					1	1	
		灰褐頁岩				1			
		暗褐頁岩				1			
24	8層	茶メノウ						2	
		灰白メノウ				1	1		
		褐頁岩	1			5	2		
		灰褐頁岩	3			18	31		
		暗褐頁岩	3			11	1		
66	A-A' 8層	黒褐頁岩				2			
67	8層	メノウ			1				
		頁岩			17				
		石質不明	9	1			8		
25	9層上	灰褐頁岩	19		9	19	17	4	
		黒褐頁岩	5		4	13	15	2	
		茶緑メノウ		1					
		茶メノウ			1				
		灰頁岩				1			
		赤化メノウ				2			
26	9層上	白灰メノウ				1			
		灰褐頁岩	1		1	4	2		
		茶メノウ						1	
		灰黄メノウ						1	
		褐メノウ					2		
27	9層上	灰緑メノウ				1			
		茶メノウ				1	2		
		灰メノウ					1		
		褐茶メノウ					1	1	
		黒褐頁岩				8	10		
		灰頁岩				2	1		

袋No.	層名	石質	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		灰褐頁岩				23	9		
68	9a層	灰褐頁岩				2			
69	9a層	赤化メノウ					1		
		灰茶緑メノウ		1					
		黒褐頁岩			1	4		2	
		灰褐頁岩					2		
		暗褐頁岩					1		
		玉髄			1				
71	9b層	黒褐頁岩					1		
72	9c層	灰メノウ				2			
		メノウ			2				
		黒メノウ						1	
		焼メノウ							2
73	9c層	茶メノウ				2	2		
		灰茶メノウ					4		
		灰褐頁岩	4	1	1	12	11		
		黒褐メノウ				2			
		灰頁岩				3			
		灰茶メノウ				1			
		黒褐頁岩	3			11	17		
		灰褐メノウ			1				
		灰茶緑メノウ		1					
		焼メノウ			1				
74	9d層	黒褐頁岩			1				
75	9d層	茶メノウ		1					
76	9d層	緑緑メノウ							1
28	9層下	灰褐頁岩	3		1	1			
29	9層下	灰褐頁岩				6			
		暗褐頁岩				1			
		灰黄メノウ				1			
		茶メノウ				2			
30	10層	茶メノウ				3	2		
		灰褐頁岩	1		1	5	4		
		灰白メノウ				1			
		黄灰メノウ					1		
		暗褐頁岩				2	2		
		暗褐メノウ				1			
		灰頁岩				1			
		灰白頁岩						1	
		褐頁岩				3	4		
31	10層	灰褐頁岩				1			
32	11層	灰チャート				1			
		灰褐頁岩				23	2		
		焼メノウ				3	1		1
		茶メノウ				6	1		1
		暗褐頁岩	1		1	1	1		
		灰白メノウ				1	1		
		黄灰メノウ			1	1			
		暗褐メノウ				1		1	
		褐頁岩				2			
		灰メノウ				1			
33	12層	灰褐メノウ				1	1		
		褐メノウ	1						
		灰褐頁岩	1						
		茶メノウ				1			
34	12層	褐頁岩				1			
35	12層	白メノウ		1				1	
		茶メノウ		1					1
		メノウ				1			
		赤化メノウ			1				

袋No.	層名	石質	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		褐頁岩			1				
		暗褐頁岩		1					
		灰褐頁岩	1						
		黒褐頁岩	1						
36	12層	茶メノウ	1	1	3	10	5	2	
		灰褐メノウ				9	2		
		灰白メノウ		1				2	
		灰黄メノウ				3			
		褐メノウ							1
		焼メノウ				2		2	
		灰チャート	1			3	1	1	
		灰白頁岩				5		1	
		灰褐頁岩	7			36	21	9	
		暗褐頁岩				11	3		
		黒褐頁岩	3						
		褐頁岩		1	4			1	
77	12層	灰黄メノウ		1					
84	P-9（12層）	灰褐頁岩		1					
37	13層	黄灰メノウ			1				
		灰白メノウ		1	2				
		焼(茶)メノウ	2			1			
38	13層	茶メノウ			1				
		灰白メノウ						1	
		褐メノウ				1			
		黒褐メノウ						1	
		黄灰メノウ						1	
		灰チャート	1						
		褐頁岩		1					
		灰褐頁岩	4			4		1	
39	13層	灰白メノウ						1	
		茶メノウ	1			1			
		灰メノウ		3					
		灰褐頁岩		1					
		褐頁岩		3					
40	13層	黒メノウ		1					
		灰白メノウ		1					
		茶緑メノウ		1					
		黄緑メノウ		1					1
		褐メノウ		1					
		茶メノウ		1					1
		灰褐頁岩						4	
78	15層	黄茶メノウ				1			
		茶メノウ			1				
79	15層	黒褐メノウ					2		
		黒褐頁岩				1			
		灰白頁岩				1			
41	D-D' 2層	茶メノウ					1		
		灰黄メノウ					1		
		暗褐メノウ				1			
		灰白メノウ				1			
		灰褐頁岩				5	8		
		暗褐頁岩				1			
42	D-D' 5層	褐頁岩				1			
		灰褐頁岩				1			
43	D-D' 5層	茶メノウ	1		1	2	1		1
		褐頁岩	1			1	2		1
		灰褐頁岩			2	3	3		
		暗褐頁岩				2			
44	D-D' 6層	灰褐頁岩				2	1		
		灰メノウ					3		

袋No.	層名	石質	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
45	D-D' 6層	灰褐頁岩			1	3			
		灰メノウ				3			
		暗褐頁岩				3			
		褐頁岩					2		
		褐メノウ					2		
		茶メノウ				1			
46	D-D' 7層	白メノウ				1			
		灰メノウ				1	1		
		茶メノウ	2				1		
		褐頁岩			1	3	7		
		灰褐頁岩				2	5		
48	D-D' 10層	灰褐頁岩				1	2		
		茶メノウ					1		
		灰白メノウ					1		
47	D-D' 11層	灰メノウ					1		
		灰褐メノウ				1			
		焼メノウ					1		
		暗褐メノウ				1			
		褐頁岩						1	
		灰チャート			1				
		灰白頁岩				1			
		茶メノウ	1						
		灰褐頁岩	1			4	1		
49	D-D' 12層	茶メノウ				1			
50	D-D' 12層	黒褐メノウ				2			
		黄灰メノウ						1	
		灰褐頁岩				3		1	
		茶メノウ				1			
		褐メノウ				1			
51	D-D' 16層	灰メノウ				1			
52	D-D' 17層	褐頁岩	1						
		灰褐頁岩				1		1	
53	D-D' 22層	スレート							1
		白メノウ				1			
		黒褐メノウ						1	
		茶メノウ				1			
		褐頁岩				1			
		灰チャート				1	3		
		灰褐頁岩				6	4		
83	D-D' 22層	石質不明				1			
54	E-E' 5層上	灰褐頁岩			2			1	
		茶メノウ			2				
		焼メノウ			1	1			
		褐頁岩				1			
55	E-E' 16層	灰メノウ				2	1		
		灰チャート				1			
		灰褐頁岩			1	6			
		褐頁岩				1	2		
		茶メノウ				1	1		
56	E-E' 17層	灰白メノウ				1			
		灰白頁岩				1			
		灰褐頁岩				6	1		
		灰メノウ				1			
		茶メノウ	1						
		灰褐頁岩	1		1				
80	E-E' 17層	灰褐頁岩		1					
		茶メノウ							1
81	E-E' 18層	褐メノウ						1	
		灰褐頁岩	1						
57	E-E' 18層	灰黄メノウ			1				

袋No.	層名	石質	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		灰白メノウ						1	
		灰チャート				1		1	
		白メノウ			1				
		灰褐頁岩			1	9	2		
		褐頁岩	1			2		1	
		茶メノウ	2			2			
		灰褐メノウ	1						
		黒褐メノウ	1						
		暗褐頁岩				6	2		
		灰黄メノウ				1			
82	E-E' 19層	灰褐頁岩				1			
58	E-E' 20層	黄灰メノウ	2		1				

袋No.	層名	石質	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		茶メノウ				1		1	
		白メノウ			1				
		灰チャート				2		1	
		黒褐メノウ						1	
		褐頁岩	3			1		2	
		灰褐頁岩				1	3		
		暗褐メノウ				2			
		焼メノウ					1		
85	層位なし	灰緑茶メノウ		1					
86	埋土	灰褐頁岩				3			
	合計		130	33	112	711	439	82	25

第7表　FJ46-02竪穴住居跡出土剥片・チップ集計表

凡例　①ポイントフレーク　②剥片　③小剥片
④チップ（バルブあり）　⑤チップ（バルブなし）
⑥剥片片　⑦石片

層名	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	合計
A-A' 1層	0	0	2	4	1	7	0	14
A-A' 2層	1	1	1	14	15	0	0	32
A-A' 3層	3	1	3	43	23	2	2	77
A-A' 4層	0	0	5	32	5	0	2	44
A-A' 5a層	2	0	2	9	8	1	3	25
A-A' 5b層	7	0	3	12	6	0	2	30
A-A' 6a層	0	0	0	11	2	5	0	18
A-A' 6b層	6	0	8	24	19	5	2	64
A-A' 6b層下	0	0	1	2	0	0	0	3
A-A' 7層	7	0	7	52	25	1	1	93
A-A' 8層	23	1	21	113	117	4	0	279
A-A' 9層上	25	1	15	75	60	9	0	185
A-A' 9a層	0	1	2	6	4	2	0	15
A-A' 9b層	0	0	0	0	1	0	0	1
A-A' 9c層	7	2	5	33	34	1	2	84
A-A' 9d層	0	1	1	0	0	0	1	3
A-A' 9層下	3	0	1	11	0	0	0	15
A-A' 10層	1	0	1	17	13	1	0	33
A-A' 11層	1	0	2	40	6	1	2	52
12層	16	8	9	83	33	19	2	170
13層	8	15	4	7	0	9	2	45
15層	0	0	1	3	2	0	0	6
D-D' 2層	0	0	0	8	10	0	0	18
D-D' 5層	2	0	3	10	6	0	2	23
D-D' 6層	0	0	1	12	8	0	0	21
D-D' 7層	2	0	1	7	14	0	0	24
D-D' 10層	0	0	0	1	4	0	0	5
D-D' 11層	2	0	1	7	3	1	0	14
D-D' 12層	0	0	0	8	0	2	0	10
D-D' 16層	0	0	0	1	0	0	0	1
D-D' 17層	1	0	0	1	0	1	0	3
D-D' 22層	0	0	0	11	7	1	1	20
E-E' 5層上	0	0	5	2	0	1	0	8
E-E' 16層	0	0	1	11	4	0	0	16
E-E' 17層	2	1	1	9	1	0	1	15
E-E' 18層	6	0	3	21	4	4	0	38
E-E' 19層	0	0	0	1	0	0	0	1
E-E' 20層	5	0	2	7	4	5	0	23
層位なし	0	1	0	0	0	0	0	1
埋土	0	0	0	3	0	0	0	3
合計	130	33	112	711	439	82	25	1532